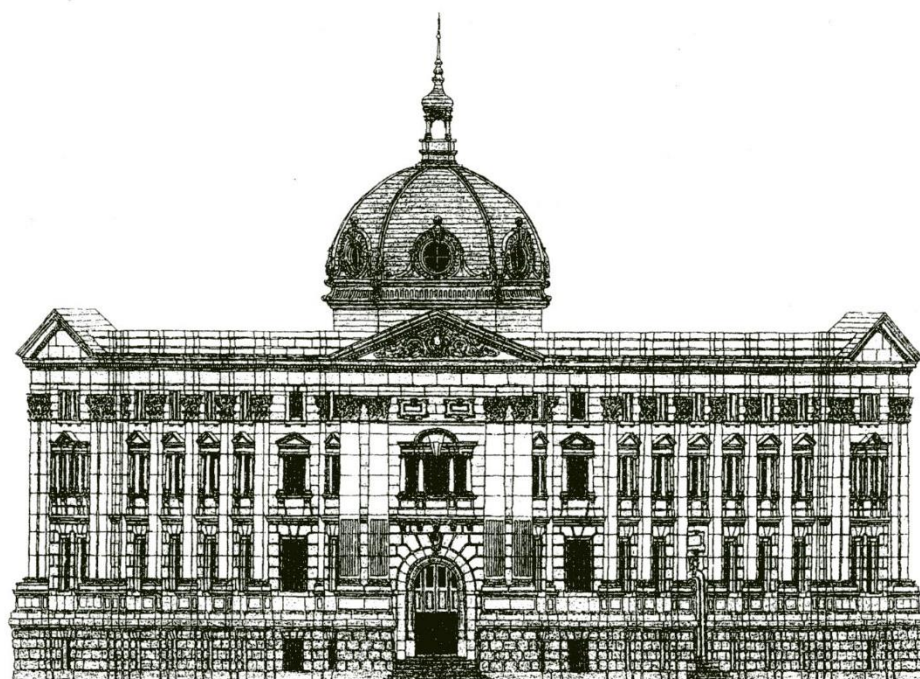


神奈川県立歴史博物館年報

令和5年度



神奈川県立歴史博物館

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きをみせる中で、令和5年度の神奈川県立歴史博物館は、ほぼ制限や規制をかけることなく活動することができました。

展示活動は、常設展の他に特別展を3回、特別陳列を1回、コレクション展を1回開催しました。

特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」は、室町時代の画僧祥啓が描いた山水図や花鳥図、人物図を一堂に会し、祥啓の次世代の画家たちの作品群もあわせて展示した、祥啓一人にフォーカスするはじめての展覧会でした。この特別展の図録は、優れた研究図録と評価され、同年、國華展覧会図録賞を受賞しました。

特別展「関東大震災—原点は100年前—」は、1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災の被害を振り返るとともに、復興の過程や現在につながる都市の骨格が形作られたことを紹介しました。発災から100年目の節目に、関東大震災をくぐり抜けてきた生き証人である、当館旧館部分の旧横浜正金銀行本店本館で資料を展示する意義に多くの反響がありました。

特別展「足柄の仏像」は、足柄地域の仏像を紹介する当館では初となる特別展で、令和2年に開催した「相模川流域のみほとけ」に続く神奈川県の彫刻を地域別に紹介する展覧会でした。国指定重要文化財の彫刻3件4軀、神奈川県指定重要文化財の彫刻13件28軀を含む約80件の仏像・神像・肖像彫刻・仮面を一堂に公開する貴重な機会となりました。

特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」は、江梨鈴木家文書をはじめとする北条氏関連文書などを展示し、戦国大名北条氏が直轄統治した地域の様相を紹介しました。

コレクション展「藤助さんと幕末」は、鈴木快輔家資料群の紹介と「鈴木藤助日記」の修復・撮影終了報告を兼ねた展示を行いました。

一方、各学芸員は専門分野の調査研究活動を着実に進め、その成果を展示に反映させるとともに「神奈川県立博物館研究報告—人文科学—」をはじめとした様々な媒体により発表しました。

また、学習支援活動では、特別展の関連行事や展示解説、講演会や見学会、出張講座や学校団体の受入などを実施し、さまざまな世代、目的の来館者に生涯学習の場を提供しました。併せて、遠隔の地にいる人々にも等しく学びの機会を提供するため、「神奈川県立歴史博物館デジタルアーカイブ」を公開し、デジタルコンテンツを通じた情報発信に取り組みました。加えて、ミュージアムライブラリーでは、図書の整備や、利用者一人ひとりに寄り添ったきめ細やかなレファレンスサービスを通じて情報提供を行い、来館者の学びを支援しました。

さらに、当館の運営に不可欠なボランティアの方々には、コロナ禍で休止していた常設展や特別展の展示解説を再開し、観覧者サービスの向上に寄与いただきました。

令和2年から約3年におよぶコロナ禍は、休館や事業の中止、入場制限など一時的に活動の縮小を余儀なくされた一方で、博物館の基本的な機能である資料の収集、保管、活用、調査研究に加え、人びとと知の楽しみを分かち合うという大切な役割を改めて認識した時間でもありました。当館は、地域における社会教育と文化振興を担う施設として、今後も皆様に必要とされる存在であり続けるよう、魅力ある博物館活動に邁進してまいります。

神奈川県立歴史博物館

目次

はじめに

1 沿革・理念

- (1) 沿革…………… 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念…………… 4
- (3) 神奈川県立歴史博物館の運営方針…………… 5
- (4) 神奈川県立歴史博物館の今後の取組…………… 5

2 管理運営

- (1) 組織…………… 7
 - ア 組織及び分掌
 - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出…………… 8
 - ア 歳入
 - イ 歳出
- (3) 入館者状況…………… 8
 - ア 入館者数
 - イ 有料入館者内訳
 - ウ 無料入館者内訳
 - エ 特別展の入館者状況
- (4) 広報・広聴…………… 10
 - ア 広報実績
 - イ ホームページアクセス件数
 - ウ SNS 投稿数・フォロワー数
- (5) 事業評価…………… 10
 - ア 各目標値及び評価指標の達成状況
 - イ 総括
- (6) 施設概要…………… 11
 - ア 概要
 - イ 館内施設
 - ウ 館外施設
 - エ 外部協力
 - オ 平面図

3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの…………… 15
 - ア 総合研究
 - イ 連携研究
 - ウ 個別研究
 - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの…………… 20
- (3) その他外部研究資金によるもの…………… 22
- (4) 個人研究活動…………… 22
 - ア 研究報告書
 - イ 個人研究活動

4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料…………… 35
- (2) 歴史資料…………… 36
- (3) 美術資料…………… 39
- (4) 民俗資料…………… 50
- (5) 写真資料…………… 51
- (6) 資料の燻蒸等…………… 51
- (7) その他資料の利用…………… 52
 - ア 図書
 - イ 写真
 - ウ 情報システム

5 展示・教育普及・学習支援

- (1) 総合テーマ展示(常設展)…………… 55
- (2) 特別展…………… 56
- (3) 特別陳列…………… 66
- (4) コレクション展…………… 67
- (5) その他の展示…………… 69
- (6) 教育普及・学習支援事業…………… 80
 - ア 県立社会教育施設公開講座
 - イ 特別展等関連行事
 - ウ 学芸員による展示解説
 - エ ミュージアムトーク「今月の逸品」
 - オ その他の行事
 - カ 子ども・青少年向け教育普及事業
 - キ 学校連携事業の状況
- (7) ミュージアムライブラリー…………… 93
- (8) 普及印刷物…………… 94
 - ア 図録
 - イ 広報印刷物
 - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
- (9) ボランティアの活動…………… 94
 - ア 活動状況及び実績
 - イ 専門研修
 - ウ その他の研修
- (10) 博物館実習生の受け入れ…………… 96
 - ア 見学実習
 - イ 実務実習

6 資料

- (1) 条例・規則…………… 98
 - ア 神奈川県立の博物館条例
 - イ 神奈川県立の博物館組織規則
 - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
- (2) 利用案内…………… 102

1 沿革・理念

(1) 沿革

- 昭和 38 年 6 月 神奈川県教育庁に博物館準備事務室を設置
- 昭和 41 年 11 月 神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置
神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
- 昭和 42 年 3 月 神奈川県立博物館開館 (20 日)
- 4 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置
(委員 20 名)
- 6 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を
置く
- 昭和 43 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の
3 課を置く
- 5 月 登録博物館に認可 (1 日)
- 昭和 44 年 3 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
- 7 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課
に名称変更
- 昭和 47 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調
整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
- 昭和 49 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
- 昭和 52 年 5 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
- 昭和 53 年 9 月 文部省学術研究機関の指定を受ける
- 昭和 55 年 2 月 入館者数 100 万人達成
- 昭和 62 年 4 月 第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再
編整備事業策定
- 昭和 63 年 12 月 神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－
自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
- 平成 2 年 3 月 人文系博物館の整備計画・展示計画策定
- 平成 3 年 3 月 博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
- 平成 4 年 3 月 展示基本設計
- 平成 5 年 3 月 改修工事基本・実施設計、展示工事实施設計
- 4 月 県立博物館休館(～7 年 3 月)
- 10 月 改修工事及び展示工事開始
- 平成 6 年 11 月 改修工事終了
- 平成 7 年 1 月 神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物
館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画
普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
- 3 月 展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始
神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
- 6 月 国の史跡に指定される
- 平成 9 年 7 月 博物館ボランティアが活動を開始
- 平成 11 年 2 月 金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善攻墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家
袖判下文が県の重要文化財に指定される
神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される

- 4 月 重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される(現在まで更新中)
- 平成 13 年 1 月 三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
- 3 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
- 平成 18 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
- 平成 19 年 11 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
- 平成 21 年 8 月 入館者数 200 万人達成
- 平成 28 年 6 月 空調設備等改修工事のため休館(～平成 30 年 4 月)
- 9 月 事務室を(宇徳ビル 6 階に)移転
- 10 月 空調設備等改修工事開始
- 平成 29 年 12 月 空調設備等改修工事終了
- 平成 30 年 4 月 空調設備等改修工事終了に伴い、博物館業務を再開
- 令和 6 年 2 月 改正博物館第 14 条の規定に基づき、博物館登録(6 日)
- 3 月 五姓田義松作品(五姓田義松旧蔵作品群を含む)(72 点)が県の重要文化財に指定される

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行われ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 検討・提案の経緯

- (ア) 昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」(以下「提言」という。)
- (イ) 平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画」(以下「整備計画」という。)
- (ウ) 平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」(以下「概要」という。)

イ 活動理念・テーマ

- (ア) 「提言」における活動理念・テーマ
 - a 人文系博物館の「意義」(「提言」を要約、抜粋)
 - (a) 文化の視点からの未来の探求
 - (b) 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
 - (c) 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
 - (d) 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
 - (e) 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
 - (f) 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承
 - b 「基本テーマ」等の設定
 - (a) 基本テーマ：「文化の交流と変容」
上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。
 - (b) サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って2つのサブテーマが設定された。

(c) 展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

- [継承] 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる
- [交流] 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる
- [変容] 文化の変容をダイナミックにとらえる
- [風土] 文化の特色を地域風土を通してとらえる

(イ) 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成2年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

(ウ) 「概要」における活動理念・テーマ

平成7年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

(3) 神奈川県立歴史博物館の運営方針（令和5年12月策定）

神奈川県立歴史博物館は、自然科学及び人文科学に関する総合博物館であった県立博物館（1967年（昭和42年）3月開館）を前身とし、1995年（平成7年）3月に人文系の博物館として再編整備し開館した。かながわの文化と歴史を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、かながわの先史・古代から現代に至るまでの歴史・美術・考古・民俗に関する貴重な資料を収集し、適切に保存・活用して未来へつなぐとともに、専門性を発揮した調査研究活動を着実に進め、当館の特色を生かした魅力ある展示や講座などによりその成果を公開し、県民の生涯にわたる学びを支援していく。

また、すべての人びとに開かれた社会教育施設として、資料の価値やそれに関わる人の活動などの情報が広く共有されるよう、公開と発信に取り組むとともに、開館以来蓄積してきた活動や資源を基盤として、他博物館や関係機関、地域のさまざまな団体等と相互に連携して地域の活力の向上に取り組み、多様化・高度化する博物館の役割を果たしていく。

こうした活動の基盤として、1904年（明治37年）に竣工した歴史的建造物である当館建物（国指定重要文化財「旧横浜正金銀行本店本館」）を適切に保存・活用し未来へ継承することはもとより、運営を支える人材の確保・育成と財源の確保に努め、持続可能な博物館活動に取り組んでいく。

(4) 神奈川県立歴史博物館の今後の取組（令和6年3月策定）

ア 期間 令和6年度から令和10年度の5年間

イ 使命

神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。また、博物館や学校をはじめ多様な主体の団体と相互に連携を図りながら協力し、地域の活力の向上に取り組むこと。

ウ 目標

使命を実現するため、設定した取組項目に取り組み、計画期間の令和10年度には、「神奈川の歴史と文化」を通史的・総合的に扱う唯一の博物館として、県民や利用者が「かながわ」への理解を深め、「かながわ」に魅力を感じ、「かながわ」の新たな価値を見出すことができる博物館活動を積極的に進めていくことを目指していく。

エ 取組項目

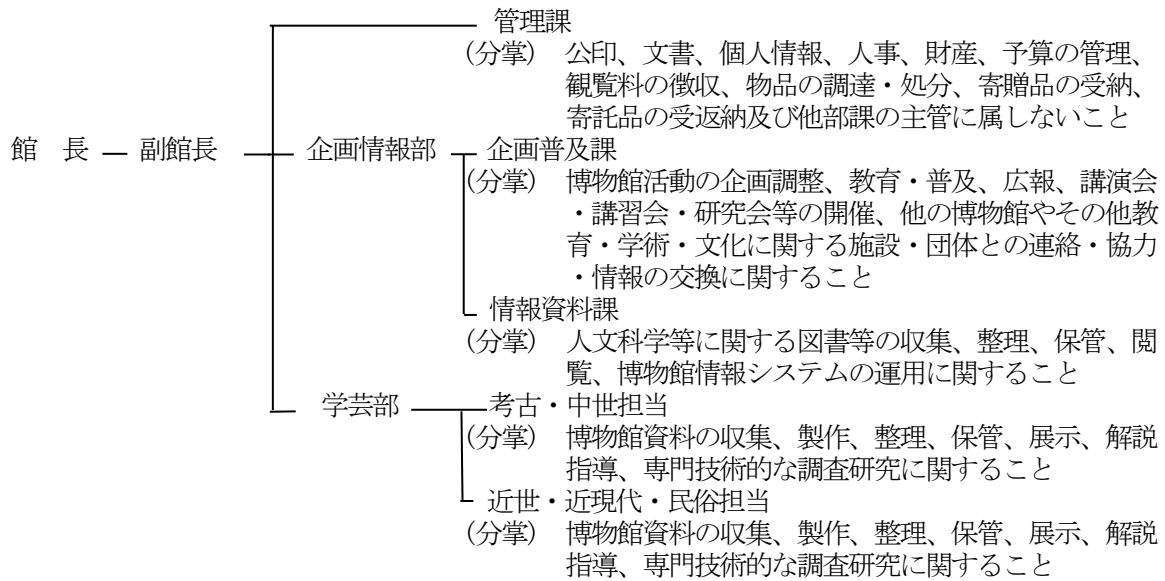
文化審議会答申「博物館法制度の今後の在り方について」で示された役割・機能を柱として設定
(ア) 守り、受け継ぐ、(イ) わかちあう、(ウ) 育む、(エ) つなぐ、向き合う、(オ) 営む、(カ) その他・利用の促進

2 管理運営

(1) 組織

(令和5年6月1日現在)

ア 組織及び分掌



イ 職員名簿

館長	望月 一樹	非常勤事務補助員	三瓶 裕子
副館長兼管理課長	星 孝樹	非常勤事務補助員	神津 由紀子
管理課 副主幹	秋元 潤子	非常勤事務補助員	濱本 明海
主査	大貫 宗大	非常勤図書整理員	深野 亜希子
主任主事 (6月～)	佐藤 由梨江	非常勤図書整理員	島 晴美
主事	大塔 桃子	非常勤図書整理員	森 由紀
主事(～5月)	笠原 美佐子	学芸部長	丹治 雄一
主任専門員	竹内 廣一	非常勤事務補助員	新井 実
非常勤事務補助員	西村 純子	非常勤事務補助員	杉山 誠
非常勤事務補助員	森 久利子	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
非常勤事務補助員	佐々木 誠	非常勤資料整理員 (～9月)	中村 茉貴
非常勤自動車運転員	大塚 清志	非常勤資料整理員(10月～)	椎橋 郁実
企画情報部長	小坂橋 未紀	(考古・中世担当)	
企画普及課長	桑山 童奈	学芸員	神野 祐太
企画普及課 主査	岡田 和子	学芸員	橋本 遼太
主事	廣瀬 啓	学芸員	渡邊 浩貴
学芸員 (兼務)	寺西 明子	学芸員	梯 弘人
主事 (専門員)	若杉 恵子	学芸員	鈴木 愛乃
非常勤博物館学習指導員	柳原 正広	学芸員	佐藤 兼理
非常勤事務補助員	松井 礼子	臨時学芸員 (2月～)	樋口 美咲
非常勤事務補助員	野島 愛子	(近世・近現代・民俗担当)	
非常勤資料整理員	渡邊 実華子	主任学芸員	嶋村 元宏
非常勤学芸員	豊田 倫子	主任学芸員	角田 拓朗
非常勤学芸員	市野 悦子	主任学芸員	新井 裕美
非常勤学芸員	大柳 麻美	学芸員	武田 周一郎
情報資料課長	宇賀田 信	学芸員	寺西 明子
情報資料課 主査 (～5月)	小川 和哉	非常勤学芸員	根本 佐智子
主事 (6月～)	臼井 裕太郎	非常勤学芸員	三浦 麻緒
主任専門員	小松 晶子	非常勤学芸員	山口 希
業務専門員	能勢 悦子	非常勤学芸員	山下 春菜
非常勤司書	鈴木 隆雄	非常勤学芸員	小川 咲良
非常勤写真職	荒井 孝則		
非常勤資料整理員	檜皮 千穂		
非常勤資料整理員	加茂 たがね		

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
教育使用料	21,685	観覧料収入、目的外使用許可使用料
教育費国庫補助金	4,125	国庫補助金
芸術文化振興基金助成金	3,000	芸術文化振興基金助成金
財産貸付収入	39	著作権料
公有財産売却収入	328	ぐるっとパス清算金
教育事業収入	6,883	図録販売収入
教育受講料収入	176	県立社会教育施設公開講座受講料
教育立替収入	481	ミュージアム・ショップ、喫茶等の光熱水費
雑入	149	複写代、授業目的公衆送信補償金
合 計	36,866	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
教育施設維持修繕費	1,232	施設・設備の修繕
教育施設各所営繕費	3,740	施設・設備の改修
県立社会教育施設公開講座事業費	97	講座の開催
維持運営費	83,572	維持管理(電気、ガソリン代を除く)・事業運営
博物館事業費	33,432	展示事業、調査研究、資料整備、学習支援等
情報システム整備費	50,044	システム運用、データ入力等
合 計	172,117	

(3) 入館者状況

ア 入館者数

(単位：名)

月	展示室入館者			フリーゾーン 利用者	合 計
	有料入館者	無料入館者	小 計		
4	3,258	847	4,105	1,834	5,939
5	5,681	3,051	8,732	4,323	13,055
6	4,633	2,909	7,542	2,087	9,629
7	3,281	1,199	4,480	2,125	6,605
8	9,460	2,872	12,332	1,080	13,412
9	8,770	3,172	11,942	1,317	13,259
10	6,348	2,479	8,827	1,632	10,459
11	7,538	12,390	19,928	1,547	21,475
12	3,110	1,179	4,289	2,401	6,690
1	2,704	1,970	4,674	2,282	6,956
2	3,698	3,296	6,994	4,098	11,092
3	3,804	3,152	6,956	4,257	11,213
合計	62,285	38,516	100,801	28,983	129,784

イ 有料入館者内訳

(単位：名)

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	1,451	149	457	673	491	9	0	28	3,258
5	1,758	221	450	1,201	1,383	102	0	566	5,681
6	1,566	257	51	1,158	974	146	0	481	4,633
7	1,733	223	70	597	594	16	0	48	3,281
8	3,493	351	366	1,511	2,751	206	0	782	9,460
9	3,421	309	77	1,865	2,148	149	0	801	8,770
10	2,242	168	65	1,800	1,260	59	0	754	6,348
11	2,381	194	138	2,388	1,436	84	0	917	7,538
12	1,600	149	43	1,070	211	37	0	0	3,110
1	1,514	149	70	751	212	8	0	0	2,704
2	2,069	210	68	1,082	262	7	0	0	3,698
3	2,083	243	76	1,063	327	12	0	0	3,804
合計	25,311	2,623	1,931	15,159	12,049	835	0	4,377	62,285

ウ 無料入館者内訳

(単位：名)

月	条例別表備考欄指定の無料入館者				減免による無料入館者							合計
	未就学幼児	小学生	中学生	特別支援学校	高校生	生徒引率者	優待券	招待券	障がい者	ぐるっとパス入場券	その他	
4	44	147	149	0	58	3	4	160	83	69	130	847
5	39	151	1,444	0	174	51	19	597	199	229	148	3,051
6	44	673	656	0	158	58	6	805	166	175	168	2,909
7	61	273	289	0	68	17	3	62	133	124	169	1,199
8	101	560	602	0	19	27	11	718	288	152	394	2,872
9	51	726	580	57	12	58	8	1,029	304	150	197	3,172
10	23	731	240	0	101	52	15	679	253	154	231	2,479
11	33	1,999	1,143	0	112	168	11	8,311	233	149	231	12,390
12	23	320	322	8	84	37	2	32	104	141	106	1,179
1	44	608	919	4	3	59	2	33	89	106	103	1,970
2	36	591	1,226	0	0	48	8	670	156	198	363	3,296
3	33	148	357	0	1	9	12	2,077	188	158	169	3,152
合計	532	6,927	7,927	69	790	587	101	15,173	2,196	1,805	2,409	38,516

※招待券—11月、3月は無料観覧日入館者を含む。

エ 特別展の入館者状況(前掲表内数)

(単位：名)

特別展名	有料入館者	無料入館者	合計
あこがれの祥啓	4,204	4,644	8,848
関東大震災	9,916	5,090	15,006
足柄の仏像	7,029	10,238	17,267
合計	21,149	19,972	41,121

(4) 広報・広聴

ア 広報実績

令和5年度の広報実績は次のとおり(館のPR、特別展・テーマ展、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インターネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	96	40	0	10	7	4	93	250

イ ホームページアクセス件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	160,142	189,389	192,191	199,761	266,841	235,172	234,697	297,160	188,286	190,495	247,781	249,752	2,651,667

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタルミュージアム	827	966	916	981	1,144	1,034	1,033	1,443	1,026	986	1,051	1,051	12,458
デジタルアーカイブ	6,347	15,625	6,022	5,964	22,076	11,521	8,917	7,611	5,719	12,729	14,895	8,081	125,507
おうちでかながわけんばく	3,281	3,049	3,483	3,691	4,695	3,622	3,658	4,122	3,492	4,042	3,735	4,081	44,951

ウ SNS投稿数・フォロワー数

(ア) X(旧Twitter)投稿数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
投稿数	27	26	39	50	53	45	42	36	24	24	27	38	431
フォロワー数	11,746	11,777	11,873	12,004	12,113	12,197	12,251	12,334	12,358	12,398	12,463	12,580	-

(イ) Instagram投稿数・フォロワー数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
投稿数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7
フォロワー数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	-

(5) 事業評価

平成30年度から県立社会教育施設(県立図書館、県立川崎図書館、金沢文庫、近代美術館、生命の星・地球博物館、当館)において、事業評価を実施することとし、全館共通の評価項目による「社会教育施設評価書(目標設定・実施結果)」(以下、全館共通評価)を作成している。

また、令和元年度からは、全館共通評価に加えて、「神奈川県立歴史博物館評価書(社会教育施設個別評価)」(個別評価)を作成し、当館が独自に設定した評価指標による事業評価をあわせて実施している。

令和5年度における事業評価の概要は次のとおりである。

ア 各目標値及び評価指標の達成状況

	達成 (目標値 ≥ 100%)	ほぼ達成 (目標値 ≥ 80%)	未達 (目標値 < 80%)
全館共通評価項目	11	1	0
個別評価項目 (定量評価)	18	2	0

	達成 (チェックリストクリア数 80%以上)	ほぼ達成 (同クリア数 50%以上80% 未満)	未達 (同クリア数 50%未満)
個別評価項目 (定性評価)	13	1	0

イ 総括

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、令和4年度に比べ大幅に入館者数が増加し、令和元年度・平成30年度（コロナ禍前）の入館者数の水準も上回った。今後も魅力的な展示や、常設展の充実、県民のニーズに対応した講座・講演会や各種行事などを開催できるよう努める。ホームページへのアクセスやX（旧Twitter）のフォロワー数も継続して増加していることを踏まえ、オンラインによる情報発信についても並行して強化する必要がある。

(6) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積 4,160.82 m²
 構造 石・煉瓦造り（一部鉄骨鉄筋コンクリート造り）地上3階・地下1階
 延床面積 10,565.47 m²
 部門別面積 展示部門＝約3,896 m²、学習支援部門＝約386 m²、収蔵部門＝約619 m²
 研究部門＝約1,306 m²、サービス部門＝約438 m²、管理部門＝約1,251 m²
 その他共用部分＝約2,670 m²

(イ) 建物の特徴

旧館部分 旧横浜正金銀行本店本館（明治37年（1904）竣工、設計：妻木頼黄）
 ネオ・バロック様式
 新館部分 神奈川県立博物館として新築（昭和42年（1967））
 指定状況 国指定重要文化財（建物旧館部分・昭和44年（1969）3月12日指定）
 国指定史跡（平成7年（1995）6月27日指定）

(ウ) 施設の状況

- 1 階：【展示室、学習支援関係諸室】
 特別展示室、コレクション展示室、
 ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室 等
 - 2 階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
 総合テーマ展示室（テーマ3、4、5〔近世、近代、現代・民俗〕）
 館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等
 - 3 階：【展示室、学芸部関係諸室】
 総合テーマ展示室（テーマ1、2〔古代、中世〕）
 学芸部、資料整理室、保存修復処置室/印刷室、作業室 等
- 地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】
 講堂、写場、写真整理室、その他機械室 等

イ 館内施設

1階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

当館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) 喫茶室 (喫茶ともしび)

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。喫茶の他、軽食を提供し、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、障がい者の就業の場ともなっている。

(ウ) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として設置している。図書、情報システム端末(デジタルミュージアム・蔵書検索・デジタルアーカイブ用)などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

ウ 館外施設

昭和42年(1967)の開館以来継続的に収集してきた資料により、館内の収蔵庫の狭隘化が進行してきたため、現在、神奈川県教育委員会生涯学習部文化遺産課が所管する「文化遺産課収蔵センター」(旧神奈川県立野庭高等学校校舎)の一角を「野庭収蔵庫」(旧体育館、面積3,100.84㎡)として占有し、民俗資料等の一部を収蔵している。

エ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和29年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数183人(令和5年4月1日現在)。

事務局長	副館長	星 孝樹
事務局次長	学芸部長	丹治 雄一
事務局員	企画普及課長	桑山 童奈
〃	学芸員	梯 弘人
〃	学芸員	寺西 明子
〃	主査	大貫 宗大
〃	非常勤事務補助員	新井 実

(イ) 神奈川県博物館協会

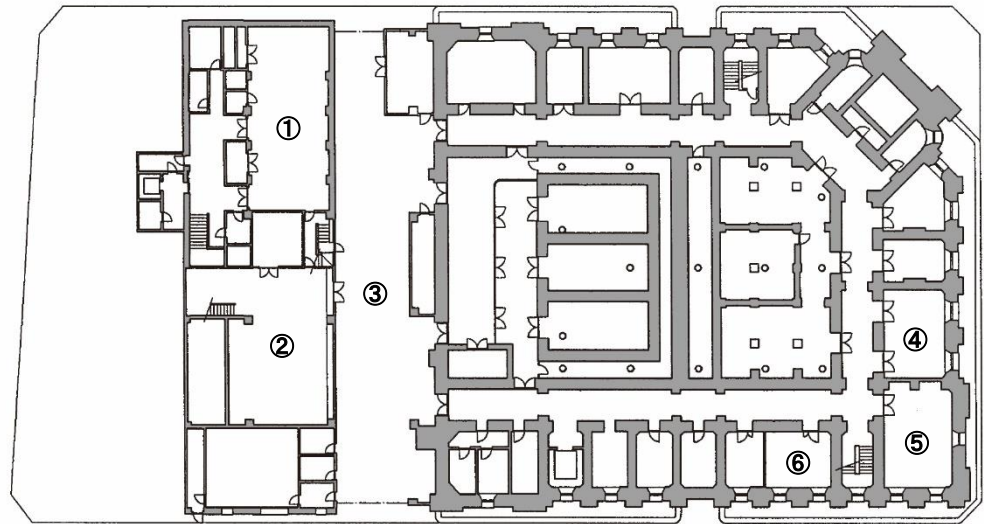
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のPR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数97館(令和5年4月1日現在)。

会長	館長	望月 一樹
事務局長	副館長	星 孝樹
事務局次長	学芸部長	丹治 雄一
人文科学部会幹事	学芸員	橋本 遼太(～11月)
〃	学芸員	武田 周一郎(12月～)
機能研究部会幹事	学芸員	神野 祐太
事務局員	主任専門員	竹内 廣一
〃	非常勤事務補助員	杉山 誠

オ 平面図

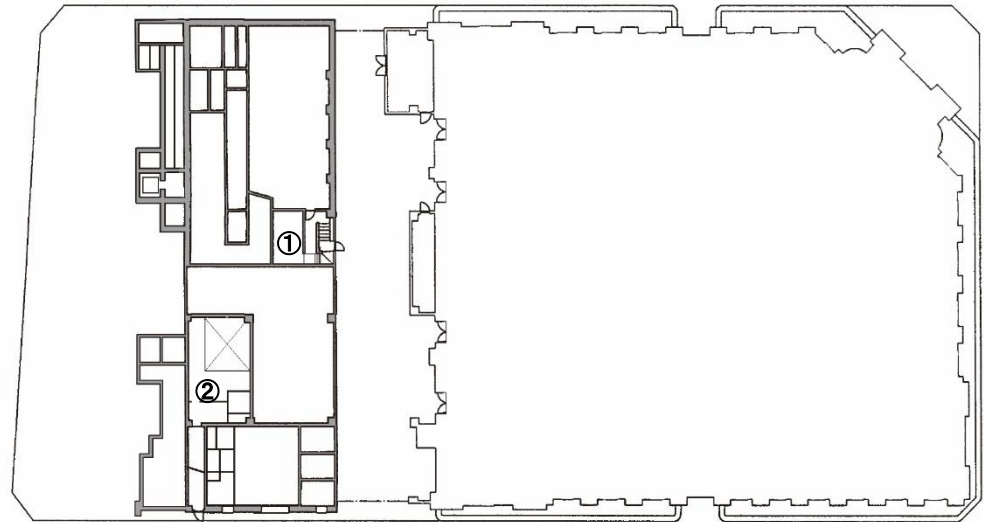
地階

- ①講堂
- ②空調機械室
- ③サービスヤード
- ④展示準備室
- ⑤写場
- ⑥写真整理室



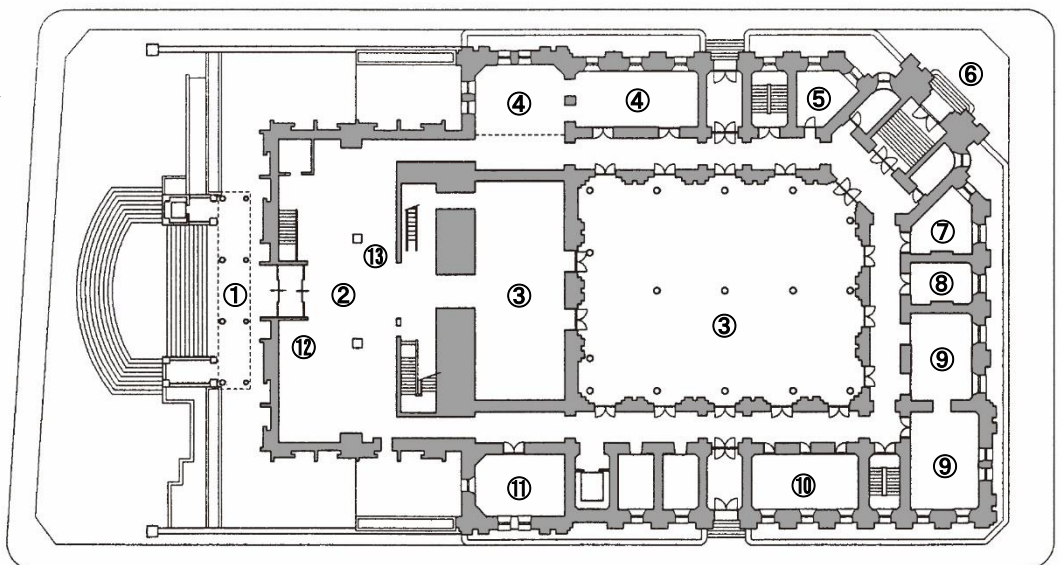
中1階

- ①映写室
- ②中央監視室



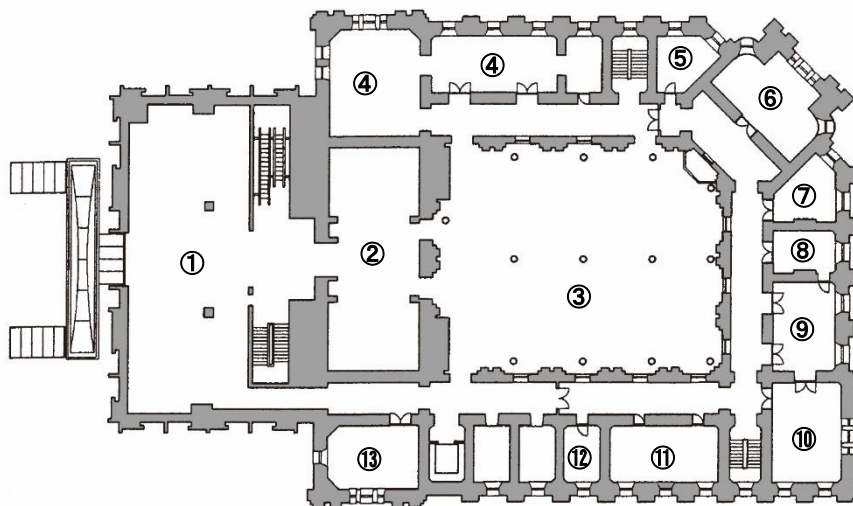
1階

- ①正面玄関
- ②エントランスホール
- ③特別展示室
- ④コレクション展示室
- ⑤ボランティアルーム
- ⑥馬車道玄関
- ⑦情報処理室
- ⑧書庫
- ⑨ミュージアム
ライブラリー
- ⑩会議室
- ⑪喫茶室
- ⑫ミュージアム
ショップ
- ⑬総合受付



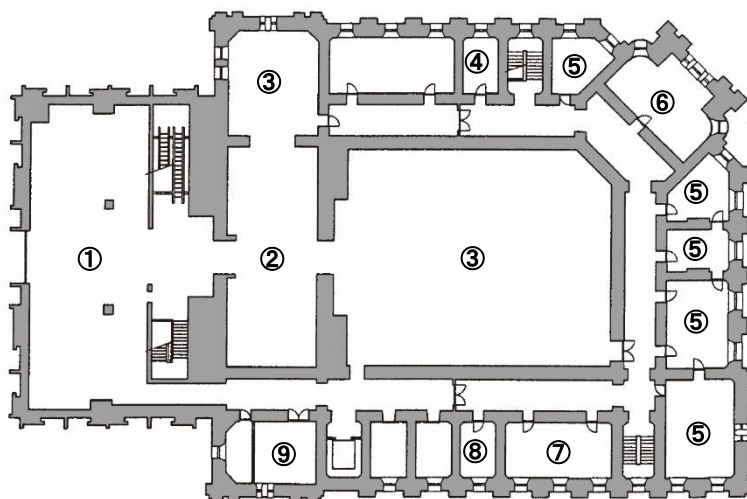
2階

- ①総合テーマ展示室 テーマ 3
- ②総合テーマ展示室 テーマ 4
- ③総合テーマ展示室 テーマ 4/5
- ④総合テーマ展示室 テーマ 5
- ⑤図書整理室
- ⑥書庫
- ⑦電話交換室
- ⑧館長室
- ⑨応接室
- ⑩管理課室
- ⑪企画情報部室
- ⑫第2 応接室
- ⑬空調機械室



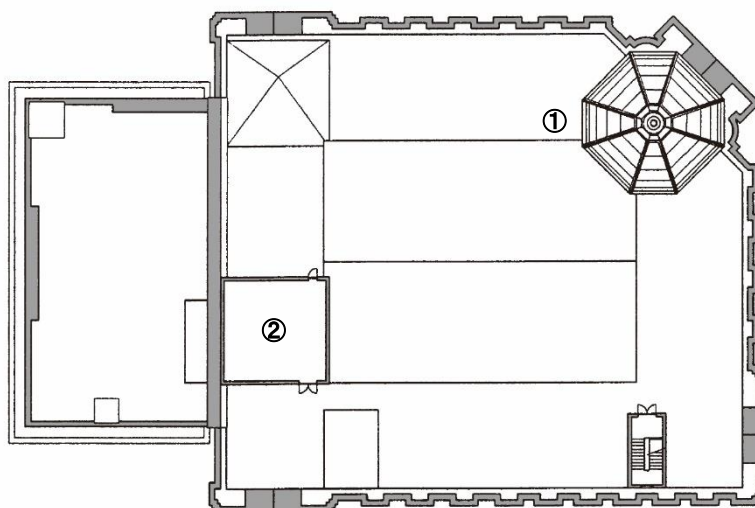
3階

- ①総合テーマ展示室 テーマ 1
- ②総合テーマ展示室 テーマ 1/2
- ③総合テーマ展示室 テーマ 2
- ④畳敷作業室
- ⑤資料整理室
- ⑥保存修復処置室/印刷室
- ⑦学芸部室
- ⑧共同作業室
- ⑨空調機械室



屋上

- ①ドーム
- ②空調機械室



3 調査・研究

(1) 館独自の研究事業費によるもの

ア 総合研究

研究課題：横須賀市満願寺出土中世瓦の分析を通じた永福寺式瓦と鎌倉御家人の総合研究

研究代表者：学芸員 渡邊 浩貴

研究分担者：伊豆の国市教育委員会 池谷 初恵 氏、鎌倉市教育委員会 押木 弘巳 氏、公益財団法人 かながわ考古学財団 高橋 香 氏、横須賀市教育委員会 中三川 昇 氏

研究期間：令和3～5年度

概要：鎌倉幕府有力御家人の三浦一族の拠点・横須賀市満願寺から出土した大量の中世瓦を調査・分類し、瓦製作に関する技法や様式、産地（尾張国八事裏山窯遺跡出土瓦など）、編年という基礎的な確定作業を通じて、三浦一族の動向を地域社会のなかから明らかにするものである。最終年度にあたる本年度は、補足調査を実施しつつ、市民向けの公開シンポジウム「満願寺の瓦からみる三浦一族―満願寺遺跡調査成果報告会―」（主催：横須賀考古学会・当館、後援：三浦一族研究会・横須賀市教育委員会）を実施し、シンポジウムリーフレットも刊行した。

研究課題：「かながわの浮世絵」の総合的研究―東海道揃物と江の島―

研究代表者：企画普及課長 桑山 童奈

研究分担者：学芸員 寺西 明子、非常勤学芸員 山口 希

研究期間：令和4～6年度（1年延長）

イ 連携研究

研究課題：多摩川流域における水と人の生活文化史

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究分担者：主任学芸員 新井 裕美、学芸員 渡邊 浩貴、非常勤学芸員 根本 佐智子、非常勤学芸員 三浦 麻緒

研究期間：令和4～6年度（1年延長）

ウ 個別研究

研究課題：近世兵学における「相州鎌倉之図」

研究代表者：学芸員 寺西 明子

研究期間：令和5～6年度

研究課題：当館所蔵『浩然随筆』の基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：令和4～6年度

研究課題：戦国大名北条氏による五山寺院に対する祈祷依頼の位置づけについて

研究代表者：学芸員 梯 弘人

研究期間：令和5～6年度

研究課題：多摩川流域の民俗―流域の開発・生業・治水・災害・信仰―

研究代表者：主任学芸員 新井 裕美

研究期間：令和5年度

概要：多摩川流域でみられる習俗のうち、雨乞い習俗について各地の報告書等から事例を収集した。雨乞い儀礼の習俗は、大別すると10種類あり、共同祈願であり、おおむね昭和初期くらいまで行われていた。雨乞いは各地区単位で実施していたが、その中でも六郷用水や五本松などでは他地域の集落の者がそこで雨乞いを実施していたことがわかった。

研究課題：近代輸出漆器の意匠について

研究代表者：学芸員 鈴木 愛乃

研究期間：令和5年度

概要：近代に輸出された漆器の制作背景を、横浜の漆器を中心にその意匠から探った。輸出漆器にあらわされる意匠の題材は、風俗図、花鳥図が中心で、図像はある程度定型化している。繰り返し同じ題材をあらわす漆器を器種、技法ごとに比較することで、西洋の人々が求める日本のイメージを、日本の漆器に関わる職人がそれぞれの素材や技法に合わせた表現に落とし込んでいく過程を概観し、製品として量産するための技法上の工夫を明らかにした。

エ 調査研究成果報告会

開催日時：6月13日（火） 口頭報告・紙上報告

内容：総合研究および個別研究の成果などについて報告した。（令和4年度分）

《口頭報告》

(ア) 個別研究

発表者：主任学芸員 角田 拓朗

テーマ：青木文庫の概要及びその特色について

概要：青木文庫とは、近代日本美術史の泰斗である故青木茂氏の蔵書群を指示する。青木氏は長年、研究の傍ら、近代日本に関わる古書の収集に尽力されたことでも知られ、その一部が当館に寄贈された。本報告では、その蔵書群の寄贈から整理にかかる過程に得た知見をまとめた。近代日本美術史を主軸としながら、近代から戦後にかけての文化全般への関心、そのなかでも社会主義、アイヌなど反体制的な動向への興味が高い点を特徴付けた。

(イ) 新人報告

a 発表者：学芸員 佐藤 兼理

テーマ：堅穴住居からみた弥生社会—南関東多摩丘陵を中心に—

概要：本報告では堅穴住居の構造から人間集団の分布の把握を試みた。弥生時代後期、南関東の多摩丘陵地域では久ヶ原式土器と朝光寺原式土器の2系統の土器が同じ住居から出土する。従来の土器研究から、朝光寺原式土器を使用した集団は次第に消滅してしまうように見られていた。しかし、複数の炉をもつ堅穴住居の分布状況から、土器からは見えなくなった集団の動きを捉えられることを示した。

b 発表者：非常勤学芸員 小川 咲良

テーマ：17世紀中期の伊万里焼における多彩釉磁器の考察—三足皿の作例を中心として—

概要：江戸時代初期の肥前有田において生産がはじまった伊万里焼について、17世紀中期に特徴的にみられる「多彩釉」の技法に着目した。なかでも、現在6点のみ確認される、当時の技術の粋を集め作られたと考えられる多彩釉の三足皿を中心に、その系譜を整理することを試みた。実見調査及び、細かな要素の比較分析から、産地とされてきた窯の陶片や、のちに藩窯である鍋島焼へとつながる特徴について、作例の具体的な共通点を指摘した。

(ウ) 自由論題

a 発表者：学芸員 渡邊 浩貴

テーマ：東大寺お水取りと講社の歴史民俗学的研究—東大寺領伊賀国黒田荘と伊賀一ノ井松明講の事例から—

概要：奈良の東大寺では、毎年春を告げる二月堂修二会（別名「お水取り」）を開催し、東大寺練行衆が二月堂に籠り、観音様へ懺悔して平和を祈念している。同儀式は3/1～3/14を「本業」と呼び催され、なかでも3/12～3/14は「達陀の行法」で松明を持った練行衆が火の粉を散らせながら走り、煩惱を払う。ただし、この儀式が多く在地元講社からの援助によって成り立っていることはあまり知られていない。二月堂圓玄講社（観音講）と称される奈良・大阪・京都などを中心に設置された講（現在約50講社あり、そのうち存続は29

講社) があり、各講から菜種油やミョウガなどがお水取りのために寄付される。そのなかでもっとも最古の講が三重県にある「伊賀一ノ井松明講」である。同講は「達陀の行法」に使用する松明5荷を現地で作り、東大寺へ人力で運搬している。これを松明調進行事と呼ぶ。報告者は約10年にわたり同講を取材し、フィールドワークを用いて調査を行ってきた。本報告では、行事を支えてきた地元講社組織の歴史の変遷を追いつつ、なぜ時代を超えてこの行事が変化を伴いながら存続していたのかを、現地調査や文献調査の成果から検討した。

b 発表者：主任学芸員 嶋村 元宏

テーマ：ペリー艦隊随行者画家ヴィルヘルム・ハイネの画像にみる日本とアジア

概要：『ペリー提督日本遠征記』には、使節の活動とともに訪問先の様子や現地民の風俗を描いた挿絵が多数収められている。これらはハイネとブラウン Jr. によるもので、横浜や久里浜などの上陸場面は、大型石版画として制作された。いずれも、後段に風景、中段に使節の活動、前段に現地民という3層構造で描かれていることが特徴で、人物は『遠征記』中の挿絵に描かれたものがモンタージュのようにはめ込まれている。ハイネらは意図的に現地民を前段に置くことで、一種の人物図鑑として観る者に伝えようとしたと考えた。「虚構」としてのイメージが欧米に伝播したと考察した。

《紙上報告》

a 発表者：館長 望月 一樹

テーマ：享保の象の多摩川渡河について

概要：享保13年交趾国(現ベトナム)より將軍の要請によって渡来した象は、長崎を出発後、京都を経て江戸まで2ヶ月以上を駆け歩いて旅をした。その間、河川では歩行渡し、あるいは船渡しで渡河したが、多摩川については船橋を利用したという説が、これまでの研究の主流となっている。しかし近年新たに発見された「川崎年代記録」という資料の記述をもとに再考を試みると、多摩川においてもやはり他の河川同様に船での渡河が確実となったことから、その具体的な渡河の様相について紹介した。

b 発表者：学芸部長 丹治 雄一

テーマ：真鶴町教育委員会蔵「土屋家石材関係文書」について

概要：本報告では、上記文書群のうち神奈川県を代表する石材企業家土屋大次郎の事業活動に関わる資料を紹介した。土屋の石材企業家としての活動の原点である陸軍省との関わりや、足柄下郡吉浜村(現湯河原町)産の建築用石材「白丁場石」の切り出し、横浜船渠や浦賀船渠への石材供給を裏づける資料などが含まれており、神奈川県立公文書館が所蔵する「土屋家文書」と一体をなす、近代石材産業史の重要な文書群であることを確認した。

c 発表者：企画普及課長 桑山 童奈

テーマ：錦絵にみる政府高官の肖像の研究

概要：2021年4～6月に開催した特別展「錦絵にみる明治時代—丹波コレクションが語る近代ニッポン」以来、継続して調査を行っている。明治時代に出版された政府高官が描かれた錦絵について、現在に残る写真や肖像画と比較し、似顔絵で描かれた、と推定してよいかを検討した。また、錦絵に記された高官の役職名などの文字情報を当時、刊行されていた『職員録』と照合し、各作品の出版背景について考察した。

d 発表者：学芸員 梯 弘人

テーマ：「例外」とされた北条家朱印状について

概要：戦国大名北条家当主が発行した北条家朱印状には「奉書式」と「直状式」の2つの様式が存在する。奉書式は同文の文書が一斉に作成されることは想定されず、そのような文書は存在しないものとされてきた。当館所蔵の「江梨鈴木家文書」に所収される奉書式の北条家朱

印状と同日付の文書について考察を行った。その結果、一連の文書は奉書式の北条家朱印状で、伊豆半島西岸の村々に一斉に命令を通知したものであったことが確認できた。

e 発表者：学芸員 神野 祐太

テーマ：当館所蔵の銅造観音菩薩立像（鎌倉時代）について

概要：当館所蔵の銅造観音菩薩立像は、材質は鎌倉時代では珍しい銅造である。その形状や構造から長野・善光寺の本尊阿弥陀三尊像を模鑄した善光寺式阿弥陀三尊の左脇侍として造られたことがわかる。根津美術館の銅造勢至菩薩立像は同系統の脇侍像として知られ、先行研究において本来神奈川県博像と一具であった可能性について指摘がある。今回、改めて両像の調査を実施した結果、神奈川県博像と根津美術館像のかたちが同系統であるだけでなく、鑄造の方法や表面の仕上げにも共通する点が見いだされた。さらに、本像の背面にはわずかに朱漆で記された銘記が知られ、両像とも同筆である可能性が高い。両像は本来一具として鑄造されたと結論づけた。

f 発表者：学芸員 橋本 遼太

テーマ：祥啓とその画系の絵師が残した作品の改変について

概要：室町時代の画僧祥啓およびその次世代の絵師が残したと思われる作品が対象。特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」の準備過程で関連作品を多数調査する機会を得たことによる知見を報告。調査により、作品が制作当初から形を変えていることが多いことを再認識した。その改変の有り様から、改変の契機と理由を考えることで、絵や絵師の歴史を復元することに注力した。本報告では、調査により判明した事項のうちいくつかを、「絵はかたちを変える」、「残ったものがすべてではない」とのトピックで紹介した。

g 発表者：学芸員 鈴木 愛乃

テーマ：近代横浜における輸出漆器制作について

概要：近代の横浜における漆器の制作について、基礎的調査を行った。主に明治中期から昭和初期に著された国内漆器生産に関する文献資料から、横浜における漆器制作の様相をまとめ、各地の様相と比較した。当時の横浜の漆器に対する一般的な認識が明らかになるとともに、①輸出漆器制作の中心地であったこと、②新興の生産地であるからこそ各地の技法が混合する独特の造形が生まれたこと、③指物を中心とする平面的な器種が、技法の併存・分業を可能にしたことなどを確認できた。

h 発表者：学芸員 寺西 明子

テーマ：久崎教生家文書概説—久崎輝男氏による郷土資料収集—

概要：久崎教生家資料について平成20年度に購入した資料523件550点と、昭和47年より継続して借用している資料197点を当館において収蔵している。久崎家には愛甲郡七沢村の名主家資料のほか愛甲郡皇国地誌扣をはじめとして近隣諸村にかかわる資料も集積されており、明治初期から中期頃にかけて明治・大正年間期郷土資料を意図的に収集したものであることが分かってきた。久崎輝男氏の収集した資料に焦点をあてその目的を考察するとともに、本資料群の意味を再定義した。

i 発表者：非常勤学芸員 根本 佐智子

テーマ：神奈川県立歴史博物館所蔵 津村腰越村と片瀬村魚獵場出入裁許絵図について

概要：当館所蔵「相州鎌倉郡津村腰越村と同国同郡片瀬村魚獵場出入裁許之事」について、内容の検討と、トレース図の作成。この裁許では、龍口寺の帰属は片瀬村であり、片瀬村・津村腰越村の村境が定められ、訴訟方・相手方・評定所の3者で保管するはずの裁許絵図が龍口寺にも渡された。資料名に漁獵場出入裁許とあるが、片瀬村と津村腰越村とは漁法が異なり漁獵場を争ってはならず、評定所による題名の付け方にも注意が必要である。

- j 発表者：非常勤学芸員 山口 希
 テーマ：杉浦非水と三越—光琳模様を巡る広報戦略—
 概要：明治後期から昭和初期にかけて活躍したグラフィックデザイナー杉浦非水（1876～1965）の画業のうち、三越の機関紙である『みつこしタイムス』の表紙図案に注目し当時の三越における光琳模様の広報戦略との関りについて研究を行った。明治37年以降、三越は光琳模様と冠したイベントを複数回企画している。加えて非水と親交のあった画家である岡田三郎助と橋口五葉をそれぞれ三越の呉服宣伝のためのポスターに起用しており、その両ポスターには、光琳模様を踏襲した図案「水流に撫子」が屏風や着物の模様として描かれている。後に非水も同図案を『みつこしタイムス』の表紙に採用している点から、杉浦非水は三越の広報戦略や岡田三郎助、橋口五葉の作品を念頭に置いた表紙制作を行っていた可能性を指摘した。
- k 発表者：学芸員 武田 周一郎
 テーマ：二周年・三周年震災復興状況写真帳に関する基礎的検討
 概要：当館所蔵資料のうち、二周年・三周年震災復興状況写真帳について基礎的な情報を紹介した。この2冊の写真帳は、1925（大正14）年と翌年に復興局の土木部工務課が撮影（または収集）した写真をまとめたものと推測され、復興期における東京と横浜の街並みを俯瞰的かつ定点観測的に把握するにあたって資料的な価値が高い点を指摘した。
- l 発表者：非常勤学芸員 山下 春菜
 テーマ：佐賀における大同団結運動と地域社会
 概要：本報告では九州、特に佐賀における自由民権運動が近世以来の支配領域を利用した土族的結合によって展開された点を踏まえつつ、郷党会・同成会という党派について、およびこの二派の大同団結運動への参加・不参加を中心に、この時期に見られる旧藩を単位とした結合が大同団結運動に与えた影響について考察した。
- m 発表者：主任学芸員 新井 裕美
 テーマ：大磯 脇家の婚礼について
 概要：大磯町大磯 脇家の婚礼について取り上げた。「祝儀帳」には、今日では見られなくなった民俗語彙と行事が多数記載されており、その内容を分析した。また、婚礼にかかる贈与や謝礼、また婚礼準備として購入した物品などが記されており、当時の婚礼における一つのケーススタディーとして報告した。
- n 発表者：非常勤学芸員 三浦 麻緒
 テーマ：藤沢市遠藤のエビス講について—明治35年～昭和14年のエビス講関係書類から—
 概要：当館で所蔵する藤沢市遠藤のエビス講関連書類を基に、当地で実施されていたエビス講の様子を報告した。資料は、明治35年から昭和14年までの20回にわたるエビス講実施の記録である。本報告では、資料を基に当地の各年代のエビス講の実施内容について一覧表を作成し、その様子について明らかにした。
- o 発表者：非常勤資料整理員 中村 茉貴
 テーマ：1. 島崎清海旧蔵資料の寄贈について、2. 東京経済大学史料室所蔵品調査—(1)北條玉洞《北幽清夏》に描かれた風景について、(2)北村透谷の硯
 概要：1では、島崎清海の略歴と資料の特徴、寄贈先の決定状況について報告した。A～Pに分類した資料の全体像を示し、寄贈先の決まっていない資料については、今後も遺族に代わって交渉を続ける。また、2-(1)は、大学に保管されていた伝来不明の日本画について、作者とその人物像、《北幽清夏》の制作地、他の作品例を調べて報告した。2-(2)では、端溪硯が神奈川ゆかりの詩人・北村透谷の遺愛品であることが分かり、大学に所蔵された経緯と共に資料を紹介した。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費補助金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。令和5年度の採択は14件である。

- ア 研究種目名：基盤研究(B)
課題番号：22H01007
研究課題：明治・大正・昭和戦前期図画手工教科書データベースの拡充とその活用に向けた調査研究
研究代表者：岡山大学 教授 赤木 里香子 氏
研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗
研究期間：令和4～6年度
- イ 研究種目名：基盤研究(B)
課題番号：23H00585
研究課題：日本所在の中国木彫仏像の調査研究
研究代表者：横浜美術大学 准教授 濱田 瑞美 氏
研究分担者：学芸員 神野 祐太
研究期間：令和5～9年度
- ウ 研究種目名：基盤研究(B)
課題番号：23H00587
研究課題：近代日本美術史における美術商に関する基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 角田 拓朗
研究分担者：学芸員 鈴木 愛乃
研究期間：令和5～7年度
- エ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：18K01111
研究課題：岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発
研究代表者：学芸部長 丹治 雄一
研究分担者：神奈川県立生命の星・地球博物館 企画普及課長 山下 浩之、同主任学芸員 田口 公則
研究期間：平成30～令和5年度
研究実績概要：本研究は、岩石・石材を素材として、神奈川県内の各地域における大地の形成（自然史的条件）と人間の営み（歴史的事象）を一体的に捉えた学習プログラムの作成・実践による地域の歴史の理解促進を目指したものである。文理融合の研究組織で実施した県内各地の石丁場跡や「土屋家石材関係文書」などの調査成果を反映させることで、県内5エリアのうち3エリアの地域学習プログラムをまとめることができた。
- オ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：19K01149
研究課題：歴史的な鳥瞰図に対する博物学的な視点から観た数値標高モデルによる再構築
研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 新井田 秀一
研究分担者：学芸員 武田 周一郎
研究期間：令和元～5年度
研究実績概要：本研究は、鳥瞰図に描かれた地物の位置関係や投影法等について数値標高モデルを用いて解析し、これらの図が持つ主張や意図を理解することを目標とする。本年度は、過年度の成果も踏まえて、研究代表者の所属機関で実施した観察会等で成果を公表した。

- カ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：19K01218
研究課題：南関東地方における湯立神楽の基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 新井 裕美
研究分担者：非常勤学芸員 三浦 麻緒、横須賀市自然・人文博物館学芸員 瀬川 渉 氏、帝京大学
講師 高久 舞 氏
研究協力者：横浜市歴史博物館拠点計画推進課長補佐 羽毛田 智幸 氏
研究期間：令和元～5年度
研究実績概要：本研究は、神奈川県内及び本県周辺で奉納される湯立神楽の比較研究を行った。調査の視点として、祈願内容・演目・所作・神楽場の設え・催行する組織等の項目を立て、鎌倉鶴岡八幡宮に奉仕していた職掌家に依る「職掌系湯立神楽」と職掌家に依らない「非職掌系湯立神楽」の比較研究を行い、「非職掌湯立神楽」の現行を考察した。その成果として報告書を刊行した。
- キ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：21K00824
研究課題：開国期・「虚構」による日本観の形成に関する基礎的研究：その方法論を中心に
研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏
研究期間：令和3～6年度（1年延長）
- ク 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：22K00173
研究課題：足柄地方の宗教彫刻に関する基礎的研究
研究代表者：学芸員 神野 祐太
研究期間：令和4～6年度
- ケ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：22K00869
研究課題：甲州道中における「合宿」形態の解明—相模国小原・与瀬宿と村落との関係から—
研究代表者：学芸員 寺西 明子
研究協力者：非常勤学芸員 根本 佐智子
研究期間：令和4～7年度
- コ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：22K00885
研究課題：神奈川県域における江戸幕府評定所裁許絵図の基礎的研究
研究代表者：非常勤学芸員 根本 佐智子
研究協力者：元学芸員 古宮 雅明 氏、学芸員 寺西 明子
研究期間：令和4～6年度
- サ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K00852
研究課題：明治前期における知識人官僚・高橋健三の総合研究—その思想と行動—
研究代表者：中央大学法学部 教授 北井 辰弥 氏
研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗
研究期間：令和5～8年度
- シ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：23K00965
研究課題：歴史的鳥瞰図と衛星画像による宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブズの構築

研究代表者：神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 新井田 秀一
研究分担者：学芸員 武田 周一郎
研究期間：令和5～8年度

ス 研究種目名：若手研究

課題番号：18K12251

研究課題：鎌倉～南北朝時代における絵所の並立と絵師の交流をめぐる調査研究

研究代表者：学芸員 橋本 遼太

研究期間：平成30～令和5年度

研究実績概要：おもに鎌倉時代～南北朝時代に制作された絵画を対象に、図像や技法を比較しながら、制作集団の違いや図像の転写関係を考察する研究課題。特別展「あこがれの祥啓一啓書記の幻影と実像―」に関連して総世寺（小田原市久野）の伝十三仏図（四仏図）などを調査した。

セ 研究種目名：若手研究

課題番号：19K13451

研究課題：近代東アジアにおける地図製図・印刷技術の展開過程に関する基礎的研究

研究代表者：学芸員 武田 周一郎

研究期間：令和元～5年度

研究実績概要：本研究は、近代の日本・台湾・朝鮮における地図製図・印刷技術の展開過程を明らかにすることを目的とする。本年度は、過年度の成果も踏まえて、特別展「関東大震災」で成果を公表するとともに、研究成果報告書を刊行した。

(3) その他外部研究資金によるもの

ア 助成内容：ポーラ美術振興財団 令和5年度美術館職員の調査研究助成

研究課題：近代横浜の輸出漆器における芝山細工について―技法の調査を中心に―

研究代表者：学芸員 鈴木 愛乃

共同研究者：主任学芸員 角田 拓朗

研究期間：令和5年度

研究実績概要：横浜では明治頃から華やかな装飾を施した漆器が盛んに制作、輸出され、欧米の人々に好評を博した。横浜における近代輸出漆器の制作の様相を、技法の面に着目し明らかにすることを試みた。具体的には、現存する芝山漆器の作例を実見し、その構造から制作の実態を考察すること、現代の芝山細工の修復過程に立合い、技法に関する理解を深めること、近代の漆器産地を巡り、各地の技法を調査したうえで横浜の輸出漆器の特徴を差異化することを行った。

(4) 個人研究活動

ア 研究報告書

(ア) 『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第50号 令和5年12月15日発行

a 種別：論文

表題：鎌倉幕府の音楽と地下楽人―都市鎌倉の成長と「独自編成型」の音楽受容―

筆者：学芸員 渡邊 浩貴

要旨：前稿で筆者は、鎌倉幕府の音楽受容形態を、草創期鎌倉幕府から承久の乱以前までを「楽人招請型」、承久の乱以後を「独自編成型」と名付け、前者の分析を行いながら中世鎌倉音楽史の展開を見通した。本稿は、後者の分析に注力したもので、明らかとした点は大略以下の通りである。「独自編成型」期の鎌倉音楽界を主導した地下楽人中原氏を事例に、彼らが鎌倉へ下向する要因を、①承久の乱の敗戦と続く九条道家政権誕生による政治的要因、および朝廷財政の逼迫による経済的要因という京都政界側の事情、②摂家将軍九条頼経下向に伴う文化環境の整備、九条道家政権誕生による公武連携と一時断絶していた「楽人招請型」音楽受容政策の復活などの鎌倉幕府側の事情を指摘した。③鎌倉中後期では、都市鎌倉が成

熟するにつれ、京都出身の多氏・狛氏・豊原氏・大神氏・安倍氏ら楽人が鎌倉下向を果たす事例が多数見出せる。その到達点を示すのが、弘安四年に鶴岡遷宮で登場する鎌倉楽人たちの音楽活動であり、秘曲伝授や種々の音楽教習において、すでに鎌倉幕府は独自に創出した楽人集団で達成できるまでの成長を遂げた。ここに、幕府による「独自編成型」の音楽受容形態は一つの到達点に至る。④「独自編成型」期では、鎌倉楽人間や御家人間での音楽教習・秘曲伝授が鶴岡八幡宮寺を中核としながら都市鎌倉内部で実施されていた。やがて東国地域における音楽文化の中心として都市鎌倉と鶴岡八幡宮寺で編成された鎌倉楽人が影響力を持つようになっていく。

キーワード：鎌倉幕府 音楽 鎌倉楽人 地下楽人 都市鎌倉

b 種 別：論文

表 題：幕末期における「開国」認識

筆 者：主任学芸員 嶋村 元宏

要 旨：本稿では、天保期からペリー来航期にかけての日本における識者及び政権担当者の開国認識を明らかにした。早くからロシアへの通商容認を主張した松本斗機蔵と大槻磐溪は、通信・通商国の増加が鎖国に反するとは考えず、通信・通商の枠組みを保持しつつも増加しても問題ないとみていた。一方、幕府の通達文ではオランダと同様の貿易形態であったとしても、通商国の増加は鎖国政策の放棄、すなわち開国であるとの認識をもっていた。

キーワード：鎖国 献芹微衷 大槻磐溪 松本斗機蔵

c 種 別：資料紹介

表 題：館所蔵 横浜写真アルバムの表紙について—輸出漆器としての観点から—

筆 者：学芸員 鈴木 愛乃

要 旨：当館は八点の漆塗の表紙を持つ写真アルバムを所蔵する。これは近代の横浜を中心に外国人向けに制作されたもので、輸出漆器のひとつでもあった。これまで、こうした写真アルバムは中身の写真や写真家が注目されることが多く、表紙について取り上げられた例はあまりなかったため、漆器としての観点から造形表現を整理し、意匠や技法から制作背景を検討した。

キーワード：横浜写真アルバム 輸出漆器 芝山細工

d 種 別：資料紹介

表 題：寄贈資料「宮地正彰関係資料」と明治屋

筆 者：非常勤学芸員 山下 春菜・学芸部長 丹治 雄一

要 旨：本稿では横浜発祥の企業である明治屋に勤めていた宮地正彰・正彦親子の資料群で、2022年に寄贈された「宮地正彰関係資料」を紹介した。本稿は主に、正彰に出された「感謝状」から明治期における明治屋と麒麟麦酒株式会社の「一手販売契約」について、また新条約実施祝典園遊会における写真から、明治屋の販売活動の一端を明らかにした。

キーワード：横浜 明治屋 麒麟麦酒株式会社 新条約実施祝典園遊会

e 種 別：資料紹介

表 題：当館所蔵 高座郡小出村遠藤のエビス講関連書類について

筆 者：非常勤学芸員 三浦 麻緒

要 旨：当館所蔵、旧小出村遠藤（現在の藤沢市遠藤）のエビス講関連書類について紹介した。資料は、当地の明治三五年から昭和一四年までの三七年間のうち、二〇回にわたるエビス講実施の記録である。エビス講は各家庭で実施されることが多く、議員による集団での実施例は報告が少ない。本稿では、資料を基に各年代のエビス講の実施内容について一覧表を作成し、その様子について明らかにした。

キーワード：エビス講 小出村遠藤 商人組合 共同飲食

f 種 別：実践報告

表 題：若年層に向けた来館意欲を高める事業について

筆 者：非常勤学芸員 大柳 麻美

要 旨：学習指導要領の改訂に伴いこれまで以上に博物館の活用が求められるようになったが、2022年に当館に訪れた学校団体の利用状況の分析から、博物館の活用方法が教員に十分に周知されていないことと、高校生の活用が少ないことが分かった。この状況を背景に、当館で行っている教育普及活動の取組みと、博学連携を意識して実施された教員対象の「教員のための博物館講座」や、高校生対象の「浮世絵に親しむ」、大学生対象の「博物館の裏側を知ろう」の講座の事例を紹介した。

キーワード：教育普及 博学連携 探究的学習

イ 個人研究活動

〈凡例〉(刊行年などは西暦で統一)

氏名(職名・専門分野等)

(ア) 著作

a 単著・共著・学術論文

b 書評・余録

c 資(史)料紹介

(イ) 学術口頭報告

(ウ) 図録執筆・解説書執筆

(エ) 新聞・雑誌等への寄稿

(オ) 各種調査委員会等

(カ) 講師等

a 外部依頼講座講師等

b 当館主催講座等講師

c 当館出張講座講師

(キ) ここ1年間の課題・研究テーマ

望月 一樹 (館長・歴史)

(ア)a 「近世川崎宿の成立に関する覚書」(『川崎市文化財調査集録』58号、pp.1-8、川崎市教育委員会、3月)

(イ) 「享保の象の多摩川渡河について」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
「資料保全と博物館連携—神奈川県を事例に—」(全国博物館長会議、文部科学省、7月5日)
「神奈川県博物館協会の総合防災計画とその活動」(第10回全国史料ネット研究交流集会、一橋大学、2月17日)

(エ) 「川崎宿成り立ちとにぎわい」(『江戸楽』173号、pp.9-13、エーアールティ、8月)

(オ) 神奈川県博物館協会会長、神奈川県文化財協会常任理事、日本博物館協会参与、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員、あつぎ郷土博物館協議会委員、シルク博物館運営委員会委員、江戸東京博物館運営委員会委員、川崎市文化財保存活用地域計画策定協議会委員、相模原市立博物館協議会公募委員選考委員会委員

(カ)a 日本教育公務員弘済会神奈川支部友の会講演「家康と中原街道～中原と小杉の二つの御殿～」(ローズホテル横浜、5月18日)

ミュージアム講演「多摩川流域における用水の果たした役割」(多摩区民活動・交流センター、5月27日)

つるみ歴史講座「二ヶ領用水」(横浜市寺尾地区センター、10月14日)

なかはら魅力発信講座「なかはらの田畑を潤した用水」(中原区役所、1月15日)

川崎市制100年歴史講座 第1回「川崎市制100年の変遷」第2回「川崎市の礎を築いた人々 初代市長石井泰助」(東海道かわさき宿交流館、1月26日、2月2日)

かながわガイド協議会スキルアップ研修会「近世・旅日記に見るかながわの名所」(藤沢市民会館、2月28日)

川崎郷土・市民劇シンポジウム「初代川崎市長石井泰助と川崎市の発展」（多摩市民館、2月29日、幸市民館、3月19日）

- b 館長トーク「徳川家康と御殿」（7月13日）
館長トーク「江戸時代、かながわで砂糖製造？」（12月14日）
博物館入門講座「神奈川県立歴史博物館の概要」（10月1日）
- (キ) 享保14年に渡来した象の江戸までの行程と、河川における渡河方法について、関係古文書から調査、検討を行った。また引き続き、「赤壁帖」を中心に江戸時代の文人の書簡の読解を進めた。

丹治 雄一（学芸部長・歴史・近代）

- (ア)a 「横浜開港と神奈川県の誕生」（谷口肇編『日本史のなかの神奈川県』、山川出版社、pp.106-117、8月）
- c 「寄贈資料「宮地正彰関係資料」と明治屋」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第50号、pp.63-76、12月、山下春菜と共著）
- (イ) 「真鶴町教育委員会蔵「土屋家石材関係文書」について」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
- (エ) 「神奈川県立歴史博物館」（『よこはま港』第153号、pp.2-3、4月）
「旧横浜正金銀行本店本館と半田赤レンガ建物の共通点と両建物の未来」（『赤煉瓦倶楽部半田会報』第42号、pp.3-4、8月）
- (オ) 茅ヶ崎市博物館協議会委員、首都圏形成史研究会常任委員
- (カ)a 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会地学グループ講座・観察会「鋸山の地質・石材」（千葉県富津市鋸山周辺、6月10日）
「横浜に始まる日本ビール産業の歴史」（東京ミロク会計人会神奈川地区定期総会基調講演、7月10日）
箱根ジオパーク一般講座「白丁場石—忘れられた近代建築用石材—」（湯河原町、2月25日）
- b 旧横浜正金銀行本店本館建物見学会Ⅰ（4月22日）Ⅱ（7月1日）Ⅲ（12月6日）Ⅳ（3月6日）
- (キ) 科学研究費助成事業にかかる近代石材産業史研究として、これまでに調査した「鈴木家文書」（静岡県河津町教育委員会蔵）と「土屋家石材関係文書」（真鶴町教育委員会蔵）の内容分析と研究のまとめを行った。また、当館建物である旧横浜正金銀行本店本館の建築関係資料の調査にも継続的に取り組んだ。

桑山 童奈（企画普及課長・美術〔絵画〕）

- (イ) 「錦絵にみる政府高官の肖像の研究」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
第28回国際浮世絵学会秋季大会シンポジウム「浮世絵と社会情勢」のうち「横浜開港と浮世絵」（神奈川大学みなとみらいキャンパス、11月25日）
- (エ) 「研究会報告 島根県立美術館「永田コレクションの全貌公開〈一章〉北斎 春朗期宗理期編」」（『浮世絵芸術』187号、pp.40）
- (オ) 国際浮世絵学会常任理事・企画委員委員長、藤沢市藤澤浮世絵館運営委員、公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員
- (カ)a 伊勢原市いせはら歴史解説アドバイザー養成講座「絵画資料の基礎知識」（伊勢原市中央公民館、10月17日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「御上洛東海道」、5月）
高校生浮世絵講座（8月22日、23日）
- c 「江戸時代の浮世絵を学ぶ」（平塚市立岡崎小学校、2月20日）
- (キ) 錦絵に描かれた明治政府高官の肖像に関する研究を継続中。

（古代）

佐藤 兼理（学芸員・考古）

- (イ) 「竪穴住居からみた弥生社会—南関東多摩丘陵を中心に—」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、6月）

「神奈川県間口洞穴遺跡出土土器の脂質分析」共同発表（日本文化財科学会第40回記念大会（ポスター）、奈良県立なら歴史芸術文化村、10月21日、22日）

「赤星直忠による関東大震災被災機関への復興支援」共同発表（日本文化財科学会第40回記念大会（ポスター）、奈良県立なら歴史芸術文化村、10月21日、22日）

(オ) 神奈川県考古学会役員

(カ) a 洋光台サイエンスクラブ「縄文土器のジョーモンの正体とは？」（はまぎんこども宇宙科学館、10月8日）

神奈川県文化遺産課考古学講座第5回「住居の考古学—先史時代の住まいを考える—」（かながわ県民センター、12月2日）

(キ) 鶴見川・早淵川流域の弥生時代中期後葉の竪穴住居の集成・分析を行った。また、南関東の初期農耕集落の調査として千葉県南房総市仮家塚遺跡の発掘調査、洞窟遺跡の調査として三浦市白石洞穴の発掘調査に参加した。これらの調査より先史時代の住まいの研究を進めていった。

(中世)

渡邊 浩貴（学芸員・歴史）

(ア) a 「中世房総の菩薩面と迎講—千葉県君津市建暦寺所蔵菩薩面の事例から—」（『民俗芸能研究』第74号、pp. 47-69、民俗芸能学会編集委員会、10月、査読付き）

「鎌倉幕府の音楽と地下楽人—都市鎌倉の成長と「独自編成型」の音楽受容—」（『神奈川県立博物館—人文科学—』第50号、pp. 1-32、神奈川県立歴史博物館、12月、査読付き）

「源義朝権力の地域基盤と武士拠点—「義朝ガーン郎等」鎌田正清と東海地域の場合—」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第245集、pp. 65-90、国立歴史民俗博物館、2月、査読付き）

b 「佐原一族と都市鎌倉・満願寺」（『シンポジウム 満願寺の瓦にみる三浦一族』pp. 17-20、神奈川県立歴史博物館、1月）

「[新刊案内] 真鍋淳哉著『藤沢市史ブックレット12 藤沢の戦国時代』」（『地方史研究』427号、pp. 169-170、2月）

c 「調査研究活動報告 中世益田の武家領主本拠調査」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第245集、田中大喜と共著、pp. 301-398、国立歴史民俗博物館、2月）

(イ) 「源義朝の武力編成と地域勢力」（相模の古代を考える会、海老名市民活動センター、6月10日）

「東大寺お水取りと講社の歴史民俗学的研究—東大寺領伊賀国黒田荘と伊賀一ノ井松明講の事例から—」（調査研究成果報告会、神奈川県立歴史博物館、6月）

「伊豆狩野一族と初期鎌倉幕府の文化形成」（鎌倉御家人研究会6月例会報告、神奈川県立歴史博物館、6月18日）

「津毛利神社の「王の舞面」と甲斐源氏安田義定」（鎌倉御家人研究会10月例会報告、神奈川県立歴史博物館、10月14日）

「佐原一族と都市鎌倉・満願寺」（『シンポジウム 満願寺の瓦にみる三浦一族』ヴェルクよこすか、1月28日）

「西遷御家人の文化摩擦—駿河国鮫島氏の場合—」（鎌倉御家人研究会2月例会報告、神奈川県立歴史博物館、2月24日）

「文治四年銘の納曾利面—静岡県賀久留神社所蔵舞楽面の紹介をかねて—」（鎌倉御家人研究会3月例会報告、神奈川県立歴史博物館、3月23日）

(ウ) リーフレット『シンポジウム 満願寺の瓦にみる三浦一族』（編著、神奈川県立歴史博物館、1月）

(エ) NEXCO 東日本「鎌倉の黄昏」（E-NEXCO よこはまナビ vol. 33 [連載企画] 過去と未来をつなぐ道 かながわ街道歴史散歩）

(オ) 地方史研究協議会常任委員、立川市史編さん室古代・中世史部会主任調査員

(カ) a 津毛利神社市民講座「「王の舞面」と中世浜松周辺の芸能」（津毛利神社、9月18日）

NHK 学園くにたちオープンスクール「『曾我物語』と東国武士団」（NHK 学園、10月28日、29日）
茨城大学・集中講義（日本古代中世史Ⅰ）「日本古代・中世の豪族・領主と地域社会」講座「中世武家本拠と地域の開発・交流・荘園—フィールドワークの現場から—」（茨城大学、12月10日）

c 「中世武士の鎌倉」（フェリス女学院中学校、1月12日）

(キ) a 「武士本拠と地域開発の景観復原的研究」を個人の研究テーマとし、荘園・村落での現地調査を行

いながら、中世景観の復原作業を実施した。上記に加えて「中世都市鎌倉の音楽受容と地域的展開」の研究も行い、都市鎌倉や武士本拠での文化受容の実相を音楽芸能の視座から研究を行っている。

梯 弘人(学芸員・歴史)

- (ア)b 「戦国大名北条氏による海産物の調達～特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」のご紹介」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻225号、pp.7-8、神奈川県立歴史博物館、2月)
- (イ) 「「例外」とされた北条家朱印状について」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
「戦国大名の儀礼における喫茶の意識」(シンポジウム「茶の湯の歴史を問い直す」日本教育会館、7月29日)
- (ウ) 「小田原城の戦い―秀吉による天下統一の達成」(渡邊大門編『天下人の攻城戦』朝日新書919、pp.183-202、朝日新聞出版、7月)
- (カ)a 玉縄すこやかセンター歴史講座「小田原合戦―家康関東来訪のきっかけ―」(玉縄すこやかセンター、11月22日)
玉縄すこやかセンター歴史講座「家康と鎌倉のかかわり」(玉縄すこやかセンター、12月6日)
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「戦国時代の動乱に巻き込まれた円覚寺と戦国大名北条氏の危機対応」、6月)
教員のための博物館講座「鎧兜の移り変わりからみる歴史」(8月1日)
展示解説 特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」(3月24日、27日)
特別陳列講演会「北条家朱印状の謎に迫る」(3月31日)
- c 「鎧兜の移り変わりから見る歴史」(横須賀市立粟田小学校、10月11日)
「鎧兜の移り変わりから見る歴史」(横浜市立相沢小学校、10月26日)
「鎧兜の移り変わりから見る歴史」(横浜市立上寺尾小学校、11月14日)
「鎧兜の移り変わりから見る歴史」(川崎市立下沼部小学校、12月8日)
- (キ) 特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」の展示準備のための調査を行った。

神野 祐太(学芸員・美術〔彫刻〕)

- (ア)a 「足柄の仏像」(神奈川県立歴史博物館編『足柄の仏像』図録、pp.10-16、神奈川県立歴史博物館、10月)
- b 「特別展「足柄の仏像」のみどころ」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻224号、pp.2-5、神奈川県立歴史博物館、8月)
「isumu 学芸員さんに聞きました Vol.8 神奈川県立歴史博物館 神野祐太さん」(イスマホームページ、8月)
「令和4年度第4回研修会座談会「博物館にかかわるそれぞれの立場での課題と展望」」(『神奈川県博物館協会会報』第95号、大西亘・平井宏典・笠松舞・亀山貴と共著、pp.7-14、3月)
「神奈川県博物館協会総合防災計画活動報告」(『神奈川県博物館協会会報』第95号、pp.74-75、3月)
- c 「根津美術館所蔵の銅造勢至菩薩立像について」(『根津美術館紀要―此君一』第14号、pp.43-57、3月)
「四万十市長法寺仏像調査報告」(『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第28号、那須望と共著、pp.36-55、3月)
- (イ) 「当館所蔵の銅造観音菩薩立像(鎌倉時代)について」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
- (ウ) 図版解説(神奈川県立歴史博物館編『足柄の仏像』図録、pp.130-151、神奈川県立歴史博物館、10月)
- (エ) 「特別展 足柄の仏像 ① 千代廃寺と飛鳥時代の仏像」(『毎日新聞 神奈川版』、10月18日)
「ぎゃらりいモール 万巻上人坐像」(『読売新聞』、10月23日)
「特別展 足柄の仏像 ② 箱根神社の万巻上人坐像」(『毎日新聞 神奈川版』、10月25日)
「特別展 足柄の仏像 ③ 平安の毘沙門天立像」(『毎日新聞 神奈川版』、11月1日)

- 「特別展 足柄の仏像 ④ 鎌倉時代の靈驗仏」(『毎日新聞 神奈川版』、11月7日)
- 「特別展 足柄の仏像 ⑤ 箱根・興福院の菩薩像頭部」(『毎日新聞 神奈川版』、11月15日)
- (カ) a 南足柄市弘濟寺「弘濟寺地藏尊と足柄の仏像」(弘濟寺本堂、6月10日)
- 浄土宗小田原組総代世話人会「足柄の仏像にであう一酒匂川流域のみほとけたち」(小田原市春光院、6月24日)
- 神奈川県文化財協会第5回見学会「特別展「足柄の仏像」」(神奈川県立歴史博物館、10月18日、19日)
- NPO 法人南足柄市観光ボランティアガイド「特別展「足柄の仏像」」(神奈川県立歴史博物館、11月8日)
- 國寶史蹟研究会「特別展「足柄の仏像」」(神奈川県立歴史博物館、11月11日)
- 伊勢原市いせはら歴史解説アドバイザー養成講座第22回「仏像の基礎知識」(伊勢原市中央公民館、11月21日)
- 神奈川県博物館協会防災訓練「総合防災計画について」(神奈川県立歴史博物館、2月27日)
- 神奈川県博物館協会防災訓練「神奈川県立歴史博物館の緊急搬出訓練について」(神奈川県立歴史博物館講堂、2月27日)
- b 展示解説 特別展「足柄の仏像」(10月9日、20日、28日、11月11日、17日、23日、25日)
- 県博講座「足柄地域のみほとけたち ① 足柄をとりまく仏像とその歴史」(10月15日)
- 現地見学会「元箱根磨崖仏をみる」(10月25日)
- 子ども向け体験教室解説「ほとけさまのアクセサリーをつくろう!」(11月5日)
- ミュージアムトーク「今月の逸品」(「阿彌陀如来立像(鎌倉時代)」、2月)
- c 「足柄の仏像を好きになる」(横浜市立桂台小学校、11月7日)
- (キ) 本年度も引き続き足柄地方の仏像を中心に調査撮影を実施した。秋には特別展「足柄の仏像」を開催し、日頃の研究成果を広く公開することができた。特別展終了後も足柄地域の平安仏の構造に注目し調査研究を進めている。令和6年に入ってから、千葉・静岡・長野・広島等に伝わる仮面類について調査を行った。

橋本 遼太 (学芸員・美術 [絵画])

- (ア) a 「祥啓の画業と啓書記の受容」(神奈川県立歴史博物館編『あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—』図録、pp. 178-184、神奈川県立歴史博物館、4月)
- (イ) 「祥啓とその画系の絵師が残した作品の改変について」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
- (ウ) 特別展図録『あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—』(神奈川県立歴史博物館、4月)
- (エ) 「和魂漢才—書画のススメ「重要文化財 祥啓「喜江禅師像 玉隠英瑛賛」」(『美術の窓』2023年5月号、pp. 116, 117、4月20日)
- 「特別展 あこがれの祥啓 啓書記の幻影と実像 ① 細部まで高い技術駆使 室町幕府秘蔵の中国絵画を実見」(『毎日新聞神奈川版』、5月10日)
- 「特別展 あこがれの祥啓 啓書記の幻影と実像 ② 師と記される仲安真康 小田原の寺院所蔵十三仏図に手がかり」(『毎日新聞神奈川版』、5月17日)
- 「特別展 あこがれの祥啓 啓書記の幻影と実像 ③ 次世代の絵師に影響 山水図・花鳥図 描法に個性重ねる」(『毎日新聞神奈川版』、5月24日)
- 「特別展 あこがれの祥啓 啓書記の幻影と実像 ④ ブランド確立、狩野派貢献 鑑定絵師 世代超えお墨付き」(『毎日新聞神奈川版』、5月31日)
- (カ) a 國寶史蹟研究会「特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」」(神奈川県立歴史博物館、5月13日、6月17日)
- 神奈川県文化財協会総会「特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」」(神奈川県立歴史博物館、5月17日)
- 2023年度 ICP「鎌倉をめぐる歴史と文化」講座「鎌倉ゆかりの画僧祥啓」(若宮大路ビル、5月28日)
- 神奈川県文化財協会第1回見学会「特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」」(神奈川県立歴史博物館、6月7日、8日)

- b 特別展「あこがれの祥啓一啓書記の幻影と実像」 子ども向け展示解説（神奈川県立歴史博物館、5月5日）
展示解説 特別展「あこがれの祥啓一啓書記の幻影と実像」（5月6日、13日、20日、27日、6月3日、10日、17日）
県博セミナー「画僧祥啓の生涯とその絵の魅力 ① 祥啓の画業と啓書記の受容」（神奈川県立歴史博物館、5月21日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「方外印 三教図扇面」、9月）
- c 「中世の美術（絵画）室町絵画の魅力」（大和市立桜丘小学校、9月6日）
「中世の美術（絵画）室町絵画の魅力」（川崎市立子母口小学校、9月27日）
「中世の美術（絵画）室町絵画の魅力」（フェリス女学院高等学校、11月22日、24日）
- (キ) 室町時代に活動した建長寺の画僧祥啓の画業とその後世における受容について調査研究を継続している。

鈴木 愛乃（学芸員・美術〔工芸〕）

- (ア)b 「横浜と輸出漆器 近代輸出漆器のダイナミズム」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻225号、pp.2-5、神奈川県立歴史博物館、2月）
- c 「当館所蔵 横浜写真アルバムの表紙について—輸出漆器としての観点から—」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第50号、pp.49-62、神奈川県立歴史博物館、12月）
- (イ) 近代横浜における輸出漆器制作について（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
- (ウ) 章解説「博覧会と輸出工芸」、テーマ解説「横浜の製陶業、眞葛焼、宮川香山」ほか2件、コラム「図案」、図版解説「飾棚」ほか23件（『近代日本の視覚開花 明治 呼応し合う西洋と日本のイメージ』、風媒社、4月）
- (カ)a 「『明治』をめぐるリレートーク 横浜の輸出工芸 陶磁器・漆器とその周辺」（愛知県美術館、5月7日）
- b 大学生向け体験講座「博物館の裏側を知ろう」（6月25日）
ミュージアムトーク「今月の逸品」（「横浜写真アルバムの表紙」、8月）
博物館入門講座「学芸員の目と技」（9月24日）
- c 「博物館・学芸員の仕事」（横浜市立上飯田小学校、11月30日）
- (キ) 館所蔵・保管資料（中世工芸および近代工芸）に関する調査研究、整理作業と、近代の横浜における輸出工芸について調査研究を行った。令和5年4月14日から開催された愛知県美術館の特別展「近代日本の視覚開花 明治 呼応し合う西洋と日本のイメージ」に協力した。年度の半ばから、近代の漆器に関して各産地を回り実地調査を行った。近代輸出漆器をテーマとする特別展の開催に際し、準備を行った。

樋口 美咲（臨時学芸員・美術〔絵画〕）

- (ア)a 「研究ノート 東京藝術大学蔵《北斗曼荼羅図》に関する小考」（『東京藝術大学美術学部論叢』第20号、pp.21-34、東京藝術大学美術学部、3月）
- (キ) 館蔵品や借用・寄託資料の仏教美術、とりわけ中世密教絵画の調査・研究に取り組み、その成果を常設展示にて公開した。

（近世）

寺西 明子（学芸員・歴史）

- (ア)b 「コレクション展「藤助さんと幕末」によせて」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻225号、pp.6-7、神奈川県立歴史博物館、2月）
- (イ) 「久崎教生家文書概説—久崎輝男氏による郷土資料収集—」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
- (エ) 「神奈川県立歴史博物館所蔵「松平造酒助江戸在勤日記」の研究及び展示を回顧して」（『岡山藩研究』93号、pp.4-5、岡山藩研究会、10月）
- (カ)a 「鈴木藤助日記」（神奈川県立神奈川総合産業高校、神奈川県立神奈川総合産業高校、10月）

7月6日)

健康都市大学「江戸幕末期の日記を読む」、①「日記からみる幕末の世相」、②「地方武士のみた幕末」、③「或る村人のみた幕末」(やまとみらい主催(文化創造拠点等 指定管理者) / 大和市生涯学習センター、大和市文化創造拠点シリウス、10月19日、30日、11月6日)

県広報ラジオ番組「KANAGAWA Muffin」「かながわ東海道トリビア」(FMヨコハマ、10月28日)

國寶史蹟研究会「コレクション展 藤助さんと幕末」(神奈川県立歴史博物館、2月21日)

高等学校社会科部会日本史研究推進委員会 コレクション展示見学会(神奈川県立歴史博物館、3月6日)

- b 展示解説 コレクション展「藤助さんと幕末」(2月24日、3月2日、9日、16日)
連続古文書講座「藤助日記を読む ① 藤助さんと幕末」(2月25日)、「藤助日記を読む ③ 藤助さんと家族」(3月10日)
講演会「村に残る日記から何がわかるか—地方から見る近世・近代産業の転換—」「地方有力農民による醤油醸造業経営」(3月17日)
コレクション展「藤助さんと幕末」展示解説動画(岡田和子・根本佐智子と共同制作)
第一弾「動画で見る鈴木藤助」2月16日公開
第二弾「動画で見る現在の長尾村」2月16日公開
第三弾「動画で見る修復と活用」(展示室内で公開)
第四弾「動画で見る暦と日記のルール」3月13日公開
第五弾「動画で見る藤助さんと食べ物」3月13日公開
- c 「博物館・学芸員の仕事」(湘南白百合学園中学校、5月16日)
「博物館・学芸員の仕事」・ワークショップ(橘学苑高等学校、9月2日)
「旅のよそおいとかながわの名所」(横須賀市立明浜小学校、11月17日)
- (キ) 甲州道中与瀬宿坂本家文書の調査研究を継続するほか、矢倉沢村田代家文書等新規受入文書群の整理を行った。また、昨年度より研究を継続していた鈴木快輔家資料「鈴木藤助日記」についての成果をコレクション展において発表した。

根本 佐智子(非常勤学芸員・歴史)

- (ア)a 「近世多摩川における御留川と御用獵師」(村井早苗編『変容する近世関東の村と社会』岩田書院、pp.57-96、5月)
- (イ) 「神奈川県立歴史博物館所蔵 津村腰越村と片瀬村魚獵場出入裁許絵図について」(調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
「松平造酒助の江戸在勤」(岡山藩研究会主催、オンライン、7月29日)
- (エ) 「特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記—武士の絵日記—」に見る松平造酒助の江戸在勤生活」(『かながわ文化財』119号、pp.58-62、神奈川県文化財協会、5月)
「松平造酒助の江戸在勤」(『岡山藩研究』93号、pp.1-3、岡山藩研究会、10月)
- (カ)a 「松平造酒助江戸在勤日記」(神奈川県高等学校教科研究会社会科部会主催、神奈川県立神奈川総合産業高校、7月6日)
「武士の絵日記—松平造酒助江戸在勤日記—挿絵から見る造酒助の380日」(横浜古文書を読む会主催、横浜市歴史博物館、8月25日)
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」(「あしがらの古文書～矢倉沢村田代家文書矢倉沢関所関係資料～」、10月)
連続古文書講座「藤助日記を読む ② 旅する藤助さん」(3月3日)
コレクション展「藤助さんと幕末」展示解説動画(岡田和子・寺西明子と共同制作)
第一弾「動画で見る鈴木藤助」2月16日公開
第二弾「動画で見る現在の長尾村」2月16日公開
第三弾「動画で見る修復と活用」(展示室内で公開)
第四弾「動画で見る暦と日記のルール」3月13日公開
第五弾「動画で見る藤助さんと食べ物」3月13日公開
- c 「絵図で見る江戸時代」(横浜市立綱島小学校、10月13日)

- (キ) 神奈川県内における裁許絵図の研究。昨年度寄贈を受けた矢倉沢村田代家文書の整理・調査研究を進める中で、矢倉沢関所および足柄地域の災害（宝永噴火・元禄地震）について研究し、トピック展「あしがらの古文書」で発表した。

山口 希（非常勤学芸員・美術〔絵画〕）

- (ア)b 「資料紹介 小林清親「川俣絹布整練株式会社カレンダー」明治43年版」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻224号、pp.6-7、神奈川県立歴史博物館、8月）
- (イ) 「杉浦非水と三越一光琳模様を巡る広報戦略」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
第28回国際浮世絵秋季大会研究発表「川俣絹布整練株式会社と錦絵カレンダー —明治43年小林清親版を中心に—」（神奈川大学みなとみらいキャンパス、11月25日）
- (カ)b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「東風俗 福つくし」、11月）
- (キ) 常設展示、トピック展示に向け収蔵資料の情報の整理と研究を行った。また、個人の研究としては明治42年から45年にかけて制作された「川俣絹布整練株式会社錦絵カレンダー」についての調査と、明治後期から昭和初期にかけて活躍したグラフィックデザイナー杉浦非水の研究に取り組んだ。

(近代)

嶋村 元宏（主任学芸員・歴史）

- (ア)a 「幕末期における「開国」認識」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第50号、pp.33-48、12月）
- (イ) 「ペリー艦隊随行画家ヴィルヘルム・ハイネの画像にみる日本とアジア」（調査研究報告会、神奈川県立歴史博物館、6月）
View of Japan and Asia in the Illustrations of Perry's Expedition, Association for Asian Studies in Asia Conference, Daegu（大韓民国国立慶北大学、6月25日）
- (エ) 「注目的 西洋の音楽と楽器—吹奏楽のはじまり」（『開国のまち横須賀 ザ ブラスクルーズ2023』吹奏楽で横須賀の魅力をさらにUPさせよう有志の会、12月）
「祝祭を盛り上げた軍楽隊 鳴り物と行列」（『開国のまち横須賀 ザ ブラスクルーズ2023』吹奏楽で横須賀の魅力をさらにUPさせよう有志の会、12月）
「愛国心を高揚させた軍楽隊 アメリカ人による日本発の吹奏楽演奏」（『開国のまち横須賀 ザ ブラスクルーズ2023』吹奏楽で横須賀の魅力をさらにUPさせよう有志の会、12月）
- (オ) 明治維新史学会誌編集委員
- (カ)a 横須賀開国史研究会総会記念講演会「描かれたペリー来航—画像資料にみる日本開国—」（横須賀芸術劇場、6月3日）
- b ミュージアムトーク「今月の逸品」（阿部家資料「咬啮吧都督職筆記和解・甲必丹差出候封書和解」、7月）
講演会「オランダ別段風説書を読む」（1月27日）
- c 「日本の開国と異文化交流」（相模原市立共和小学校、1月25日）
- (キ) 「19世紀中葉における国際秩序の変容」をメインテーマに研究を継続するとともに、一昨年度より3カ年間を研究期間として新たに採択されたJSPS科研費JP21K00824「開国期・「虚像」による日本観の形成に関する基礎的研究」の成果の一部を、Association for Asian Studiesが大韓民国大邱で開催したConferenceで報告した。また、昨年度終了したJSPS科研費JP20H01314の成果を論集として刊行すべく原稿を取りまとめた。

山下 春菜（非常勤学芸員・歴史）

- (ア)b 「民権ネットワーク【佐賀県】」（『自由民権』36号、pp.82-83、町田市立自由民権資料館、3月）
「資料紹介『宮地正彰関係資料』より明治屋と新条約実施祝典園遊会写真について」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻223号、pp.6-7、神奈川県立歴史博物館、5月）
- c 「寄贈資料「宮地正彰関係資料」と明治屋」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第50号、pp.63-76、12月、丹治雄一と共著）

- (イ) 「佐賀における大同団結運動と地域社会」 (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
- (エ) 「常設展からのメッセージ「自由民権運動と地域」」 (『ボランティアニュース』93号、pp.1-4、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、11月)
- (オ) 清瀬市史編さん委員 (近代部会)、さいたま市史編さん委員 (現代部会)
- (カ) b ミュージアムトーク「今月の逸品」 (「民権双六」、12月)
 - c 「自由民権運動と地域社会」 (小田原市立早川小学校、11月2日)
- (キ) 主に自由民権運動関係の館蔵資料を中心に調査研究を行った。また年度後期は特別展「かながわへのまなざし」の資料撮影業務の補助業務を行った。その他、以前より研究課題としている九州土族の動向の中で、特に佐賀県の第1~6回衆議院議員総選挙について、また佐賀の乱の慰霊に関する調査研究に取り組んだ。

角田 拓朗 (主任学芸員・美術 [絵画])

- (イ) 「青木文庫の概要及びその特色について」 (調査研究報告会、神奈川県立歴史博物館、6月)
Meiji Art Historical Research in Japan: An Overview, With Notes on My Research Trajectory (The Mary Griggs Burke Center for Japanese Art, Columbia University 807 Schermerhorn Hall, 10月)
Exhibiting Meiji Art And Culture: Curatorial Perspectives (Japanese Art Society of America, Online, 11月)
- (ウ) 共編著『近代日本の視覚開化 明治—呼応し合う西洋と日本のイメージ』(pp.68-69、風媒社、4月)
- (エ) 「風景版画の制作者たち 伝統とモダンの間で(川瀬巴水と新版画の作家たち)」 (『別冊太陽』314、pp.104-105ほか、平凡社、3月)
- (オ) 明治美術学会監事・編集委員、松戸市美術品等選定委員会委員、馬車道日曜画家展審査委員
- (カ) a 愛知県美術館企画展示関連イベント「「明治」をめぐるリレートーク」講師「『美術』のつくられかた—明治のモノづくりの分岐点」 (愛知県美術館、4月15日)
明治美術学会例会・特集「関東大震災から100年を機にふり返る」「特別展 関東大震災」紹介関東大震災と美術、横浜」、神奈川県立歴史博物館、9月10日)
 - b ミュージアムトーク「今月の逸品」 (「五姓田義松 明治を描く—故西川杏太郎元館長への哀悼を込めて」、4月)
- (キ) 令和5年度は、愛知県美術館で開催した当館近代美術コレクションの大規模出開帳展に対応し、同展にあわせて明治美術学会例会を開催した。秋はアメリカNYで口頭発表、11月はオンラインでアメリカ国内の日本美術コレクターに向けたレクチャーを実施。いずれも明治美術をテーマとする。同時並行で、令和6年開催予定の近代輸出漆器展にかかる調査を実施。

小川 咲良 (非常勤学芸員・美術 [工芸])

- (イ) 「17世紀中期の伊万里焼における多彩釉磁器の考察—三足皿の作例を中心として—」 (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月)
- (キ) 館寄託資料受入れのための整理を進めた。初代から3代までの井上良斎について、横浜市内に残る3代の登り窯での作品の実見調査、および文献での調査研究に取り組み、常設展において館蔵の3代井上良斎の作品、および眞葛窯陶片の展示を行った。

(現代)

武田 周一郎 (学芸員・歴史)

- (ア) b 「関東大震災からの復興に尽くした岸敬二郎の信念—過去を煩悶せず 現在に努力し 将来に希望を持つ—」 (『神奈川県立歴史博物館だより』通巻223号、pp.2-5、神奈川県立歴史博物館、5月)
- (イ) 「二周年・三周年震災復興状況写真帳に関する基礎的検討」 (調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、pp.8-9、6月)
- (ウ) 特別展図録『社寺明細帳図—明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿—』 (コラム執筆、神奈川県立金沢文庫、5月)

特別展図録『関東大震災—原点は100年前—』（編集、神奈川県立歴史博物館、7月）

『研究成果報告書 近代東アジアにおける地図製図・印刷技術の展開過程に関する基礎的研究』（編集、神奈川県立歴史博物館、2月）

- (エ) 「「神奈川県鳥瞰図」にみる震災復興期の横浜とその周辺」（『港湾』100巻8号、pp.16-17、日本港湾協会、8月）
 - 「特別展 関東大震災—原点は100年前— ① 倒壊免れた生き証人」（『毎日新聞神奈川版』、8月16日）
 - 「特別展 関東大震災—原点は100年前— ② 国府津・大磯で隆起」（『毎日新聞神奈川版』、8月23日）
 - 「特別展 関東大震災—原点は100年前— ③ 被害莫大でも前向き」（『毎日新聞神奈川版』、8月30日）
 - 「特別展 関東大震災—原点は100年前— ④ 鳥瞰図に現在の骨格」（『毎日新聞神奈川版』、9月6日）
- 「吉田初三郎「関東震災全地域鳥瞰図絵」（『美術の窓』42巻9号、pp.20-21、生活の友社、9月）
- 「神奈川の震災被害」（『地図情報』43巻3号、pp.18-21、地図情報センター、11月）
- 「県立歴史博物館 特別展「関東大震災」と伊勢山皇大神宮」（『社報』22号、pp.4-6、伊勢山皇大神宮、11月）
- (カ) 首都圏形成史研究会常任委員、歴史地理学会編集委員、同評議員、同常任委員
- (カ) a 金沢区生涯学習「うみねこ」講座「関東大震災とその復興」（横浜市能見台地区センター、8月8日）
 - 神奈川県文化財協会第3回見学会「特別展「関東大震災—原点は100年前—」（神奈川県立歴史博物館、8月16日、17日）
 - かながわコミュニティカレッジ講座「関東大震災100年目の記憶」（かながわ県民センター、10月13日）
 - 鶴見歴史の会講座「芝浦製作所の岸敬二郎と関東大震災」（横浜市寺尾地区センター、10月28日）
 - 横須賀市市民大学講座「地図で見る神奈川の近代」（横須賀市生涯学習センター、12月14日、1月14日）
 - 藤沢市湘南大庭市民図書館講座「過去の歴史から学ぶ—神奈川県や藤沢市の被害を振り返る」（藤沢市湘南大庭市民図書館、2月18日）
- b 連続講座「関東大震災を知る ② 神奈川と関東大震災」（8月5日）
 - 展示解説 特別展「関東大震災」（8月6日、20日、9月2日）
 - 子ども向け展示解説「横浜正金銀行と関東大震災」（8月13日、26日）
 - 連携講座「神奈川県西部の災害を知る」（県立生命の星・地球博物館、8月31日）
 - ミュージアムトーク「今月の逸品」（「2冊の震災復興状況写真帳」、3月）
- (キ) 主に館蔵現代資料を対象として調査を進め、特別展「関東大震災—原点は100年前—」を担当した。また、科研費の研究課題として特に地図の印刷技術に関する調査に取り組んだ。

(民俗)

新井 裕美（主任学芸員・民俗）

- (イ) 「大磯 脇家の婚礼について」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
- (ウ) 科学研究費成果報告書『南関東地方における湯立神楽の基礎的研究』（研究代表者、2月）
- (オ) 厚木市七沢石工道具調査委員
- (カ) a 「秦野市の盆行事」（秦野市、8月11日）
 - b 高校生インターンシップ収蔵資料整理業務（8月4日）
 - c 「博物館・学芸員の仕事」（横浜市立新田中学校、1月19日）
- (キ) 南関東地方における湯立神楽の比較研究を行い、その成果として報告書を刊行した。また、多摩川流域の雨乞い習俗や祭礼について文献等から事例を収集した。

三浦 麻緒（非常勤学芸員・民俗）

- (ア) a 「川崎市域と東京都南西部の湯立神楽・湯立神事」「湯立神楽・湯立神事分布図」「神奈川県湯立神楽・湯立神事一覧」「東京都 湯立神楽・湯立神事一覧」（『2019年度～2023年度科学研究費助成事業 基盤（C）研究成果報告書 課題番号 19K01218 南関東地方における湯立神楽の基礎的研究』、pp. 11-14、98-103、研究代表者 新井裕美、神奈川県立歴史博物館、2月）
- c 「当館所蔵 高座郡小出村遠藤のエビス講関連書類について」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第50号、pp. 77-84、12月）
- (イ) 「藤沢市遠藤のエビス講関連書類について」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、5月）
- (カ) b ミュージアムトーク「今月の逸品」（「小絵馬」、1月）
- (キ) 館所蔵の民俗資料の整理。科学研究費の研究分担者として神奈川県と近隣地域の湯立神楽についての事例を収集・整理した。連携研究のメンバーとして多摩川の漁撈について調査研究を行った。

（その他）

中村 菜貴（非常勤資料整理員・美術・近現代）

- (イ) 「創造美育協会関係資料群の特徴—島崎清海旧蔵資料について」（「書物・出版と社会変容」研究会第159回、オンライン、5月）
「1. 島崎清海旧蔵資料の寄贈について、2. 東京経済大学史料室所蔵品調査—(1) 北條玉洞《北幽清夏》に描かれた風景について、(2) 北村透谷の硯」（調査研究成果報告会紙上報告、神奈川県立歴史博物館、6月）
- (イ) 戦後日本の美術教育に関する資料調査、及び寄贈の仲介をした。また、三木宗策のアトリエ、瑛九のアトリエへ解体前に訪問し、資料の運び出しの準備・アーカイブの作業に協力した。

市野 悦子（非常勤学芸員・教育普及）

- (ア) b 「THE けんぱく PUNCH 神奈川県文化財協会ってなに？」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻223号、pp. 8、神奈川県立歴史博物館、5月）
「THE けんぱく PUNCH 学校と博物館の連携」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻224号、pp. 8、神奈川県立歴史博物館、8月）

大柳 麻美（非常勤学芸員・教育普及）

- (ア) b 「若年層に向けた来館意欲を高める事業について」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第50号、pp. 85-98、神奈川県立歴史博物館、12月）

4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、カ その他

(1) 考古資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	壺（神奈川県立横須賀高等学校裏山遺跡）他	平成7年2月10日	-	1件3点
2	灰釉陶器碗（上浜田遺跡）他	平成30年4月12日	-	108件232点
合計				109件235点

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	石斧 他	笹山丘の上ミュージアム	令和6年3月27日	13件16点
合計				13件16点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	石器類・手帳（森野コレクション）	令和5年3月29日	2件一括
合計			2件一括

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	小林幸雄氏コレクション	横浜市鶴見区役所・横浜市末吉地区センター1Fロビー 地域の文化財に対する啓発	展示	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	1件72点
2	三浦市間口洞窟遺跡出土 土器片	個人・調査研究のため	土器の脂質分析（資料破壊を含む）	令和5年7月23日 ～8月23日	一括
3	三浦市間口洞窟遺跡出土動物遺体（魚骨）	個人・調査研究のため	現生標本との照合同定計測撮影等	令和5年9月7日 ～9月21日	一括
4	公田ジョウロ塚遺跡土製頭部片	十日町市博物館 特別展「縄文人の喜怒哀楽」に展示するため	展示	令和5年9月30日 ～11月12日	1件1点
合計					4件73点他

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	三浦市間口洞窟遺跡出土 鹿角片	個人・研究のため	熟覧 計測 撮影	令和5年6月1日	1件1点
2	三浦市間口洞窟遺跡出土 土器片	個人・研究のため	熟覧 メモ 撮影	令和5年6月11日	一括
3	三浦市遊ヶ崎遺跡出土 土器	個人・研究のため	熟覧 計測 撮影	令和5年7月7日	一括
4	三浦市間口洞窟遺跡出土動物遺体(魚骨)	個人・研究のため	熟覧 撮影 メモ	令和5年9月17日	一括
5	横浜市野島貝塚出土石鉢	個人・研究のため	掲載 (過去 撮影 写真)	令和5年9月19日 ～9月30日	2件15点
	横浜市野島貝塚出土土輪				
6	「材木座発掘史料アルバム」	個人・研究のため	スキ ヤニ ング	令和5年9月30日～ 令和6年2月22日	1件1点
7	縄文式土器 深鉢 小俣徳一コレクション(第1次)	個人・研究のため	熟覧 実測 写真 撮影	令和5年10月19日	2件2点
	縄文土器 深鉢 林國治コレクション				
8	間口洞穴出土土輪の画像	個人・研究のため	撮影 掲載	令和6年2月2日～令 和6年4月30日	3件3点
	間口洞穴・大浦山洞穴出土土輪 の画像				
9	間口洞穴出土 貝輪製品	個人・研究のため	メモ 撮影	令和6年3月5日	一括
合計					13件22点他

(2) 歴史資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	高師秀感状	文和2年(1353)	縦29.2×横42.5cm	1件1点
合計				1件1点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	田代克己家資料	個人(神奈川県在住)	令和5年4月26日	1件5件
2	阿弗利加視察報告書 他	個人(東京都在住)	令和5年8月6日	1件4点
3	渋谷剛一家資料	個人(神奈川県在住)	令和5年11月22日	1件2点
4	半鐘 他	笹山丘の上ミュージアム	令和6年3月26日	16件17点
合計				19件28点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	帝政ロシア製 32 ポンド砲(旧居留地 90 番出土の大砲)	平成 16 年 2 月 1 日	1 件 1 点
2	長谷川氏所蔵文書	平成 23 年 2 月 17 日	1 件 22 点
3	岩松家文書	平成 25 年 2 月 1 日	210 件 350 点
4	稲葉正則書状 他	平成 30 年 7 月 1 日	2 件 2 点
5	栗木全図 他	令和 5 年 8 月 6 日	2 件 2 点
6	三浦郡関係資料 他 (椎橋文雄氏収集資料)	令和 5 年 11 月 22 日	2 件 405 件
合計			218 件 782 点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	烏帽子形兜	昭和 43 年 10 月 22 日	-	1 件 1 点
2	古瀬戸瓶子	昭和 45 年 9 月 1 日	-	1 件 1 点
3	関山家文書	昭和 47 年 9 月 8 日	-	1 件 24 点
4	久崎家文書 他	昭和 47 年 9 月 13 日	-	11 件 197 点
5	瀬戸四耳壺 他	昭和 48 年 7 月 1 日	-	3 件 3 点
6	渥美灰釉壺 他	昭和 48 年 10 月 1 日	-	1 件 6 点
7	本多家文書	昭和 49 年 3 月 1 日	-	1 件 953 点
8	嘆願書	昭和 52 年 3 月 23 日	-	1 件 1 点
9	生麦村新地実測図(神奈川県令 中島信行宛) 他	昭和 52 年 12 月 1 日	-	1 件 5 点
10	舊荻野山中建物之繪図 他	昭和 53 年 12 月 1 日	-	1 件 19 点
11	寺井家文書 他	昭和 55 年 2 月 15 日	-	11 件 16 点
12	散弾銃	昭和 55 年 4 月 1 日	-	1 件 1 点
13	羽柴秀吉知行充行状 天正十一 年六月五日付	昭和 58 年 5 月 20 日	-	1 件 1 点
14	平本家文書	昭和 58 年 10 月 14 日	-	1 件 1,309 点
15	黒船来航絵巻	平成 4 年 5 月 15 日	-	1 件 1 点
16	日月鳳凰螺鈿鞍	平成 4 年 11 月 1 日	-	1 件 1 点
17	旧小田原城天守閣模型	平成 5 年 12 月 15 日	-	1 件 1 点
18	辰御年貢可納割付之事 他	平成 6 年 7 月 20 日	-	2 件 2 点
19	享保十四年九月酉之内検見引牒 他	平成 6 年 10 月 7 日	-	22 件 23 点
20	中国青磁碗 線描き蓮弁文 他	平成 18 年 6 月 1 日	-	1 件 50 点
21	旧横浜正金銀行本店本館改修工 事関係資料	平成 20 年 9 月 1 日	-	1 件 7 点
22	旧横浜正金銀行本店本館彩色立 面図 他	平成 22 年 10 月 15 日	-	1 件 119 点
23	銅造 明治天皇立像 他	平成 23 年 12 月 15 日	-	1 件 3 点
合計				67 件 2,744 点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	鈴木藤助日記	江戸時代	1 件 39 点
合計			1 件 39 点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	豊臣秀吉朱印状	鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム 季節展「鶴岡八幡宮の季節展 春」に展示するため	展示	令和5年4月22日 ～6月30日	2件2点
	伝源頼朝像（複製）				
2	清英戦記	福山城博物館 特別展「幕末、激動の福山藩～そ の序～」に展示するため	展示	令和5年9月30日 ～11月19日	4件4点
	下田之図				
	浦賀台場図				
	諸家上書之写				
3	徳川家康起請文	馬の博物館 「戦国武士と馬」に展示するた め	展示	令和5年10月7日 ～12月3日	3件3点
	徳川家康書状				
	徳川家康書状写				
4	帰源院文書（天文16年）10月 12日付 北条家朱印状	小田原城天守閣 特別展「関東の雄 北条氏綱」に 展示するため	展示	令和5年11月3日 ～令和6年1月14日	2件2点
	関山家文書（借用資料） 大永 4年4月10日付 北条家制札				
5	横浜写真アルバム（D）	神戸市立博物館 特別展「Colorful JAPAN—幕末・ 明治手彩色写真への旅」に展示 するため	展示	令和6年3月29日 ～5月19日	2件2点
	横浜写真アルバム（M）				
合計					13件13点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	阿蘭陀別段風説書 司天台訳 嘉永5年	個人研究調査	熟覧 撮影	令和5年6月1日	1件1点
2	万延元年遣米使節随行スケッチ （谷文一）	個人研究調査	熟覧 撮影	令和5年10月1日	60件60点
3	海外旅券	個人研究調査	熟覧 撮影	令和5年11月1日	1件1点
4	宝永7年 差上申一札之事（入 会山出入ニ付）<L-2>	個人研究調査	熟覧 撮影	令和5年11月4日	8件8点
	貞享元年山論御絵図面口書写 <L-3>				
	享保17年 取替証文之事<L- 4>				
	宝暦2年 入会山出入之儀<L- 5>				
	宝暦6年 差上申一札之事（田 畑山境出入）<L-6>				
	申3月 差上申一札之事（出入 地所吟味ニ付）<B-17>				
	慶安2年 相州七沢村と煤ヶ谷 村田畑境并 山論之事（裁許絵 図）<C-32>				
寛永2年 徳川家光領知朱印状 <その他-31>					

5	北条家文書 山中合戦図・川越合戦図	個人研究調査	熟覧 撮影	令和5年11月15日	1件1点
6	岡田家文書 579 岡田真 新聞発行にあたり一言	個人研究調査	撮影	令和5年11月19日	4件4点
	岡田家文書 745 岡田秀夫 岡田鴨里知人名				
	岡田家文書 759 岡田秀夫 郷土先覚者顕彰記念品包紙				
7	岡田家文書 760 岡田秀夫葬儀諸控帳	個人研究調査	掲載	令和5年12月17日 ～12月19日	3件3点
	万延元年遣米使節随行スケッチ (谷文一)の内、フレドルヒヤコンチネンタルホーテル客舎名				
	万延元年遣米使節随行スケッチ (谷文一)の内、日本使節を出迎えるアメリカ群衆				
8	万延元年遣米使節随行スケッチ (谷文一)の内、日米国旗を掲げた蒸気船	個人研究調査	熟覧 撮影 写真 パネル 展示	令和6年1月27日	53件53点
	神奈川県庁舎建築図面(重要文化財附指定)				
9	黒船 ポーハタン号	個人研究調査	閲覧 撮影	令和6年3月29日	2件2点
	黒船 サスケハナ号				
合計					133件133点

(3) 美術資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	渡辺幽香 西脇清一郎像	明治10年代半ば～明治20年代前半	縦66.0×横76.0×奥行14.5cm	1件1点
合計				1件1点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換 (寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	梶山良助関係資料	個人(神奈川県在住)	令和5年7月21日	7件7点
2	島崎清海旧蔵図画手工教科書群	個人(埼玉県在住)	令和5年7月21日	79件79点
3	岩橋教章・章山関係資料群	個人(海外在住)	令和6年3月5日	12件13点
4	仁清意鶏形香合	個人(神奈川県在住)	令和6年3月6日	1件1点
5	仁清意初清水畫菓子器	個人(神奈川県在住)	令和6年3月6日	1件1点
6	青磁長正風楽文花生	個人(神奈川県在住)	令和6年3月6日	1件1点
合計				101件102点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	重要文化財 木造他阿真教坐像	平成17年5月24日	1件1点
2	束帯天神像 他	平成21年4月24日	1件12点
3	巖中周ニ賛 渡唐天神像 他	平成21年8月1日	46件78点
4	眞葛焼 (高浮彫南天二鶉花瓶 他)	平成22年3月1日	27件36点
5	潘閻図 右都御史筆	平成25年7月2日	1件1点
6	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	平成27年6月18日	1件63点
7	仁阿弥道八作焼締急須 銘阿治王 他	平成27年6月26日	1件9点
8	一遍他阿真教像 他	平成28年3月25日	2件2点
9	渡辺幽香 山崎勢威子肖像	平成31年3月1日	1件1点
10	絵瀬戸草文輪花皿 他	平成28年6月24日	26件68点
11	近代絵画作品群	平成29年3月1日	37件37点
12	下村観山筆 闘鶏 他	平成29年5月1日	11件15点
13	本多錦吉郎 鍾馗図	平成30年4月1日	1件1点
14	大倉孫兵衛旧蔵 錦絵画帖 他	平成30年4月1日	2件598点
15	二河白道図 他	平成31年3月8日	4件4点
16	初代五姓田芳柳 婦人像 他	平成31年4月1日	18件21点
17	新生紙パルプ商事株式会社寄託作品	平成31年5月31日	49件55点
18	鐔 奈良利寿作	令和元年11月15日	1件1点
19	蝶耳人物花鳥図香炉 他	令和元年11月15日	5件7点
20	極彩色鳳凰花瓶	令和元年11月15日	1件2点
21	彭城貞徳 海景図	令和2年4月1日	1件1点
22	短刀 (ワーグマン使用)	令和3年3月1日	1件1点
23	井上良斎関係資料	令和3年11月1日	1,013件 1,460点
24	井上良斎陶磁器	令和5年5月27日	17件18点
25	山水図 伝江西龍派筆	令和5年7月25日	1件2点
合計			1,269件 2,494点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	県指定重要文化財 紙本墨画淡彩 十六羅漢図 他	昭和44年3月1日	-	2件17点
2	県指定重要文化財 絹本著色 熊野権現影向図	昭和44年3月1日	-	1件1点
3	県指定重要文化財 絹本著色 両界曼荼羅図 他	昭和44年7月1日	-	1件37点
4	常滑印花文壺 他	昭和48年3月1日	-	11件12点
5	東海道図屏風	昭和49年7月1日	-	1件2点
6	絹本著色 七星如意輪曼荼羅図 他	昭和50年6月1日	-	1件24点
7	横浜浮世絵	昭和52年1月10日	-	1件473点
8	張交屏風	昭和52年7月15日	-	1件2点
9	県指定重要文化財 木造薬師如来坐像	昭和56年2月25日	-	1件1点
10	大小曆コレクション	昭和59年4月1日	-	1件40点

11	鴉図(以天宗清) 他	昭和63年7月7日	-	2件2点
12	江島金沢八景図屏風 他	平成4年12月1日	-	1件4点
13	本牧風景 他	平成5年6月15日	-	2件2点
14	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 他	平成7年3月1日	-	8件19点
15	仁清意鶏形香合 初代宮川香山 他	平成12年3月1日	-	3件3点
16	俵藤太絵巻 他	平成12年5月1日	-	2件6点
17	喜多川歌麿 好色十二候 他	平成12年12月20日	-	1件12点
18	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	平成13年8月1日	-	1件2点
19	賀茂真淵筆 伊勢物語古意 他	平成28年9月20日	-	12件20点
20	森村組 輸出台帳	令和3年2月25日	-	18件18点
合計				71件697点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	薙刀	赤羽刀No.3099、銘「相州住盛重」、室町時代末期	1件1点
合計			1件1点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	刺繍種字金剛界曼荼羅	愛知県美術館「特集展示 木村定三コレクション 仏教美術—絵画を主として」で展示するため	展示	令和5年3月21日 ～5月31日	1件1点
2	聖徳太子絵伝 断簡	龍谷大学 龍谷ミュージアム 「真宗と聖徳太子」に展示するため	展示	令和5年4月1日 ～5月28日	1件1点
3	西洋老婦人像(初代五姓田芳柳)	愛知県美術館 企画展「近代日本の視覚開化 明治」に展示するため	展示	令和5年4月14日	138件151点 他
	五姓田一家之図(五姓田義松)				
	街道(チャールズ・ワーグマン)				
	宿場(チャールズ・ワーグマン)				
	老母図(五姓田義松)				
	墨田河畔(初代五姓田芳柳)				
	芭蕉と月(初代五姓田芳柳)				
	国府台風景図屏風(二世五姓田芳柳)				
	山内市郎治像(渡辺幽香)				
	西脇清一郎像(渡辺幽香)				
	家族肖像画(五姓田義松)				
	制作風景(五姓田義松)				
	雨の日の家(五姓田義松)				
六面相 表情 笑い(五姓田義松)					
斎藤俊吉旧蔵作品群(五姓田義松)(個人蔵)					
渡部角藏像(初代五姓田芳柳)					
藻谷伊作君息故民女真像(初代五姓田芳柳)					

3	入沢恭平像（初代五姓田芳柳）			
	池田謙斎像（初代五姓田芳柳）			
	男女の肖像（二世五姓田芳柳）			
	賀来夫妻像（渡辺幽香）			
	嘉兵衛保孝肖像（中山年次）（個人蔵）			
	中田伊兵衛翁肖像（伊藤快彦）（個人蔵）			
	和服姿の米婦人（矢内舎柳村）			
	鶴沢作次郎肖像（矢内秀嶺）			
	阿羅漢図（二世五姓田芳柳）（個人蔵）			
	旧江戸城写真（横山松三郎）（個人蔵）			
	横浜写真アルバム（日下部金兵衛）			
	函嶺景卷（川端玉章）			
	双竜図屏風（橋本雅邦）			
	大日本史略図会 第八十巻代高倉天皇（月岡芳年）			
	曾我時致乗裸馬駆大磯（月岡芳年）			
	新形三十六怪撰 仁田忠常洞中に奇異を見る図（月岡芳年）			
	『不折俳画』（中村不折）			
	虎図（中丸精十郎）			
	霊山図（中丸精十郎）			
	川鱒図（池田亀太郎）			
	能面図（逸名画家）			
	東山暮雪図（田村宗立）			
	裸婦（百武兼行）			
	井田磐楠像（五姓田義松）			
	観山ロンドンより母上に送りし便り（下村観山）			
	明治新撰東京四大家一覧（東京開運堂）			
	風景（横山松三郎）			
	海景図（彭城貞徳）（個人蔵）			
	富士山（山本芳翠）			
	井田讓像（初代五姓田芳柳）			
	馬図（初代五姓田芳柳）			
	上野パノラマ館 日露戦争旅順総攻撃			
	日本パノラマ館 連合軍天津総攻撃			
浅草公園日本パノラマ館 日露戦争南山大激戦				
『戦時画報』				

3	東郷上村両提督凱旋（『軍国画報』より）（二世五姓田芳柳）			
	『絵本台湾征討記』（牧金之助）			
	『ビスマルク（世界歴史譚第4編）』			
	冒険世界新年附録 奈翁一代双六（小杉未醒）			
	『征従画稿』（浅井忠）			
	『従軍三年』（中村不折絵）			
	近代日本美術家写真アルバム（西田武雄編）			
	『西画指南』（川上冬崖）			
	入学願書（五姓田義松）			
	退学願書（五姓田義松）			
	『京浜所在銅像写真』			
	下村観山肖像（和田英作）			
	橋本雅邦使用筆・刷毛			
	画稿貼込帖（下村観山）			
	写生帳（日本美術史ノート）（下村観山）			
	下村観山肖像東京美術学校関係文書			
	『西洋美術資料』第四篇一			
	『西洋近世名画集』			
	『校友会雑誌』			
	『図法階梯』			
	『西洋画譜』			
	『小学普通画学本』			
	『習画帖』			
	『小学画手本』			
	『画学類纂』			
	『新刻万物画譜』			
	『小学習画帖』			
	『中等臨画』			
	『水彩画手引』			
	『訂正浅井自在画臨本』			
	『新体中等図画教本』			
	国定教科書			
	『高等小学鉛筆画帖』			
	『尋常小学鉛筆画帖』			
『高等小学毛筆画手本』				
横浜正金銀行本支店建築写真アルバム				
横浜正金銀行建築要覧				
ウィーン渡航並同地滞在手帳（岩橋教章）				
『測絵図譜』（岩橋教章）				
相模武蔵二州図				

3	大日本国全図			
	『輿地誌略』			
	『内国旅行日本名所図絵』			
	東海道懐古帖			
	角力遊			
	東京名所案内 向島			
	金色夜叉			
	孝子安寿姫弟津志王丸ト訣別之 図			
	福沢先生			
	時事新報創刊二十五週年記念画 帖			
	花うり			
	すずみ			
	とりいれ			
	ゆきの日			
	『東京日日新聞』一万号付録			
	下絵画稿集 (三代歌川広重)			
	『大日本帝国古今風俗 寸陰漫 稿』			
	『大日本風俗漫画』			
	帝国読本			
	『臥遊席珍』			
	『審美綱領』			
	『日本之美術』			
	『日本美術協会報告』			
	『美術新報』			
	『美術園』			
	『伊蘇普物語』			
	『ホトトギス』子規追悼集号・ 100号			
	『美術世界』			
	『洋画講義録』			
	高輪東禅寺英国公使館へ浪士乱 入之図 (『風俗画報』22より)			
	『方寸』『方寸画曆』			
	『明治二十八年秋季展覧会出品 目録』			
	『新小説』			
	『漫画と紀行』			
皇国貴顕肖像 (藪崎芳次郎)				
明治天皇・昭憲皇太后肖像写真 (内田九一)				
天皇御巡幸図 (五姓田義松旧蔵 資料群) (五姓田義松)				
明治天皇・昭憲皇太后肖像 (初代 五姓田芳柳)				
大日本陸軍貴顕肖像 (熊澤喜太 郎)				

3	皇室御真影（黒木半之助）				
	明治天皇・皇后・皇太子像				
	高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒蓋付水指 （宮川香山（初代））（田邊哲人氏蔵）				
	高浮彫大鷲鯛捕獲花瓶（宮川香山（初代））（田邊哲人氏蔵）				
	高浮彫蛙武者合戦花瓶（宮川香山（初代））（田邊哲人氏蔵）				
	蝶耳人物花鳥図香炉（原木祥行氏蔵）				
	花鳥図卵型花器（綿谷平兵衛） （原木祥行氏蔵）				
	山水花鳥人物図カップ&ソーサー （井村彦次郎）				
	富士合戦図カップ&ソーサー、皿				
	紫釉盛絵杜若花瓶（宮川香山（初代））（田邊哲人氏蔵）				
	彩磁紫陽花透彫花瓶（宮川香山（初代））（田邊哲人氏蔵）				
	名古屋城				
	大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖（個人蔵）				
	『新撰古代模様鑑』（個人蔵）				
	『省亭花鳥画譜』（個人蔵）				
	『萬工画式』				
	『工業図式』（個人蔵）				
『工芸細画式』					
『煤嶺百鳥画譜』					
『閣龍世界博覧会美術品画譜』 （新生紙パルプ商事株式会社蔵）					
4	青楼七小町 玉屋内明石 うら次 しま野（初代喜多川歌麿）	栃木市立美術館 「明日につながる物語」に展示するため	展示	令和5年4月15日 ～6月18日	3件3点
	絵兄弟（初代喜多川歌麿）				
	教訓親の目鑑 浮気者（初代喜多川歌麿）				
5	五月雨の景（三代歌川豊国）	馬の博物館 「春季特別展 浮世絵美人と馬」に展示するため	展示	令和5年4月22日 ～6月11日	15件15点
	富士三十六景 上総鹿楚山（初代歌川広重）				
	程ヶ谷駅 五（溪斎英泉）				
	藤枝駅 廿三（溪斎英泉）				
	女東下り図（葛飾北斎）				
	風流青楼美人六玉川之内 山城 井手玉川（菊川英山）				
	遊君王照君身請のすかゝき（奥村政信）				
	通俗水滸伝豪傑百八人一個 母 夜叉孫二娘（歌川国芳）				

5	横浜売物図会之内 銅版絵彩色 唐犬ラシヤメン (二代歌川広重)				
	武州横濱八景之内 吉田橋乃落 鷹 英吉利人 (歌川芳虎)				
	蛮国名勝尽競之内 英吉利龍動 海口 (歌川芳虎)				
	皇太后宮還御図 (楊洲周延)				
	花之東王子御慰の図 (楊洲周延)				
	上野第三回内国勸業博覧会御幸 之図 (楊洲周延)				
鹿兒島の女軍隊力戦の図 (永島 孟齋)					
6	木造地藏菩薩坐像 仏師下野作	根津美術館 「救いのみほとけ—お地藏さま の美—」に展示するため	展示	令和5年5月27日 ～7月2日	3件3点
	五山版地藏本願經				
	絹本着色釈迦地藏來迎図 (横浜 市寶生寺所藏)				
7	函根景巻	ポーラ美術館 企画展「シン・ジャパニーズ・ ペインティング 革新の日本 画」に展示するため	展示	令和5年7月7日 ～12月15日	1件1点
8	芳沢いろは (流光齋如圭)	山口県立萩美術館・浦上記念館 特別展示「浮世絵×カブキ 江 戸の役者絵」に展示するため	展示	令和5年7月29日 ～8月27日	3件3点
	大当狂言ノ内 八百屋お七 (三 代歌川豊国)				
	大当狂言ノ内 大工六三郎 (三 代歌川豊国)				
9	讃岐院眷属をして為朝をすくふ 図 (歌川国芳)	サントリー美術館 「激動の時代—幕末明治の絵師 たち」に展示するため	展示	令和5年10月11日 ～12月3日	5件5点
	観世音靈験 一ツ家の旧事 (歌 川国芳)				
	当盛見立人形之内 一ツ家之図 (歌川国芳)				
	浅草奥山生人形 (歌川国芳)				
	鏡客水滸伝之内 木隠ノ霧太郎 幻術ヲ以テ姿ヲ隠ス (歌川芳艶)				
10	平家物語 (奈良絵本、巻5、巻6、 巻9、巻23、巻24)	神奈川県立金沢文庫 特別展「廢墟とイメージ—憧 憬、復興、文化の生成の場とし ての廢墟」に展示するため	展示	令和5年9月29日 ～11月26日	4件9点
	江戸名所図会 巻2 第6冊				
	夢窓疎石像 (光明寺所藏)				
	鎌倉金沢図屏風 (個人藏)				
11	名所江戸百景 八ツ見のはし (初代歌川広重)	豊田市美術館 特別展「フランク・ロイド・ラ イト 世界を結ぶ建築」に展示 するため	展示	令和5年10月21日 ～12月24日	4件4点
	撫子に蝶 (初代歌川広重)				
	山茶花に雀 (初代歌川広重)				
	東海道五拾三次之内 龜山 雪 晴 (初代歌川広重)				

12	足利尊氏像	亀岡市文化資料館 特別展「足利尊氏」に展示するため	展示	令和5年11月3日 ～12月10日	1件1点
13	見立荘子（鳥文斎栄之） 青楼万歳俄 小荷駄（鳥文斎栄之） 青楼美人六花仙 丁子屋雛鶴（鳥文斎栄之） 福人略宝合（福禄寿）（鳥文斎栄之） 無題（七美人船上の管絃遊び）（鳥文斎栄之） 階上の美人とお茶売りの若者（鳥文斎栄之） 夢見美人（鳥文斎栄之） 正月の集い（鳥高斎栄昌） 見立源氏夕顔 美人五節句 扇屋内さかき わかは（一楽亭栄水）	千葉県美術館 企画展「サムライ、浮世絵師になる！鳥文斎栄之」に展示するため	展示	令和6年1月6日 ～3月3日	10件10点
14	名所江戸百景 真間の紅葉 手古那の社 継はし（初代歌川広重） 山茶花に雀（初代歌川広重） 雀に秋海棠（初代歌川広重）	パナソニック汐留美術館 特別展「フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」に展示するため	展示	令和6年1月11日 ～3月10日	3件3点
15	梅に鶯（初代歌川広重） 野菊に小鳥（初代歌川広重）	青森県立美術館 特別展「フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」に展示するため	展示	令和6年3月20日 ～5月12日	2件2点
16	青楼名君自筆集 あふぎや 滝川 花扇（北尾政演） 青楼名君自筆集 まつがねやうち 東家 九重（北尾政演） 青楼名君自筆集 角玉屋 濃紫花紫（北尾政演） 青楼名君自筆集 てうしや ひなつる てう山（北尾政演） 青楼名君自筆集 大もんしや ひともと たか袖（北尾政演） 浮絵東都 新吉原夕暮之景（北尾政美） 青楼仁和嘉 二の替り（初代喜多川歌麿） 新吉原仁和嘉 女芸者之部 伊達模様 五ツ鳥（喜多川磯麿） 午とし仁和嘉 花の廓鹿嶋之寿（勝川春山） 江戸名所 雪（吉原の三景の中）（初代歌川広重）	東京藝術大学大学美術館 特別展「大吉原展—江戸アメイジング」に展示するため	展示	令和6年3月26日 ～5月19日	16件16点

16	東都名所 吉原雪の朝 (初代歌川広重)				
	傾城道中双 見立吉原五十三対 大磯 大文字屋本津枝 (溪斎英泉)				
	吉原要事 廓の四季志 大文字 屋内誰袖 (溪斎英泉)				
	青楼仁和嘉尽二日め名賀哥 里月恋名取 (鳥居清長)				
	江戸新吉原八朔白無垢の図 (三代歌川豊国)				
	昇斎一景、月岡芳年、水野年方ほか『画帖二』(大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖) (個人蔵)				
合計					210件228点 他

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	仁清意孔雀形香炉	個人研究調査	熟覧 撮影	令和5年5月27日	4件4点
	仁清意極彩色鴛鴦置物				
	瓦上白鳩置物				
	仁清意鳴形香合				
2	達磨図	個人研究調査	熟覧 採寸 撮影	令和5年6月9日	1件1点
3	花之上野誉礎	個人研究調査	閲覧 撮影	令和5年7月21日	77件77点
	海道名物志 箱根山				
	松下の金太郎が二匹の熊を手玉にとっている				
	谷川の辺りで斧をもち熊をうとうとする金太郎				
	浮絵忠臣蔵 八段目				
	江の島遠景 見立弁才天				
	雪中海岸往来人物				
	雪中墨田川岸往来人物				
	浮絵忠臣蔵 十一段目				
	近江八景 比良暮雪				
	雪中竹藪前に立つ白装束の女形				
	淡雪の川岸に立つ夜鷹				
	三代目市川団蔵の刀抜き侍				
	松本幸四郎の曾我五郎時宗				
	芳沢いろはの粧姫				
	かみこやしなひ草 第八				
	青楼古今発句合				
四代目岩井半四郎の太夫					
ひらかな盛衰記 二段目 八枚の内					

3	四代目市川團藏の巡礼			
	二代目市川門之助の仕丁姿			
	忠臣蔵 十一段続七たん目			
	堀河夜討之図			
	無題			
	猪を踏まえ熊を片手で差上げた 金太郎			
	海を望む山中に雉と鳥天狗の蹴 合い			
	雪の垣根際に立ち傘をさす破戒 僧			
	雪中梅下に立ち傘を差す女形			
	雪持竹の窓辺に立つ女形			
	役者大首絵			
	娘道成寺			
	錦の袋入りの刀を抱く女形			
	筆と短冊持つ市川門之助の公達			
	文箱持つ傘差し御殿女中			
	四代目岩井半四郎の巻物をくわ え簍を着けた女形			
	五代目市川團十郎の樵夫			
	浅尾為十郎のむかばきをつけ刀 を持った武将			
	紅葉の下で出刃包丁を振りあげ た老婆			
	紅葉の下の肌脱ぎ赤襦袢の男			
	のれんの前に立つ市川高麗蔵の 悪役			
	忠臣蔵 貳たんめ			
	橋際に立つ市川門之助のそば屋			
	江都大芝居櫓下図 続内序			
	のれんの下に立つ女伊達			
	楓下紅葉の枝で立廻る沢村宗十 郎			
	楓下中村糸太郎の長袖の女奴			
	おし絵形 放し鳥			
	おしゑ形 枕獅子			
	曾我五郎時宗と御所之五郎丸			
	野外を遊歩する二美人			
	やつし草摺引			
	大紋長袴雪洞を持つ荒事師			
とうせい女忠臣蔵 五段目 鉄 砲の段				
午とし仁和嘉 花の廓鹿嶋之寺				
三代目沢村宗十郎の長傘差しか ける若殿				
窓辺鏡台前片肌脱ぎ女形				
瀬川菊之丞の仕立やおすま				

3	刀を抜く公卿姿の男				
	四季のしよ作こと 瀬川路考				
	大坂下り嵐雛助悴嵐秀之助の源義光				
	浄瑠璃狂言 殿下茶亭敵討				
	無題 (豆蒔き福は内)				
	吉野合戦 村上彦四郎義光				
	烏帽子を捧げる海士の富じ (大谷春海) と兵工の嵐音吉				
	紅牡丹に白蝶				
	八重むめとくに花				
	無題 (葡萄狩り三美人)				
	鮑取り				
	風流花合ふげん艸				
	富士三十六景 目録				
	忠臣蔵九段目 十一枚続				
	三代大谷広次の荒法師				
	絵本 青楼美人姿鏡 かげま茶屋 きよ華 みな川 吉十郎				
	雛形若菜之初模様 あふぎや華扇 よしの たつた				
室内美人図					
相州湯ヶ原名勝 川崎公園 (勝川春山 二美人図)					
4	菩薩半跏 (遊戯) 坐像 附像内納入品 (布製五臓六腑等)	個人研究調査	熟覧 採寸 撮影	令和6年1月27日	1件1点
5	三代歌川広重 下絵画稿集	個人研究調査	熟覧 撮影	令和6年2月5日	6件6点
6	釈迦三尊像 良全筆	個人研究調査	熟覧 撮影	令和6年3月3日	1件1点
合計					90件90点

(4) 民俗資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	石臼	個人 (神奈川県在住)	令和6年3月27日	1件1点
2	糸車	個人 (神奈川県在住)	令和6年3月27日	2件2点
3	石臼	笹山丘の上ミュージアム	令和6年3月27日	4件4点
4	糸車	笹山丘の上ミュージアム	令和6年3月27日	2件2点
合計				9件9点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	ダイカイ 他	平成27年5月14日	2件3点
合計			2件3点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	お食初め膳 他	昭和46年10月23日	-	1件3点
2	燭台	昭和47年3月6日	-	1件1点
3	長持 他	昭和47年3月6日	-	1件2点
4	お歯黒の道具	昭和47年3月11日	-	1件1点
5	天狗の面 他	昭和48年2月27日	-	1件3点
6	帳場格子 他	昭和48年3月2日	-	1件15点
7	結納樽	昭和48年4月1日	-	1件1点
8	お馬板、ツノダル	昭和48年8月20日	-	1件3点
9	鏡台と鏡 他	昭和49年4月26日	-	1件5点
10	獅子頭 他	昭和54年3月1日	-	1件9点
11	婚礼用具	昭和54年3月1日	-	1件2点
12	足踏み脱穀機 他	平成6年4月15日	-	2件2点
13	渡辺紳一郎時計コレクション	平成28年7月1日	-	1件22点
合計				14件69点

オ 特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	夜具 (カイマギ)	個人 論文への画像掲載	熟覧 計測 撮影 図版 掲載	令和6年3月15日 ～5月1日	1件1点
合計					1件1点

(5) 写真資料

令和5年度写真撮影資料

ア 特別展図録用

あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—

関東大震災

足柄の仏像

近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—

仮面絢爛—中世音楽と芸能があらわす世界—

イ 特別陳列用

藤助さんと幕末

戦国大名北条氏と西相模・伊豆

ウ その他

当館所蔵資料、文化財保護ポスター 他

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には「予防」の観点から資料保存活動を進めている。年に2回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。展示室等の空気改善に向けて、空気質環境調査を実施した。本年度は展覧会出品予定資料および新収蔵資料等に対し、7月と9月に炭酸ガス燻蒸を行った。

(7) その他資料の利用

ア 図書

令和5年度図書資料の状況は次のとおりである。全国の博物館・美術館等からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	受入			除籍数	総数	ライブラリー公開数
	購入	寄贈	合計数			
図 書(冊)	0	437	437	0	23,793	4,888
図 録(冊)	0	485	485	0	18,938	830
埋蔵文化財発掘調査報告書	0	1,103	1,103	0	1,103	0
逐次刊行物(タイトル)	24	9	—	0	2,605	83

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。誌名変更等による新規書誌作成分を含む。

イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 128,870 件とデジタルカメラデータ 50,316 件を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出を行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	11	15	20	22	21	14	15	19	7	14	21	17	196
点数	16	26	41	127	50	21	45	159	8	105	27	37	662

ウ 情報システム

(ア) システム整備の目的と背景

- a 学習の支援
- b 高度な知的ニーズへの対応
- c 博物館活動の活性化、効率化
- d 研究活動の高度化
 - (a) 各種アプリケーションの利用
 - (b) 博物館が所有する情報の活用
- e 情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和63年度）

- (a) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
- (b) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- (c) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(イ) システム開発と運用

- a システム基本設計・詳細設計 平成5年度
- b システム運用開始 平成7年度
- c システム更新 平成13、18、23、28年度、令和4年度

(ウ) 稼動しているシステム

- a 展示情報システム（デジタルミュージアム）の内容
ミュージアムライブラリーに設置された2台の来館者用端末とWebページで提供している（No.2 絵馬、No.5 水墨画、No.12 収蔵コレクションは、来館者用端末のみで提供）。一部資料については高精細拡大画像も提供している。

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から 50 点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見ることが可能。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜のやきものの中から 46 点を紹介。
8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から 32 点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともにより 118 点を紹介。
10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1 件 5 冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
11	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17 職種 1,982 点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338 点を紹介。
12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。考古 206 点、中世文書 96 点、彫刻 14 点、中世絵画 80 点、浮世絵 288 点、近代歴史資料 260 点、近代絵画 156 点、民俗 306 点
		計 2,722 点

b デジタルアーカイブの内容

収蔵資料管理システムに登録されている当館所蔵資料のデータベースを、当館 HP で検索・閲覧できるように令和 4 年 10 月より公開。令和 6 年 3 月末現在で約 49,400 件の収蔵資料情報を公開している。

c 業務システムの内容

- (a) 収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能
- (b) 図書システム：蔵書の登録管理機能、蔵書情報の検索機能

(e) システム構成

a 概要

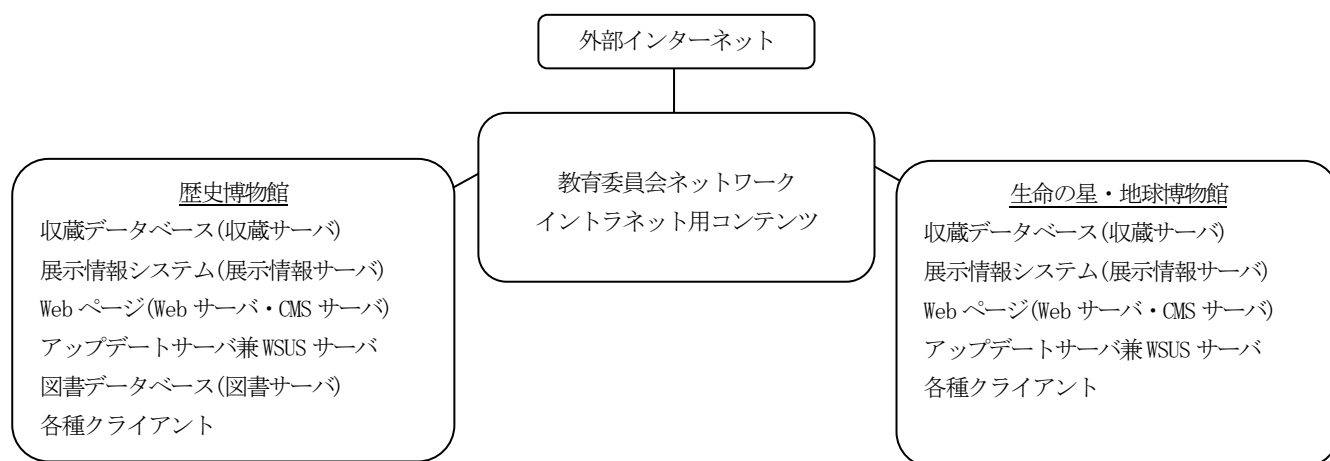
館内 LAN 及び広域イーサネットを利用したサーバクライアントシステム

b 設置機器

- (a) サーバ室
ファイルサーバ等
- (b) ミュージアムライブラリー
来館者用パソコン、レファレンス用パソコン

- (c) 保存修復処置室／印刷室
画像入力用パソコン
- (d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書整理室・写真整理室・写場
各室作業用パソコン

(オ) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) ホームページアクセス件数 (再掲)

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	160,142	189,389	192,191	199,761	266,841	235,172	234,697	297,160	188,286	190,495	247,781	249,752	2,651,667

参考 (内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	827	966	916	981	1,144	1,034	1,033	1,443	1,026	986	1,051	1,051	12,458
デジタル アーカイブ	6,347	15,625	6,022	5,964	22,076	11,521	8,917	7,611	5,719	12,729	14,895	8,081	125,507

5 展示・教育普及・学習支援

(1) 総合テーマ展示（常設展）

ア 常設展の概要

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

テーマ1 さがみの古代に生きた人びと

- ・大地に生きる狩人
- ・海への進出
- ・米づくり、はじまる
- ・古墳を築く
- ・都とさがみの国

テーマ2 都市鎌倉と中世びと

- ・源頼朝と東国武士団
- ・戦国大名後北条氏
- ・掘り起こされた鎌倉
- ・唐物とその影響
- ・民衆と仏教

テーマ3 近世の街道と庶民文化

- ・宿場と関所
- ・庶民信仰と名所めぐり
- ・村の支配と生活
- ・相武の産物と江戸

テーマ4 横浜開港と近代化

- ・蒸気船が導いた新たな時代
- ・世界へ開かれたみなとYOKOHAMA
- ・文明開化の音
- ・近代化と神奈川
- ・横浜浮世絵に見る神奈川
- ・横浜正金銀行

テーマ5 現代の神奈川と伝統文化

- ・関東大震災を越えて
- ・昭和恐慌と社会変化
- ・戦時体制と敗戦
- ・占領から講和へ
- ・高度経済成長と環境の変化
- ・変貌する町と村
- ・イエと暮らし
- ・くらしの中の祈り
- ・なりわいと儀礼
- ・伝承される技術と芸能

イ 常設展の展示替えと「トピック展示」の実施

常設展の展示資料のうち実物資料については、資料保存の観点から定期的な展示替えを行っており、資料整理休館日を中心に500件以上の展示替えを実施した。また、特定の小テーマによる「トピック展示」を随時行っており令和5年度は下記の通り実施した。

「街道絵図 描かれた東海道の風景」4月11日～6月15日（担当 学芸員 寺西明子）

「1863年 将軍京都への旅」4月12日～6月2日（担当 企画普及課長 桑山童奈）

「明治の美術【第1期没後130年 五姓田義松 明治を描く】」4月12日～6月2日（担当 主任学芸員 角田拓朗）

「小林清親と浮世絵カレンダー」6月3日～7月14日（担当 非常勤学芸員 山口希）

「郷土へのまなざし 久崎輝男氏収集資料」4月11日～6月15日（担当 学芸員 寺西明子）

「かながわと甲州道中」8月22日～9月24日（担当 学芸員 寺西明子）

「初代広重の[東海道]」8月30日～10月15日（担当 企画普及課長 桑山童奈）

「あしがらの古文書 矢倉沢村田代家文書 [前期]矢倉沢関所」9月27日～12月3日（担当 非常勤学芸員 根本佐智子）

「明治を生きた絵師 楊洲周延 [前期]文明開化編」10月17日～11月21日（担当 非常勤学芸員 山口希）

「明治を生きた絵師 楊洲周延 [後期] 当世と懐古編」 11月22日～12月27日 (担当 非常勤学芸員 山口希)

「あしがらの古文書 矢倉沢村田代家文書 [後期] 元禄地震と宝永噴火」 12月6日～2月4日 (担当 非常勤学芸員 根本佐智子)

「2024年辰年 ニッポンのお正月」 1月5日～2月16日 (担当 企画普及課長 桑山童奈)

「コレクション展関連展示 旅する藤助さん」 2月6日～3月26日 (担当 学芸員 寺西明子)

「清親から安治へ 師弟の描く光線画」 2月17日～4月2日 (担当 非常勤学芸員 山口希)

「街道絵図 描かれた東海道の風景」 3月27日～5月28日 (担当 学芸員 寺西明子)

ウ 展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」

スマートフォン用の展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入し、常設展および特別展で活用している。音声4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）、文字5言語（日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語）及び画像による解説をしている。常設展の日本語・英語の音声解説は県内の高校生がナレーションをしている。令和6年3月には、6人の放送部員に担当してもらい、新項目を追加した。また、神奈川県立平塚盲学校と連携し、視覚障がいのある方がイメージを喚起しやすい文字解説を作成して、その文字解説を放送部に所属する県内の高校生が読み上げる音声解説を提供している。

(2) 特別展

ア 「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」

会 期：4月29日（土・祝）～ 6月18日（日）

主 催：神奈川県立歴史博物館

後 援：神奈川県新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ、J:COM

助 成：令和5年度 地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

展示資料件数：113件

入 場 者 数：8,848名（有料4,204名、無料4,644名）

担 当：学芸員 橋本 遼太

概 要：室町の絵師も、江戸の大名も、近代の数寄者もあこがれた、祥啓の絵一。景物を密接に関連させて構築した画面に清く澄んだ淡彩が映える祥啓の山水図は、多くの追隨者を生む。興悦、啓牧、啓孫などの名が知られるこれら追隨者の絵はしばしば描いた本人の名ではなく、祥啓の通称である啓書記の絵として伝来する。そのような啓書記筆と伝わる絵を含む祥啓画は、江戸時代には各地の大名が所持したこと、近代には実業で財を成した数寄者が所有したことが、絵に附属する文書や売立目録により判明することがある。祥啓の絵を、画技の巧拙を観点に観察すると、祥啓その人が描いたと誰もが認める作例は十数点に限られる。しかし、完成度の高い十数点以外の多くの伝祥啓画が価値の低いものかといえおそらくそうではないだろう。あまたの伝祥啓画の存在とその伝来過程は、啓書記が担ってきた歴史を示す。本展では祥啓画の精華を核に、伝祥啓画を含む追隨者による絵を加えて展覧し、祥啓の絵がどのように受容され、いかにして啓書記という銘柄が成立、そして展開したのかを考える。現在の関東地域で活動した室町水墨画家のうち、祥啓のみが、京の禅僧の語録にわずかにその名が確認できるが、ほかのほとんどの絵師は同時代の記録にあらわれないため、手がかりとなるのは絵そのもの。伝世の絵に留められた筆跡に絵師のすがたをたずね、そして狩野派による粉本や後世に編まれた伝記に絵師の輪郭を探る。

関 連 行 事：・記念講演会「祥啓と関東水墨画—中世東国の文化遺産」5月14日

・県博セミナー「画僧祥啓の生涯とその魅力」5月21日、28日、6月4日、11日

・子ども向け展示解説「祥啓さん、こんにちは！—はじめての水墨画鑑賞—」5月5日

・夜間開館 6月14日

・学芸員による展示解説 5月6日、13日、20日、27日、6月3日、10日、17日

出品目録：(凡例) No.、作品名、絵師名、所蔵

1	披錦斎図 根津美術館	48	白衣観音・寒山・拾得図 興悦 平林寺(埼玉県新座市)
2	猿猴図 建長寺(鎌倉市山ノ内)	49	寒山拾得図 興悦 旧ピータードロッカー山荘コレクション
3	虎溪三笑図 正木美術館	50	騎獅文殊菩薩像 興悦 栃木県立博物館
4	虎溪三笑図 仲安真康 細見美術館	51	蓮雁図 興悦 個人
5	富嶽図 仲安真康 根津美術館	52	布袋図 興牧 神奈川県立歴史博物館
6	山水人物図 仲安真康 東京国立博物館	53	穆王西王母図(東方朔図) 興牧 京都国立博物館
7	白衣観音・陶淵明愛菊・李白観瀑図 伝仲安真康 旧ピータードロッカー山荘コレクション	54	布袋図 興牧 東京国立博物館
8	伝十三仏図(四仏図) 真康 総世寺(小田原市久野)	55	寒山拾得図 興牧 正木美術館
9	一葉観音図 仲安真康 個人	56	寒山拾得図 啓牧 栃木県立博物館
10	墨梅図 仲安真康 栃木県立博物館	57	鷺図 啓牧 個人
11	布袋図 仲安真康 神奈川県立歴史博物館	58	文殊菩薩・寒山・拾得図 啓牧・啓孫 本法寺(京都府京都市)
12	朝陽・対月図 仲安真康 東京国立博物館	59	一葉観音図 啓孫 個人
13	三十二観音図 建長寺(鎌倉市山ノ内)	60	虎溪三笑・山水図 啓孫 栃木県立博物館
14	観瀑図 芸阿弥 根津美術館	61	虎溪三笑図 啓孫 神奈川県立歴史博物館
15	山水図 祥啓 根津美術館	62	出山釈迦図 啓孫 神奈川県立歴史博物館
16	山水図 祥啓 東京国立博物館	63	蔬菜図 啓孫 根津美術館
17	山水図 祥啓 正木美術館	64	布袋図 啓孫 鎌倉国宝館
18	春景山水図 祥啓 神奈川県立歴史博物館	65	拾得図 啓孫 東京国立博物館
19	山水図 祥啓 栃木県立博物館	66	山水図 啓宗 静嘉堂文庫美術館
20	梅溪図 祥啓 静嘉堂文庫美術館	67	束帯天神像 啓宗 朝日森天満宮(栃木県佐野市)
21	巢雪斎図 祥啓 静嘉堂文庫美術館	68	束帯天神像 啓宗印 朝日森天満宮(栃木県佐野市)
22	鍾秀斎図 祥啓 京都国立博物館	69	枇杷に鳩図 啓宗 栃木県立博物館
23	高士観瀑図 祥啓 兵庫県立美術館(颯川コレクション)	70	枯木山鳥図 啓宗 細見美術館
24	月夜山水図 祥啓印 根津美術館	71	維摩居士図 東朱 栃木県立博物館
25	瀟湘八景図 祥啓 白鶴美術館	72	寒山図 東朱 個人
26	山水図 伝芸阿弥 個人	73	麻姑仙人図 東朱 個人
27	花鳥図(梨花蠟嘴図・梅白頭翁図) 伝王淵 個人	74	拾得図 自閑 常盤山文庫
28	花鳥図 祥啓 神奈川県立歴史博物館	75	鍾馗騎虎図 啓孫 栃木県立博物館
29	花鳥図 祥啓 京都国立博物館	76	鍾馗騎虎図 制光 個人
30	人馬図 祥啓 根津美術館	77	竹林遊賢図 制光 常盤山文庫
31	達磨図 祥啓 南禅寺(京都府京都市左京区)	78	瀟湘八景図 制光 栃木県立博物館
32	文殊菩薩像 祥啓 栃木県立博物館	79	雪景山水図 珍牧 栃木県立博物館
33	喜江禅師像 祥啓 建長寺(鎌倉市山ノ内)	80	寒江独釣図 珍牧 根津美術館
34	渡唐天神像 祥啓 正木美術館	81	山水図 雪溪 個人
35	渡唐天神像 祥啓印 個人	82	山水図 僊可 東京国立博物館
36	拾得図 祥啓印 個人	83	蓮に鷺図 僊可 栃木県立博物館
37	蘇東坡図 祥啓印 個人	84	蓮池白鷺図 宏員 個人
38	鍾馗抜鬼眼睛図 祥啓 兵庫県立美術館(颯川コレクション)	85	蓮池白鷺図 梅隠 根津美術館
39	玉隠英瑛像 明月院(鎌倉市山ノ内)	86	鴛鴦図 梅隠 細見美術館
40	西来菴修造再興勸進状 玉隠英瑛 浄智寺(鎌倉市山ノ内)	87	巢父図 梅隠 神奈川県立歴史博物館
41	西来菴修造再興勸進状 玉隠英瑛 建長寺(鎌倉市山ノ内)	88	八仙図屏風 個人
42	山水図 興悦 神奈川県立歴史博物館	89	山水人物図屏風伝 祥啓 東京国立博物館
43	山水図 興悦 大和文華館	90	岩に鶴図 祥啓印 栃木県立博物館
44	山水図 興悦 東京国立博物館	91	斑鳩図 狩野晴川院養信 東京国立博物館
45	山水図 興悦 個人	92	張良・秋山水図 祥啓印・伝祥啓 弘前市立博物館
46	花鳥図 興悦 神奈川県立歴史博物館	93	張良・秋冬山水図 堤雄長 東京国立博物館
47	鶴図 興悦 栃木県立博物館	94	探幽縮図 山水花鳥図巻 狩野探幽 京都国立博物館
		95	山水図 祥啓印 個人

- 96 山水図 式部輝忠 神奈川県立歴史博物館
- 97 達磨図 祥啓画系 神奈川県立歴史博物館
- 98 布袋図 祥啓印 個人
- 99 麻姑仙人図 祥啓印 個人
- 100 麻姑仙人図 祥啓印 個人
- 101 麻姑仙人図 橋本長郷・敬甫 東京国立博物館
- 102 古画備考 二十一下 朝岡興禎 東京藝術大学附属図書館
- 103 倣啓書記筆山水図 谷文晁 神奈川県立歴史博物館
- 104 蘆鷺図 祥啓印 個人

- 105 出山釈迦図 祥啓印 個人
- 106 瀧山水図 祥啓印 個人
- 107 真山水図 祥啓印 個人
- 108 四睡図 伝祥啓筆 個人
- 109 十牛図 伝祥啓 個人
- 110 寒山・拾得図 貧楽斎落款 個人
- 111 売立目録 東京文化財研究所
- 112 田中一松調査ノート 田中一松 東京文化財研究所
- 113 田中一松調査 田中一松 東京文化財研究所

イ 「関東大震災—原点は100年前—」

会 期：7月29日（土）～ 9月18日（月・祝）

主 催：神奈川県立歴史博物館

協 力：海上保安庁

後 援：神奈川県博物館協会、神奈川県新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ、J:COM

展示資料件数：203件

入 場 者 数：15,006名（有料9,916名、無料5,090名）

担 当：学芸員 武田 周一郎

概 要：1923（大正12）年9月1日に発災した関東大震災は、マグニチュード7.9と推定される巨大地震と、それに伴う火災や土砂災害、津波などによって関東地方を中心に甚大な被害をもたらした。とりわけ、震源域のただ中に位置した神奈川県域では、人的にも物的にも多くが失われている。一方で、復興の過程で現在につながる都市の骨格が形作られたという観点からすれば、この大震災は現代の原点の一つとも捉えられよう。また、ほかでもなく当館の旧館部分である旧横浜正金銀行本店本館は、関東大震災をくぐり抜けてきた生き証人である。その発災から100年を迎えるにあたり、本展では1章「震える大地」、2章「奮う人たち」、3章「原点は100年前」の3章構成で、震災の被害と復興の様子を紹介した。

- 関 連 行 事：
- ・記念講演会「関東地震：発生から100年後の地震像」8月19日
 - ・連続講座「関東大震災を知る」7月29日、8月5日、12日
 - ・子ども向け展示解説「横浜正金銀行と関東大震災」8月13日、26日
 - ・連携講座「神奈川県西部の災害を知る」8月31日
 - ・高校生大学生向け現地見学会「海上保安庁の測量船で知る海の防災」8月24日
 - ・学芸員による展示解説 8月6日、20日、9月2日
 - ・展示解説動画 8月22日

出 品 目 録：（凡例）No.、資料、作成／発行、時代、所蔵

*資料名の前に付した◆は写真パネルを示す。

1-01 鎌倉市由比ガ浜二丁目遺跡はぎとり標本 神奈川県温泉地学研究所	15) 年2月28日 神奈川県立歴史博物館
1-02 ポータブル地震計 神奈川県温泉地学研究所	1-09 『大正震災志写真帖』 内務省社会局編 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
1-03 地震計 神奈川県温泉地学研究所	1-10 『神奈川県震災誌』 神奈川県 1927（昭和2）年9月30日 神奈川県立歴史博物館
1-04 ボアホール型地震・傾斜計 神奈川県温泉地学研究所	1-11 『大正十二年九月一日 大震災写真帖』 神奈川県 1923（大正12）年12月 神奈川県立歴史博物館
1-05 「大正十二年度 日誌」 筆甫尋常高等小学校古田分教場 1923（大正12）年度 丸森町教育委員会	1-12 『大正十二年九月一日 大震災記念写真帖』 梶井照蔵編・神奈川県震災写真帖頒布事務所発行 1925（大正14）年7月1日 神奈川県立図書館
1-06 「大正十二年度 日誌」 大内尋常高等小学校伊手分教場 1923（大正12）年度 丸森町教育委員会	
1-07 「大正十二年度 日誌」 大貫尋常高等小学校 1923（大正12）年度 大崎市教育委員会	
1-08 『大正震災志』上・下 内務省社会局編 1926（大正	

- 1-13 「神奈川県管内震災被害図」／『大正震災志附図』第6図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- 1-14 「神奈川県管内震災被害図」／『神奈川県震災誌附録』第3図 神奈川県 1927（昭和2）年9月30日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「東京府管内震災被害図」／『大正震災志附図』第4図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「東京市火災延焼状況図」／『大正震災志附図』第1図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「千葉県管内震災被害図」／『大正震災志附図』第7図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「埼玉県管内震災被害図」／『大正震災志附図』第9図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「山梨県管内震災被害図」／『大正震災志附図』第10図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「静岡県管内震災被害図」／『大正震災志附図』第8図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「関東戒厳地域内警備配置要図（九月三日ニ於ケル）」／『大正震災志附図』第15図 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「関東戒厳地域内警備部隊配置要図（於九月中旬）」／『大正震災志附図』第16図 神奈川県立歴史博物館
- ◆ 「東京湾沿岸地方地盤垂直変動一覽図」／『大正震災志附図』第13図 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- 1-15 『震災予防調査会報告 第百号』 震災予防調査会 1925（大正14）年3月～1926（大正15）年10月 神奈川県立図書館
- 1-16 「震災誌編纂資料ニ関スル件」／「土木地理書類 第一種」所収 三浦郡役所 1923（大正13）年2月25日 神奈川県立公文書館
- 1-17 『横須賀市震災誌 附復興誌』 横須賀市震災誌刊行会編 1932（昭和7）年5月27日 神奈川県立図書館
- 1-18 『震災記録』 高橋栄吉編・大磯警察署発行 1924（大正13）年8月25日 神奈川県立図書館
- 1-19 『神奈川県農会報 第百八拾参号 大正十二年大震災被害地の写真』 神奈川県農会 1924（大正13）年5月16日 神奈川県立図書館
- 1-20 諏訪部晃民俗画集 神奈川県立歴史博物館
- 1-21 「大地震之かぞえぶし」 個人
- 1-22 「小田原箱根震災惨況 一輯」 箱根印刷 神奈川県立歴史博物館
- 1-23 箱根被災状況絵葉書 個人
- 1-24 「飛行船による震災前の京浜」 横浜シネマ商会 1923（大正12）年撮影 株式会社ヨコシネディーアイエー
- 1-25 「横浜大震災火災惨状」 横浜シネマ商会 1923（大正12）年9月撮影 株式会社ヨコシネディーアイエー
- 1-26 「大正十二年関東震災地垂直変動要図」／『関東震災地復旧測量記事』附図第11 陸地測量部 1930（昭和5）年2月 個人
- 1-27 「大正十二年関東震災地一等水準点変動断面図」／『関東震災地復旧測量記事』附図第12 陸地測量部 1930（昭和5）年2月 個人
- 1-28 丹沢 諸戸造林地の崩壊地 1923（大正12）年 神奈川県森林再生課
- 1-29 根府川の土石流（山津波） 1923（大正12）年 神奈川県森林再生課
- ◆ 「関東大震災に因る林野被害区域「山崩れ地帯」概況図」／『大正震災志附図』第11図 内務省社会局 1926（大正15）年2月28日 神奈川県立歴史博物館
- 1-30 治山事業写真アルバム 神奈川県林務課 神奈川県森林再生課
- 1-31 技術資料 山陽線複線工事 関東地震関係 1923（大正12）年 横浜開港資料館
- 1-32 関東大震災鉄道復旧工事写真帳A 1923（大正12）年 横浜開港資料館
- ◆ 震災後の松田駅付近 横浜開港資料館
- 1-33 『大正十二年鉄道震害調査書』 鉄道省大臣官房研究所 1927（昭和2）年3月 神奈川県立図書館
- 1-34 『国有鉄道震災誌』 鉄道省 1927（昭和2）年12月23日 神奈川県立図書館
- 1-35 「大正十二年震災救援出動間行動詳報陣中日誌綴」 工兵第壹拾五大隊第二中隊 1923（大正12）年 神奈川県立歴史博物館
- 1-36 「原点測角簿 合冊三八号 本州南岸震災地」 水路部 1923～1924（大正12～13）年 海上保安庁海洋情報部
- 1-37 「報告ニ関スル件」／「測量関係綴」所収 田中海軍水路中佐 1923（大正12）年10月31日 海上保安庁海洋情報部
- 1-38 「測量用船夫募集ノ件」／「往復書類綴」所収 海軍省構内 水路部第二課 1923（大正12）年9月20日 海上保安庁海洋情報部
- 1-39 「震災ニ依ル地盤隆起高ニ関スル件」／「往復書類綴 甲部外関係」 1925（大正14）年1月 海上保安庁海洋情報部
- 1-40 「往復書類綴 機密 自大正十二年九月至大正十三年」 1923～1924（大正12～13）年 海上保安庁海洋情報部
- 1-41 「臨時出測班関係書類綴 大正十四年度」 1925（大正14）年 海上保安庁海洋情報部

- 1-42 『水路要報 第3年』 1924 (大正13)年1月1日
海上保安庁海洋情報部
- 1-43 『大正12年震災地測量報告』 1924 (大正13)年9月1日
海上保安庁海洋情報部
- ◆ 水路部の測量艦 大和・武蔵・膠州 海上保安庁海洋情報部
- ◆ 震災後に隆起した海岸 三浦市・大磯町・初島
気象庁
- 1-44 「相模湾内外海況変化調査図」／『神奈川県水産震災調査報告』付録 個人
- ◆ 震災後の神奈川県水産試験場 神奈川県水産技術センター
- 1-45 海図第66号 横浜港附近 銅版原版 水路部 1924 (大正13)年9月10日印刷発行・1931 (昭和6)年小改正
海上保安庁海洋情報部
- 1-46 「海図第66号 横浜港附近」 水路部 1924 (大正13)年9月10日印刷発行・1931 (昭和4)年小改正
個人
- 1-47 「関東震災全地域鳥瞰図絵」 吉田初三郎筆・大阪朝日新聞社 1924 (大正13)年9月15日 神奈川県立歴史博物館
- 1-48 出航時の客船エンプレス・オブ・オーストラリアと大さん橋 1923 (大正12)年9月1日 個人
- 1-49 電送写真 個人
- 1-50 「大震大火災実況 (大正十二年九月一日) 横浜市野毛山ヨリ市中」／「関東大震災前後写真帖」所収 絵葉書 1923 (大正12)年9月 神奈川県立歴史博物館
- 1-51 横浜被災状況写真 個人
- 1-52 横浜テントホテルパンフレット・マッチラベル 個人
- 1-53 横浜被災状況写真 1923 (大正12)年9月 神奈川県立歴史博物館
- 1-54 関東大震災写真アルバム 個人
- 1-55 関東大震災関係写真 個人
- 1-56 『五十嵐与七物語』 布川周二著・叢文社発行 1980 (昭和55)年5月 個人
- 1-57 小尾嘉郎氏旧蔵関東大震災関係写真 1923 (大正12)年 神奈川県立公文書館
- 1-58 大震災絵巻 上野碌郎 1923 (大正12)年12月31日
個人
- 2-01 『神奈川県写真帖』 1913 (大正2)年10月10日
神奈川県立歴史博物館
- 2-02 創建時の横浜正金銀行本店 神奈川県立歴史博物館
- 2-03 横浜正金銀行本支店アルバム 神奈川県立歴史博物館
- 2-04 横浜正金銀行本支店アルバム 神奈川県立歴史博物館
- 2-05 震災後の横浜市関内地区 横浜貿易倉庫 本町通り
弁天通り 横浜地方裁判所／「関東大震災横浜市写真帳」所収 1923 (大正12)年中旬頃 神奈川県立歴史博物館
- 2-06 震災後の横浜正金銀行本店 個人
- 2-07 「(横浜) 横浜正金銀行附近の惨状」／絵葉書
神奈川県立歴史博物館
- 2-08 「横浜正金銀行火災前家屋倒壊の惨状」 個人
- 2-09 「悲しみの極」 堀江まさ子 神奈川県立歴史博物館
- 2-10 「大正12.9.1 横浜大震災実況」／絵葉書 神奈川県立歴史博物館
- 2-11 『神奈川県下の大震火災と警察』 西坂勝人著・大震火災と警察刊行所発行 1926 (大正15)年9月30日再版
神奈川県立歴史博物館
- 2-12 「横浜正金銀行 (此建物附近多数の惨死者を出す)」／『神奈川県震災衛生誌』所収 桑島弥太郎著・神奈川県衛生課発行 1927 (昭和2)年11月1日再版
神奈川県立歴史博物館
- 2-13 震災復興期の横浜市街地 個人
- 2-14 「決定見積書 其ノ一」 神奈川県立歴史博物館
- 2-15 「決定見積書 其ノ二」 神奈川県立歴史博物館
- 2-16 震災復旧後の横浜正金銀行本店 神奈川県立歴史博物館
- 2-17 震災復旧後の横浜正金銀行本店 神奈川県立歴史博物館
- 2-18 横浜正金銀行名古屋支店・門司支店・本店写真帳
神奈川県立歴史博物館
- 2-19 横浜正金銀行東京支店姿図 神奈川県立歴史博物館
- 2-20 横浜正金銀行東京支店 乗客用昇降機昇降路鉄柱組注文図 神奈川県立歴史博物館
- 2-21 『横浜銀行集会所沿革』 横浜銀行協会
- 2-22 震災前の横浜銀行集会所／『横浜市水道拡張記念』所収 横浜市水道局 1915 (大正4)年10月20日
神奈川県立歴史博物館
- ◆ 震災後の横浜市関内地区 馬車道通り 尾上町通り
不動銀行 銀行集会所及女子青年会／「関東大震災横浜市写真帳」所収 1923 (大正12)年9月中旬頃
神奈川県立歴史博物館
- 2-23 『銀行通信録』76巻454号 東京銀行集会所 1923 (大正12)年10月20日 神奈川県立歴史博物館
- 2-24 「決議録」 横浜銀行集会所 1923 (大正12)年～1931 (昭和6)年 横浜銀行協会
- 2-25 「決議録 (第壹巻)」 横浜交換所 1923 (大正12)年～1928 (昭和3)年 横浜銀行協会
- 2-26 「二水会記事 第壹号」 横浜銀行集会所 1923 (大正12)年～1934 (昭和9)年 横浜銀行協会
- 2-27 「諸官庁差出届 新聞広告切抜綴」 横浜銀行集会所ほか、横浜銀行協会
- 2-28 「議事録 第二」 横浜手形交換所 1928～1932 (昭和3～7)年 横浜銀行協会
- 2-29 「議事録」 横浜銀行集会所 1931～1937 (昭和6～12)年 横浜銀行協会
- 2-30 「新築落成記念」／絵葉書 財団法人横浜銀行集会所 1936 (昭和11)年 横浜銀行協会
- 2-31 財団法人横浜銀行集会所新築工事概要 附平面図 1936 (昭和11)年 横浜銀行協会

- 2-32 児玉謙次氏胸像復元披露会写真 横浜銀行協会
1954 (昭和29)年6月14日 横浜銀行協会
- 2-33 第7回勤儉奨励強調期間ポスター 真の復興は心掛
から 太陽舎印刷所 1926 (大正15)年 個人
- 2-34 大震災5周年ポスター 受難の惨苦をかへり見よ
太陽舎印刷所 1928 (昭和3)年 個人
- 2-35 二周年震災復興状況写真帳 土木部工務課 1925
(大正14)年 神奈川県立歴史博物館
- 2-36 三周年震災復興状況写真帳 土木部工務課 1926
(大正15)年 神奈川県立歴史博物館
- 2-37 岸敬二郎／『工学博士 岸敬二郎伝』所収 大竹武吉
編・岸敬二郎君伝記編纂会発行 1931 (昭和6)年3
月4日 個人
- 2-38 岸敬二郎肖像写真 東芝未来科学館
- 2-39 辞令 技術部長 株式会社芝浦製作所 1911 (明治
44)年5月13日 東芝未来科学館
- 2-40 辞令 鶴見工場工場長 株式会社芝浦製作所 1925
(大正14)年9月11日 東芝未来科学館
- 2-41 辞令 生産本部長兼務 株式会社芝浦製作所 1926
(大正15)年9月13日 東芝未来科学館
- 2-42 帝国発明協会記念メダル 1922 (大正11)年4月29日
東芝未来科学館
- 2-43 電気文化展覧会記念メダル 1925 (大正14)年
東芝未来科学館
- 2-44 電気大博覧会記念メダル 1926 (大正15)年
東芝未来科学館
- 2-45 芝浦製作所写真アルバム 東芝未来科学館
- 2-46 震災後の東京電気社屋 1923 (大正12)年9月 東芝
未来科学館
- 2-47 岸敬二郎書簡 大川・田中宛 1923 (大正12)年10
月22日 東芝未来科学館
- 2-48 岸敬二郎書簡 加茂正雄宛 1923 (大正12)年11月
20日 東芝未来科学館
- 2-49 岸敬二郎書簡 横原宛 1924 (大正13)年1月15日
東芝未来科学館
- 2-50 岸敬二郎書簡 井上亀之助宛 1924 (大正13)年
1月29日 東芝未来科学館
- 2-51 岸敬二郎書簡 田中米太郎宛 1924 (大正13)年
3月15日 東芝未来科学館
- 2-52 岸敬二郎書簡 山下嘉郎宛 1924 (大正13)年4月
26日 東芝未来科学館
- 2-53 岸敬二郎書簡 日本碍子会社宛 1924 (大正13)年
7月29日 東芝未来科学館
- 2-54 岸敬二郎書簡 龍岡歳足宛 1925 (大正14)年2月
3日 東芝未来科学館
- 2-55 岸敬二郎書簡 佐伯猛男宛 1927 (昭和2)年2月3日
東芝未来科学館
- 2-56 扇子 過去不煩悶 現在努力 将来持希望 東芝
未来科学館
- 2-57 株式会社芝浦製作所鶴見工場絵葉書 株式会社芝浦
製作所鶴見工場 東芝未来科学館
- 2-58 芝浦製作所絵葉書 東芝未来科学館
- 2-59 「大地震災 日誌」 池上家与楽亭 1923 (大正
12)年9月 個人
- 2-60 震災前の池上家邸宅 個人
- 2-61 震災後の池上家邸宅 個人
- 2-62 「県会議員当選証書」 神奈川県知事 安河内麻吉
1924 (大正13)年6月13日 個人
- 2-63 「市会議員当選告知書」 川崎市長臨時代理 小林
五助 1924 (大正13)年9月10日 個人
- 2-64 川崎市制施行と大師町解体にあたっての感謝状
大師町長 石渡幸蔵 1924 (大正13)年6月30日
個人
- 2-65 辞令 特別都市計画委員会委員 内閣 1924 (大正
13)年10月6日 個人
- 2-66 旧大師町政に尽力の功績に対する感謝状 川崎市長
石井泰助 1924 (大正13)年11月28日 個人
- 2-67 「帝都復興記念章之証」 賞勳局総裁正四位勲二等
下條康麿 1931 (昭和6)年5月1日 個人
- 2-68 特別都市計画委員会会議資料 特別都市計画委員会
1925 (大正14)年3月 個人
- 2-69 財団法人同潤会本住宅青写真 財団法人同潤会 個人
- 2-70 財団法人同潤会関係書類綴 1924~1926 (大正13~
15)年 個人
- 2-71 四代目神奈川県庁舎実施設計図 1926~1927 (大正
15~昭和2)年 神奈川県庁 (神奈川県立歴史博物館
保管)
- 2-72 『神奈川県庁新築工事概要』 神奈川県立歴史博物館
- 2-73 『Yokohama Reconstructed 1929』 The City of
Yokohama 1929 (昭和4)年4月24日 神奈川県立
歴史博物館
- 2-74 昭和天皇行幸市民奉迎式記念写真 横浜銀行協会
- 2-75 「閑院宮殿下 復興の横浜御視察」 横浜シネマ商
会 1928 (昭和3)年5月25日撮影 株式会社ヨコ
シネディーアイエー
- 2-76 「聖上陛下 復興の横浜へ行幸」 横浜シネマ商
会 1929 (昭和4)年4月23・24日撮影 株式会社ヨコ
シネディーアイエー
- 2-77 「金沢文庫創立関係篇」 神奈川県立金沢文庫
- 2-78 「金沢文庫及昭和塾概要」 1930 (昭和5)年 神奈
川県立金沢文庫
- 2-79 「金沢文庫及昭和塾落成開所式来賓受付簿」 神奈
川県立金沢文庫
- 2-80 告辞 県立金沢文庫開所式 神奈川県知事 山県治
郎 1930 (昭和5)年8月8日 神奈川県立金沢文庫
- 2-81 工事報告 県立金沢文庫開所式 神奈川県営繕管財
課長 西岡広吉 1930 (昭和5)年8月8日 神奈川
県立金沢文庫

- 2-82 祝辞 県立金沢文庫開所式 金沢町長 松本房治
1930 (昭和5) 年8月8日 神奈川県立金沢文庫
- 2-83 祝辞 県立金沢文庫開所式 神奈川県会議長 石川
重郎 1930 (昭和5) 年8月8日 神奈川県立金沢文
庫
- ◆ 県立金沢文庫地鎮祭記念写真 1929 (昭和4) 年2月
5日 神奈川県立金沢文庫
- 2-84 『海のさち』 池田宏 1922 (大正11) 年3月10日
神奈川県立金沢文庫
- 2-85 『我が家の鏡』 池田宏 1924 (大正13) 年3月26
日 神奈川県立金沢文庫
- 2-86 『朝露の覚』 池田宏編 1935 (昭和10) 年4月5
日 神奈川県立金沢文庫
- 2-87 『大森鍾一』 池田宏編 1931 (昭和6) 年8月10
日再版 神奈川県立金沢文庫
- 3-01 「神奈川県鳥瞰図」 吉田初三郎 1932 (昭和7) 年
神奈川県立歴史博物館
- 3-02 「神奈川県観光図絵」 吉田初三郎・神奈川県観光
連合会 1933 (昭和8) 年4月30日 個人
- 3-03 「神奈川県観光図絵」 吉田初三郎・神奈川県観光
連合会 1934 (昭和9) 年12月30日 神奈川県立歴史
博物館
- 3-04 『大正大震災災誌』 神奈川県警察部 1926 (大正
15) 年7月15日 神奈川県立歴史博物館
- 3-05 『第二十回関東東北医師大会記念写真帖』 神奈川
県医師会 1930 (昭和5) 年11月3日 神奈川県立
歴史博物館
- 3-06 「日誌」 1932 (昭和7) 年 伊勢山皇大神宮
- 3-07 「日誌」 1933 (昭和8) 年 伊勢山皇大神宮
- 3-08 「日誌」 1934 (昭和9) 年 伊勢山皇大神宮
- 3-09 「日誌」 1935 (昭和10) 年 伊勢山皇大神宮
- 3-10 「御造営会計簿」 伊勢山皇大神宮
- 3-11 「願届並指令書綴 造営部」 1929~1935 (昭和4~
10) 年 伊勢山皇大神宮
- 3-12 「復興記念横浜大博覧会会場配置図」 1935 (昭和
10) 年 神奈川県立歴史博物館
- 3-13 『横浜商工月報 第一号 復興博記念号』 発行所
横浜商工会議所 1935 (昭和10) 年4月5日 神奈
川県立歴史博物館
- 3-14 『復興記念横浜大博覧会誌』 編纂・発行 復興記
念横浜大博覧会 1936 (昭和11) 年10月20日
神奈川県立歴史博物館
- 3-15 『復興記念横浜大博覧会協賛会報告書』 復興記念
横浜大博覧会 1937 (昭和12) 年11月30日 神奈
川県立歴史博物館
- 3-16 「発令事務順序概要」 復興局横浜出張所 1925
(大正14) 年7月24日 神奈川県立公文書館
- 3-17 『復興記念区画整理委員名鑑 坤』 日本聯合通信
社 1926 (大正15) 年11月25日 個人
- 3-18 第五地区方面横浜市町界町名地番整理図 個人
- 3-19 国幣中社鶴岡八幡宮社殿復旧工事内銕金具設計書
1926 (大正15) 年2月 個人
- 3-20 国幣中社鶴岡八幡宮撰社白旗宮復旧図 個人
- 3-21 『震災復旧鎌倉国宝帖』 神奈川県 1925 (大正
14) 年8月25日 神奈川県立歴史博物館
- 3-22 『鎌倉震災誌』 鎌倉町役場 1930 (昭和5) 年12
月25日 神奈川県立歴史博物館
- 3-23 帝室博物館復興翼賛会支部長就任の依頼／「昭和13
年 復興翼賛会関係」所収 1928 (昭和3) 年9月
25日 神奈川県立公文書館
- 3-24 海底基準局 海上保安庁海洋情報部
- ◆ 『大正12年震災地測量報告』付図 海上保安庁海洋
情報部
- ◆ 『水路要報 第3年』付図 海上保安庁海洋情報部
- 3-25 大刺股 神奈川県立歴史博物館
- 3-26 16mm 音声再生機 神奈川県立歴史博物館
- 3-27 映画撮影用カメラ 株式会社ヨコシネディーアイエー
- 3-28 パテ・ニュース社看板 株式会社ヨコシネディーア
イエー
- 3-29 のらくろ切抜絵 株式会社ヨコシネディーアイエー
- ◆ 佐伯永輔と横浜シネマ商会 株式会社ヨコシネデ
ィーアイエー
- 3-30 『横浜地質調査第一回報告』 復興局建築部 1926
(大正15) 年1月 神奈川県立歴史博物館
- 3-31 「横浜 (南部) 地表及地下地質図」／『横浜地質調
査第一回報告』附図第1版 復興局建築部 1926
(大正15) 年1月 神奈川県立歴史博物館
- 3-32 地質柱状図・地質断面図／『横浜地質調査第一回報
告』附図第2版 復興局建築部 1926 (大正15) 年
1月 神奈川県立歴史博物館
- 3-33 「震災被害状況報告」／「昭和5年 震災関係書
類」所収 神奈川県立公文書館
- 3-34 北伊豆地震被害状況図／「昭和5年 震災関係書
類」所収 1930 (昭和5) 年 神奈川県立公文書館
- 3-35 『昭和五年十一月二十六日 豆相地震報告』 神奈
川県立公文書館
- 3-36 『神奈川県測候所一覽』 1927 (昭和2) 年 神奈川
県立歴史博物館
- 3-37 『最新建築設計書叢書 第一期 第廿七集 神奈川
県測候所』 建築資料研究会 1928 (昭和3) 年6月
20日 神奈川県立歴史博物館
- 3-38 「北伊豆震災地質図」／『地質調査所報告 第百
十二号』附図 東京地学協会 1932 (昭和7) 年3月
31日 個人
- 3-39 『関東震災荒廃林地復旧事業報告』 神奈川県森林
再生課
- 3-40 『豆相震災荒廃林地復旧事業報告』 神奈川県森林課
神奈川県森林再生課
- ◆ 丹沢 玄倉小菅沢対岸の崩壊地 1923 (大正12) 年9
月9日・1995 (平成7) 年9月 神奈川県森林再生課

- ◆ 箱根 須雲川左岸(初花沢)の崩壊地 1926(大正15)年4月・1995(平成7)年10月 神奈川県森林再生課
- 3-41 北伊豆地震後の大明神川 1931(昭和6)年頃 神奈川県森林再生課
- 3-42 北伊豆地震復旧後の大明神川 1932(昭和7)年7月頃 神奈川県森林再生課
- ◆ 北伊豆地震から65年後の大明神川 1995(平成7)年10月 神奈川県森林再生課
- 3-43 震災復旧後の三保村世附雑畑沢 神奈川県森林再生課
- 3-44 震災復旧後の三保村簗沢ガン沢 1929(昭和4)年3月9日 神奈川県森林再生課
- 3-45 神奈川県荒廃地復旧事業一覧図 神奈川県森林再生課
- 3-46 神奈川県荒廃地復旧工事地一覧図 神奈川県森林再生課
- 3-47 酒匂川森林治水事務所開所記念写真／「大正十二年より昭和十七年に至る伊豆丹沢山系治水工事現況写真集」所収 神奈川県森林再生課
- 3-48 災害復旧工事写真アルバム 神奈川県農政部長務課 1991(平成3)年頃 神奈川県森林再生課
- 3-49 「大正震災林野の被害及其復旧事業」 神奈川県 1925(大正14)年10月撮影 神奈川県森林再生課
- 3-50 『神奈川県足柄上郡川村震災記念誌』 川村役場 1927(昭和2)年3月20日 神奈川県立図書館
- 3-51 「足柄上郡復興令達書」 山北町教育委員会
- 3-52 「土木書類」 山北町教育委員会
- 3-53 『御写真帳』 山北町教育委員会
- 3-54 「足柄上郡清水村経済更生基本調査並計画書」 清水村経済更生委員会 1936(昭和11)年3月 神奈川県立公文書館
- 3-55 『神奈川県農業総合計画書』 神奈川県農林部 1951(昭和26)年6月 神奈川県立公文書館
- 3-56 「戦後における茶主産地の形成過程(神奈川県足柄茶の事例)」 神奈川県農業試験場 1968(昭和43)年2月 神奈川県立公文書館
- 3-57 「足柄茶業振興計画書」 足柄茶業振興協議会 1968(昭和43)年頃 神奈川県立公文書館
- 3-58 「県政写真ニュース第589号 足柄茶を、お年寄りに」 1973(昭和48)年9月 神奈川県立公文書館
- ◆ 茶摘みと東名高速道路／神奈川県広報課撮影写真 1970(昭和45)年5月 神奈川県立公文書館
- ◆ 茶摘みと富士山／神奈川県広報課撮影写真 1971(昭和46)年5月 神奈川県立公文書館
- ◆ 茶業センターでの箱詰作業／神奈川県広報課撮影写真 1972(昭和47)年5月 神奈川県立公文書館

ウ 「足柄の仏像」

会 期：10月7日(土)～ 11月26日(日)

主 催：神奈川県立歴史博物館

特 別 協 力：伊豆箱根鉄道株式会社

後 援：小田原市教育委員会、南足柄市教育委員会、中井町教育委員会、大井町教育委員会、松田町教育委員会、山北町教育委員会、開成町教育委員会、箱根町教育委員会、真鶴町教育委員会、湯河原町教育委員会、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ、J:COM

助 成：芸術文化振興基金

展示資料件数：80件

入 場 者 数：17,267名(有料7,029名、無料10,238名)

担 当：学芸員 神野 祐太

概 要：本展では、神奈川の県西地域に伝えられる仏像を紹介する。古代には相模国の足上郡・足下郡、近世に足柄上郡・足柄下郡と呼ばれた地域で、現在では主に小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町の10市町に及ぶ。古代には東海道が通り、駿河国と相模国の境界に足柄坂(峠)が設けられ、坂東への入口や坂東の西端としてたくさんの人々が行き交った。万葉集の東歌に「足柄の御坂」と詠まれ、歌枕としてその名が知られている。そのような土地柄のためか、古代から中世に遡る仏像がたくさん伝えられている。地域的な特色として、平安時代の仏像が集中して伝来しており、箱根神社を中心に神像彫刻や神仏習合の色濃い仏像が多数伝えられる。これらは文字資料がほとんど残っていないこの地域の歴史を雄弁に物語っている。近世には小田原藩主稲葉正則が黄檗宗を信仰し、小田原でも中国風の仏像が造られた。鎌倉仏師や小田原仏師といった仏像彫刻を専門とする仏師が活躍した一方で、木食弾誓・木食観正といった聖(ひじり)や修行僧らが拠点とし、仏像や仏画を製作した。本展は、令和2年度に開催

した特別展「相模川流域のみほとけ」に続く、神奈川の仏像を地域別に紹介する特別展である。県西部の仏像をテーマにした「西湘の仏像」(会場：小田原市松永記念館)が昭和55年(1980)に開催されるが、より広範囲な足柄二郡にスポットをあてた初めての展示である。さらに、「西湘の仏像」以降に各自治体で実施された彫刻の悉皆調査によって確認された仏像も多数展示する。これらの調査には当館も協力しており、悉皆調査の成果を紹介する機会となる。

関 連 行 事：・連続講座「足柄をとりまく仏像とその歴史」10月15日、29日、11月12日
 ・現地見学会「元箱根磨崖仏をみる」10月25日
 ・子ども向け体験教室「ほとけさまのアクセサリーをつくろう！」11月5日
 ・学芸員による展示解説 10月9日、20日、28日、11月11日、17日、23日、25日

出 品 目 録：(凡例) No.、指定、名称・出土地・作者、材質・技法、員数、時代、世紀・製作年、所蔵とするが、一部異なる部分がある。県内の市町について「神奈川県」の表記は省略した。

*資料名の前に付した記号のうち、◎は重要文化財、○は県指定文化財、□は市・町指定文化財を示す。

1	塑像片(千代廃寺跡出土) 塑造 17 飛鳥~奈良時代 7~8世紀 神奈川県教育委員会	17	○女神立像 木造 1 平安~鎌倉時代 12~13世紀 箱根町・箱根神社
2	螺髪(千代廃寺跡出土) 塑造 1 飛鳥~奈良時代 7~8世紀 赤星直忠博士文化財資料館	18	○菩薩像頭部 木造 1 平安時代 12世紀 箱根町・興福院
3	埴仏(千代廃寺跡出土) 土製 1 飛鳥~奈良時代 7~8世紀 神奈川県教育委員会	19	○普賢菩薩坐像 木造 1 鎌倉時代 永仁5年(1297) 箱根町・興福院
4	三重圏文線鋸歯文縁複弁蓮華文軒丸瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 飛鳥時代 7世紀 明治大学博物館前場幸治瓦コレクション	20	□十一面観音懸仏(大芝遺跡出土) 銅造 1 鎌倉時代 13世紀 箱根町教育委員会(箱根町立郷土資料館保管)
5	重圏文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 飛鳥時代 7~8世紀 明治大学博物館前場幸治瓦コレクション	21	□菩薩形懸仏(大芝遺跡出土) 銅造 1 鎌倉時代 13世紀 箱根町教育委員会(箱根町立郷土資料館保管)
6	「大伴五十戸」銘重圏文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 飛鳥時代 7~8世紀 明治大学博物館前場幸治瓦コレクション	22	□懸仏鏡板(大芝遺跡出土) 銅造 1 鎌倉時代 13世紀 箱根町教育委員会(箱根町立郷土資料館保管)
7	珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 奈良時代 8世紀 明治大学博物館前場幸治瓦コレクション	23	□獅噛座(大芝遺跡出土) 銅造 2 鎌倉時代 13世紀 箱根町教育委員会(箱根町立郷土資料館保管)
8	□珠文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 奈良時代 8世紀 小田原市郷土文化館	24	○聖観音菩薩立像 木造 1 平安時代 11世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
9	□六葉単弁蓮華文軒丸瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 平安時代 9世紀 小田原市郷土文化館	25	○毘沙門天立像 木造 1 平安時代 10~11世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
10	□鬼瓦(千代廃寺跡出土) 土製 1 奈良時代 8世紀 個人(小田原市郷土文化館保管)	26	○毘沙門天立像 木造 1 平安時代 11世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
11	□瓦塔(千代廃寺跡出土) 土製 1 奈良時代 8世紀 個人(小田原市郷土文化館保管)	27	○天部立像 木造 1 平安時代 11世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
12	三重圏文線鋸歯文縁複弁十葉蓮華文軒丸瓦(からさわ瓦窯跡出土) 土製 1 飛鳥時代 7世紀 松田町教育委員会	28	○天部立像 木造 1 平安時代 11世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
13	『神奈川県小田原市千代遺跡』(赤星ノート) 紙本 1 昭和時代 20世紀 神奈川県教育委員会	29	○天部形立像 木造 1 平安時代 12世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
14	◎万卷上人坐像 木造 1 平安時代 9世紀 箱根町・箱根神社	30	○天部形立像 木造 1 平安時代 12世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
15	◎男神・女神坐像 木造 2 平安時代 11世紀 箱根町・箱根神社	31	○神形立像 木造 1 室町時代 15世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
16	○男神坐像 銅造 1 平安~鎌倉時代 12~13世紀 箱根町・箱根神社	32	○神形立像 木造 1 室町時代 15世紀 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
		33	○比丘形立像 木造 1 時代不詳 — 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)
		34	○比丘形立像 木造 1 時代不詳 — 南足柄市・朝日観音堂(上怒田自治会管理)

- 35 ○比丘形立像 木造 1 時代不詳 — 南足柄市・朝日
観音堂（上怒田自治会管理）
- 36 ○菩薩形立像 木造 1 平安時代 12世紀 南足柄市・
朝日観音堂（上怒田自治会管理）
- 37 ○如来形立像 木造 1 時代不詳 — 南足柄市・朝日
観音堂（上怒田自治会管理）
- 38 ○如来形立像 木造 1 時代不詳 — 南足柄市・朝日
観音堂（上怒田自治会管理）
- 39 ○如来形立像 木造 1 時代不詳 — 南足柄市・朝日
観音堂（上怒田自治会管理）
- 40 ○男神立像 木造 1 平安時代 11～12世紀 大磯町・
六所神社
- 41 ○女神立像 木造 1 平安時代 11～12世紀 大磯町・
六所神社
- 42 ○薬師如来坐像 木造 1 平安時代 11世紀 南足柄市・
保福寺
- 43 ○十一面観音菩薩立像 木造 1 平安時代 11世紀
南足柄市・保福寺
- 44 □薬師如来坐像 木造 1 平安時代 10～11世紀 南足
柄市・中沼薬師堂（中沼自治会管理）
- 45 □阿弥陀如来立像 木造 1 平安時代 11～12世紀
南足柄市・日影公民館（日影自治会管理）
- 46 □薬師如来立像 木造 1 平安時代 12世紀 中井町・
泰翁寺
- 47 薬師如来及び両脇侍像 木造 3 平安時代 11～12世紀
小田原市・法輪寺
- 48 □釈迦如来及び両脇侍坐像 木造 3 平安時代 11～12
世紀 小田原市・京福寺
- 49 菩薩面 木製 1 平安時代 承安4年（1174） 箱根町・
阿弥陀寺
- 50 ○阿弥陀如来立像 木造 1 鎌倉時代 13世紀 小田原
市・本誓寺
- 51 ○阿弥陀如来立像 木造 1 鎌倉時代 13世紀 小田原
市・本誓寺
- 52 当寺如法仏縁起 紙本墨書 1 室町時代 永正17年
（1520） 小田原市・本誓寺
- 53 本誓寺縁起 紙本墨書 1 江戸時代 享保2年（1717）
小田原市・本誓寺
- 54 阿弥陀如来立像 木造 1 鎌倉時代 延応元年（1239）
小田原市・蓮台寺
- 55 □阿弥陀如来坐像 木造 1 鎌倉時代 13世紀 南足柄
市・龍福寺
- 56 ◎他阿真教坐像 木造 1 鎌倉時代 文保2年（1318）
小田原市・蓮台寺
- 57 文殊菩薩立像 木造 1 鎌倉時代 12～13世紀 箱根
町・阿弥陀寺
- 58 ○薬師如来坐像 木造 1 鎌倉時代 13世紀 大井町・
三嶋神社
- 59 地藏菩薩及び両脇侍像 3 南足柄市・弘濟寺
□地藏菩薩坐像 鎌倉～南北朝時代 14世紀
掌善童子・掌悪童子立像 南北朝時代 14世紀
- 60 男神（伝弥勒菩薩）立像 木造 1 鎌倉時代 13世紀
小田原市・勝福寺
- 61 地藏菩薩面部 木造 1 鎌倉～南北朝時代 14世紀
小田原市・南蔵寺
- 62 □聖観音菩薩立像 木造 1 南北朝時代 14世紀
松田町・延命寺
- 63 □薬師如来立像 木造 1 南北朝時代 14世紀 松田
町・延命寺
- 64 □十一面観音菩薩立像 木造 1 室町時代 15世紀
松田町・桜観音堂（宝寿院管理）
- 65 ○釈迦如来立像 木造 1 南北朝時代 14世紀
小田原市・東学寺
- 66 菩薩遊戯坐像 木造 1 鎌倉時代 13世紀 静岡県
小山町・乗光寺
- 67 阿弥陀如来及び両脇侍像 3 大井町・最明寺
阿弥陀如来・観音菩薩立像 木造 江戸時代 17世紀
□勢至菩薩立像 銅造 鎌倉時代 13世紀
- 68 □阿弥陀如来立像 木造 1 室町時代 16世紀 松田
町・庶子自治会（松田町生涯学習センター保管）
- 69 北条時頼坐像 木造 1 南北朝時代 14世紀 大井町・
最明寺
- 70 十一面観音菩薩立像 石造 1 鎌倉時代か、14世紀か、
真鶴町・瀧門寺
- 71 □千手観音菩薩立像 長勤作 木造 1 室町時代 永禄
5年（1562） 箱根町・興福院
- 72 菩薩坐像 石造 1 室町時代 15世紀 真鶴町・瀧門寺
- 73 男神立像 木造 1 室町時代 15世紀 湯河原町・五
所神社
- 74 □土肥実平・土肥遠平坐像 木造 2 江戸時代 17～
18世紀 湯河原町・城願寺
- 75 聖観音菩薩坐像 木造 1 江戸時代 17世紀 湯河原町・
城願寺
- 76 釈迦如来坐像 木造 1 江戸時代 17世紀 小田原市・
福泉寺（城山）
- 77 弾誓上人坐像 木造 1 江戸時代 17世紀 箱根町・
阿弥陀寺
- 78 □弾誓上人絵詞伝 卷下（三巻の内） 紙本著色 1
江戸時代 18世紀 箱根町・阿弥陀寺
- 79 菩薩立像 木造 18 江戸時代 19世紀 南足柄市・
弘濟寺
- 80 僧形立像 木造 1 江戸時代 19世紀 大井町・市場
公民館（市場自治会管理）

(3) 特別陳列

戦国大名北条氏と西相模・伊豆

会 期：令和6年3月16日(土) ～ 4月14日(日)

会 場：特別展示室 第1室

主 催：神奈川県立歴史博物館

展示資料件数：37件

担 当：学芸員 梯 弘人

概 要：相模国の相模川以西と伊豆国を合わせた地域は、戦国大名北条氏の歴代当主の居城であった小田原城（小田原市）や韮山城（静岡県伊豆の国市）に象徴されるように、領国における政治的中心地として当主の直轄支配が行われていた。本展では当地域が北条氏にとってどのような意義を持っていたのかについて、当館が所蔵する江梨鈴木家文書をはじめとする北条氏関連文書などの歴史資料をとおして紹介する。

関 連 行 事：・講演会「北条家朱印状の謎に迫る」 3月31日

・学芸員による展示解説 3月24日、27日、4月4日、13日

出 品 目 録：(凡例) No、資料名、年代、所蔵

1-1 北条家朱印状 (天正17年) 12月7日 神奈川県立歴史博物館	2-5 パネル 北条家朱印状 (元龜2年) 5月16日 真鶴町教育委員会
1-2 小田原衆所領役帳 (北条家文書) 永祿2年2月12日 神奈川県立歴史博物館	2-6 パネル 北条家朱印状 (藤曲家文書) (永祿4年) 3月30日 箱根町立郷土資料館
1-3 大道寺盛昌書状 (江梨鈴木家文書) (年未詳) 4月2日 神奈川県立歴史博物館	2-7 パネル 北条氏政朱印状 (清田家文書) (天正13年) 8月23日 個人 (平塚市博物館寄託)
1-4 某書状断簡 (江梨鈴木家文書) (年月日未詳) 神奈川県立歴史博物館	2-8 パネル 北条氏光朱印状 (獅子浜植松家文書) (元龜3年) 7月23日 個人 (沼津市明治史料館寄託)
1-5 パネル 清水康英書状写 (越前史料山本文書) (天正9年カ) 5月15日 国文学研究資料館	2-9 パネル 葛山氏元判物 (江浦久住文書) 弘治3年3月24日 沼津市歴史民俗資料館
1-6 小田原文天記 天文6年6月14日条 天文年間 神奈川県立図書館	2-10 パネル 北条家朱印状 (長浜村大川家文書) (天正8年) 11月14日 国文学研究資料館
1-7 北条氏政書状 (北条家文書) (永祿11年カ) 9月6日 神奈川県立歴史博物館	2-11 北条氏規書状 (北条家文書) (年未詳) 9月23日 神奈川県立歴史博物館
1-8 相州三増合戦図 江戸時代 神奈川県立歴史博物館	2-12 北条家法度書 (江梨鈴木家文書) (元龜4年) 7月16日 神奈川県立歴史博物館
1-9 北条氏照書状 (山吉家文書) (永祿12年) 10月24日 神奈川県立公文書館	2-13 パネル 北条家法度書 (獅子浜植松家文書) (元龜4年) 7月16日 個人 (沼津市明治史料館寄託)
1-10 北条氏康書状 (山吉家文書) (永祿12年) 11月24日 神奈川県立公文書館	2-14 パネル 北条家法度書 (山本文書) (元龜4年) 7月16日 西伊豆町教育委員会
1-11 パネル 北条氏光朱印状 (獅子浜植松家文書) (天正7年) 12月19日 個人 (沼津市明治史料館寄託)	2-15 パネル 北条家朱印状写 (越前史料山本文書) (天正8年) 12月17日 国文学研究資料館
1-12 北条氏規掟書 (北条家文書) (天正8年カ) 6月26日 神奈川県立歴史博物館	3-1 北条家船手形朱印状 (江梨鈴木家文書) (天正2年) 7月10日 神奈川県立歴史博物館
1-13 徳川家康書状写 (北条家文書) (天正11年) 7月5日 神奈川県立歴史博物館	3-2 パネル 北条家船手形朱印状 (天正2年) 7月10日 横浜市歴史博物館
1-14 徳川家康書状 (北条家文書) (天正18年) 6月7日 神奈川県立歴史博物館	3-3 パネル 北条家船手形朱印状 (獅子浜植松家文書) (天正2年) 7月10日 個人 (沼津市明治史料館寄託)
1-15 河村新城跡発掘調査資料 戦国時代 神奈川県教育委員会	3-4 関山隼人訴状 (関山家文書) (天正14年) 6月28日 個人
2-1 パネル 鶴岡八幡宮社参記 (「佐竹家旧記」謄写本) 永祿年間 東京大学史料編纂所	3-5 北条家朱印状 (関山家文書) 天正14年7月19日 個人
2-2 小田原文天記 天文3年6月3日条 天文年間 神奈川県立図書館	3-6 北条家朱印状 (桜井家文書) (天正17年) 12月8日 神奈川県立歴史博物館
2-3 伊東家祐書状 (江梨鈴木家文書) (年未詳) 1月17日 神奈川県立歴史博物館	3-7 パネル 北条家朱印状 (上原家文書) (天正2年) 9月11日 個人 (横浜市歴史博物館寄託)
2-4 北条家朱印状 (大川文書) (天文13年) 2月22日 個人	

(4) コレクション展

藤助さんと幕末

会 期：令和6年2月17日(土) ～ 3月24日(日)

会 場：コレクション展示室

主 催：神奈川県立歴史博物館

協 力：川崎市市民ミュージアム、鈴木藤助日記研究会

展示資料件数：77件

担 当：学芸員 寺西 明子、非常勤学芸員 根本 佐智子

概 要：本展は令和2年度新収蔵資料である鈴木快輔家資料「鈴木藤助日記」の修復・撮影終了報告を兼ねたコレクション展示である。武蔵国橘樹郡長尾村（川崎市多摩区・宮前区）鈴木藤助らによって嘉永6年（1853）6月から明治22年（1889）1月まで書き綴られた53冊を日常と非日常に分け解説した。また、資料を翻刻した鈴木藤助日記研究会の功績とともに地震データベースへの活用から近世農民日記活用の可能性についても紹介した。

関 連 行 事：・連続古文書講座「藤助日記を読む」 2月25日、3月3日、10日

・講演会「村に残る日記から何がわかるかー地方から見る近世・近代産業の転換ー」
3月17日

・学芸員による展示解説 2月24日、3月2日、9日、16日

・関連展示「旅する藤助さん」 2月6日～3月26日

出 品 目 録：（凡例）No.、名称、時代、作成・発行、所蔵

1	パネル 長尾村絵図 江戸時代 永井家所蔵文書	17	パネル 鈴木快輔家文書 文化5（1808）年5月吉日
2	パネル 長尾村絵図 江戸時代 永井家所蔵文書		「祝儀仏事控」 文久1（1861）年2月 「横浜開港の
3	鈴木藤助日記 初巻 嘉永6（1853）年 表紙 「ペリー 来航」 神奈川県立歴史博物館		影響」 神奈川県立歴史博物館
4	パネル 鈴木藤助日記 初巻 嘉永6（1853）年6月 11日 「ペリー来航風聞」 神奈川県立歴史博物館	18	鈴木藤助日記 七巻 嘉永8（安政2、1856）年 「安政の 大地震」 神奈川県立歴史博物館
5	パネル 鈴木藤助日記 初巻 嘉永6（1853）年7月19日 「ペリー来航風聞」 神奈川県立歴史博物館	19	仮名垣魯文 安政見聞誌 安政3（1856）年 久崎家所蔵 資料
6	相総海岸之図（当館蔵） 江戸時代 神奈川県立歴史博 物館	20	鈴木藤助日記 式巻 安政6（1859）年7月25日 「多摩川大洪水」 神奈川県立歴史博物館
7	蛮翰漢和各五篇（当館蔵） 江戸時代 神奈川県立歴史 博物館	21	パネル 鈴木快輔家文書 文化5（1808）年5月吉日 「祝儀仏事控」 安政6（1859）年7月24日 神奈川県 立歴史博物館
8	火輪船之図（ミシシッピ号カ） 江戸時代 神奈川県立 歴史博物館	22	パネル 鈴木快輔家文書 文化5（1808）年5月吉日「祝 儀仏事控」 安政6（1859）年7月 神奈川県立歴史博物館
9	阿部家資料 癸丑六月亜船渡来一件 江戸時代 神奈川 県立歴史博物館	23	鈴木藤助日記 拾壹巻目 文久2（1862）年7月23日 「麻疹大流行」 神奈川県立歴史博物館
10	鈴木藤助日記 式巻 嘉永6（1853）年9月8日 「フィルモア大統領国書」 神奈川県立歴史博物館	24	鈴木藤助日記 五巻 万延1（1860）年4月26日 「桜田 門外の変風聞」 神奈川県立歴史博物館
11	平野左近 翻譯合衆国書牘 嘉永7（1854）年1月 神奈川県立歴史博物館	25	鈴木藤助日記 九巻目 文久1（1861）年10月29日 「和宮下向手伝い」 神奈川県立歴史博物館
12	駒込徳源院 亜墨利伽一件 江戸時代末期 神奈川県立 歴史博物館	26	鈴木藤助日記 拾三巻目 文久3（1863）年3月7日 「江戸騒然」 神奈川県立歴史博物館
13	鈴木藤助日記 三巻 嘉永6（1853）年11月7日 「上納金の要求」 神奈川県立歴史博物館	27	鈴木藤助日記 拾貳巻目 文久2（1862）年9月2日 「武家の知り合いからの頼み」 神奈川県立歴史博物館
14	鈴木藤助日記 四巻 嘉永7（1854）年2月1日 「2度 目のペリー来航」 神奈川県立歴史博物館	28	鈴木藤助日記 拾四巻目 文久3（1863）年8月4日 「浪士による資金要求」 神奈川県立歴史博物館
15	パネル 鈴木藤助日記 四巻 嘉永7（1854）年4月18日 「ペリーが去るまでの負担」 神奈川県立歴史博物館	29	鈴木藤助日記 拾六巻目 元治1（1864）年8月9日 「幕末騒擾の中の藤助日常」 神奈川県立歴史博物館
16	鈴木藤助日記 七巻目 万延2（1861）年 「横浜開港 の影響」 神奈川県立歴史博物館	30	鈴木藤助日記 拾九巻目 慶応2（1866）年6月16日 「武州一揆」 神奈川県立歴史博物館
		31	鈴木藤助日記 貳拾貳巻目 慶応4（1868）年1月18日

- 「戊辰戦争」 神奈川県立歴史博物館
- 32 パネル 鈴木藤助日記 貳拾三巻目 慶応4 (1868) 年5月11日 「戊辰戦争風聞」 神奈川県立歴史博物館
- 33 鈴木藤助日記 貳拾三巻目 慶応4 (1868) 年5月3日 「偽彰義隊による資金要求」 神奈川県立歴史博物館
- 34 鈴木藤助日記 貳拾四巻目 明治元 (1868) 年9月23日 「明治改元」 神奈川県立歴史博物館
- 35 鈴木藤助日記 三拾巻目 明治5 (1872) 年12月2日 「太陽曆採用」 神奈川県立歴史博物館
- 36 鈴木藤助日記 貳拾八巻目 明治4 (1871) 年2月10日～表紙裏 「太陽曆採用」 神奈川県立歴史博物館
- 37 パネル 鈴木藤助日記 三拾巻目 明治5 (1872) 年9月11日 「土地所有者・土地価格の調査」 神奈川県立歴史博物館
- 38 鈴木藤助日記 三拾四巻目 明治8 (1875) 年5月6日 「地租改正事業と留五郎」 神奈川県立歴史博物館
- 39 鈴木藤助日記 三拾六巻目 明治9 (1876) 年11月26日 「地引絵図作成」 神奈川県立歴史博物館
- 40 鈴木快輔家文書 武蔵国橋樹郡神奈川県長尾村編図 明治9 (1876) 年11月 神奈川県立歴史博物館
- 41 鈴木藤助日記 三拾八巻目 明治11 (1878) 年10月31日 「地租改正事業の粉擾」 神奈川県立歴史博物館
- 42 武田交来 冠松真土夜暴動 明治13 (1880) 年 久崎家所蔵資料
- 43 鈴木藤助日記 壹巻 安政6 (1859) 年4月 表紙「再開した藤助日記」 神奈川県立歴史博物館
- 44 鈴木藤助日記 五巻 嘉永7 (1854) 年7月1日 「等覚院人気」 神奈川県立歴史博物館
- 45 鈴木藤助日記 四巻目 安政7 (1860) 年3月18日 「等覚院本堂再建」 神奈川県立歴史博物館
- 46 パネル 鈴木藤助日記 四拾八・四拾九巻目 明治20 (1887) 年4月20日 「等覚院開帳」 神奈川県立歴史博物館
- 47 鈴木快輔家資料 版木 不動明王像 (年代未詳) 神奈川県立歴史博物館
- 48 等覚院御札 (年代未詳) 神奈川県立歴史博物館
- 49 神木山御札 (年代未詳) 神奈川県立歴史博物館
- 50 醤油用ジョウロ 昭和時代カ 神奈川県立歴史博物館
- 51 鈴木藤助日記 三巻目 安政6 (1859) 年10月18日 「長尾村内質屋書き上げ」 神奈川県立歴史博物館
- 52 鈴木藤助日記 六巻 安政2 (1855、嘉永8年) 4月9日 「醤油製造量」 神奈川県立歴史博物館
- 53 鈴木藤助日記 六巻目 万延1 (1860) 年8月19日 「船の利用」 神奈川県立歴史博物館
- 54 鈴木藤助日記 貳拾巻目 慶応2 (1866) 年10月27日 「醤油蔵への盗人」 神奈川県立歴史博物館
- 55 鈴木藤助日記 四拾三巻目 明治15 (1882) 年8月6日 「醤油販路の変化」 神奈川県立歴史博物館
- 56 鈴木藤助日記 四拾七巻目 明治18 (1885) 年6月8日 「醤油醸造業の終焉」 神奈川県立歴史博物館
- 57 鈴木藤助日記 四拾巻目 明治13 (1880) 年5月18日 「製茶業への着目」 神奈川県立歴史博物館
- 58 鈴木藤助日記 拾七巻目 慶応1 (1865) 年5月8日 「村の負担を分配」 神奈川県立歴史博物館
- 59 鈴木藤助日記 (二拾五巻目カ、前後欠) 明治2 (1869) 年4月14日 「藤助は長尾村の調整役」 神奈川県立歴史博物館
- 60 鈴木藤助日記 三拾壹巻目 明治6 (1873) 年6月7日 「小学校設立」 神奈川県立歴史博物館
- 61 鈴木藤助日記 三拾貳巻目 明治7 (1874) 年3月5日 「小学校世話役」 神奈川県立歴史博物館
- 62 鈴木藤助日記 四拾四巻目 明治16 (1883) 年1月21日 「日記に見える自由民権運動」 神奈川県立歴史博物館
- 63 鈴木藤助日記 三拾七巻目 明治11 (1878) 年2月25日 「藤助と家族の日常」 神奈川県立歴史博物館
- 64 鈴木藤助日記 八巻目 文久1 (1861) 年3月15日 「二男乙五郎」 神奈川県立歴史博物館
- 65 鈴木藤助日記 拾巻目 文久2 (1862) 年2月12日 「三女、武家奉公への憧れ」 神奈川県立歴史博物館
- 66 鈴木藤助日記 三拾五巻目 明治9 (1876) 年3月28日～ 「藤助妻およしの活躍」 神奈川県立歴史博物館
- 67 鈴木藤助日記 貳拾六巻目 明治3 (1870) 年2月18日 「長男留五郎への代替わり」 神奈川県立歴史博物館
- 68 鈴木藤助日記 三拾九巻目 明治12 (1879) 年2月7日 「留五郎、戸長になる」 神奈川県立歴史博物館
- 69 鈴木藤助日記 四拾五巻目 明治16 (1883) 年12月23日 「個人の日記としての藤助日記」 神奈川県立歴史博物館
- 70 鈴木藤助日記 (四拾六巻目カ、表紙欠) 明治17 (1884) 年11月21日 「代筆される藤助日記」 神奈川県立歴史博物館
- 71 鈴木藤助日記 四十八・四十九巻目 ～明治20 (1887) 年7月13日 巻末 「晩年の藤助」 神奈川県立歴史博物館
- 72 鈴木藤助日記 五拾巻目 明治21 (1888) 年1月19日 「藤助死去」 神奈川県立歴史博物館
- 73 鈴木藤助日記 五拾壹巻目 明治22 (1889) 年1月17日 「鈴木藤助日記の終焉」 神奈川県立歴史博物館
- 74 鈴木藤助日記翻刻原稿 貳拾七巻目他 平成20 (2010) 年頃 鈴木藤助日記研究会
- 75 鈴木藤助日記 貳拾七巻目 明治3 (1870) 年7月4日～ 神奈川県立歴史博物館
- 76 パネル 鈴木藤助日記研究会写真 鈴木藤助日記研究会
- 77 新聞「くらしの窓」 平成15 (2003) 年6月22日発行 鈴木藤助日記研究会

(5) その他の展示

ア 令和5年度かながわの遺跡展「華ひらく律令の世界」

会 期：令和6年2月3日(土) ～ 3月6日(水)

会 場：特別展示室

主 催：神奈川県教育委員会、神奈川県立歴史博物館、茅ヶ崎市教育委員会

後 援：朝日新聞横浜総局、産経新聞社横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、神奈川新聞社、東京新聞横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、tvk(テレビ神奈川)、NHK 横浜放送局、FM ヨコハマ、ラジオ日本、J:COM

展示資料件数：784件

入 場 者 数：7,939名

担 当：神奈川県教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所 主事 立原 遼平

概 要：奈良・平安時代の社会は、律令という法制度を前提として社会が動いていた時代である。律令制度が本格的に導入され、一定の規範のもとに中央では宮都が、地方では国衙や郡衙が整備されていく。他方、同時代には大小さまざまな集落が発見されており、人々が生活を営んでいた痕跡も明瞭にみて取れる。神奈川県下には、こうした律令の息吹を感じることができる官衙遺跡が点在しており、これまでに平塚市の相模国府周辺遺跡や横浜市都筑区の長者原遺跡(都筑郡衙)、鎌倉市今小路西遺跡(鎌倉郡衙)、川崎市高津区の橋樹官衙遺跡群(橋樹郡衙)、茅ヶ崎市の下寺尾官衙遺跡群(高座郡衙)が発見されている。平成27年度には下寺尾官衙遺跡群と橋樹官衙遺跡群が国史跡に指定され、両遺跡の史跡整備に係る確認調査も大きな進展を見せており、これら神奈川県の遺跡が官衙研究の最前線に立っていると断言しても過言ではない。加えて、官寺である海老名市相模国分寺跡、尼寺跡や地方寺院である小田原市千代寺院跡(千代廃寺)、川崎市宮前区影向寺遺跡、茅ヶ崎市七堂伽藍跡などのほか、相模川流域や相模国府周辺において大規模な同時代の集落が発見されており、相模・武蔵国における律令社会を、より明瞭に解明できる状況にあると言える。本展示ではこうした最新の研究状況を紹介するとともに、神奈川県下の奈良・平安時代の代表的な遺跡から、かながわにおける律令社会の実相を解明する展示を行った。

関 連 行 事：・講演会

第2回「古代の相模・武蔵と律令国家」 2月10日

第3回「古代かながわの官衙と交通」 2月17日

・展示担当者による展示解説 2月3日、12日、3月2日

出 品 目 録：(凡例) No.、資料名、出土遺跡名(所在地)、年代、所蔵

*資料名の前に付した記号のうち、◎は重要文化財、○は府県指定文化財、□は市町村指定文化財を示す。

1	□複弁八葉蓮華文軒丸瓦 千代廃寺(小田原市) 奈良時代 個人蔵(小田原市郷土文化館寄託)	前期 慶應義塾大学
2	□葡萄唐草文軒平瓦 千代廃寺(小田原市) 奈良時代 個人蔵(小田原市郷土文化館寄託)	10 銅製品 三角縁神獸鏡 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学
3	ガラス製品 小玉 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学	11 壺形埴輪 長柄桜山古墳群(逗子市・葉山町) 古墳時代前期 神奈川県教育委員会
4	石製品 管玉 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学	12 円筒埴輪 長柄桜山古墳群(逗子市・葉山町) 古墳時代前期 神奈川県教育委員会
5	石製品 勾玉 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学	13 有蓋脚付銅鏡 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館
6	銅製品 小型銅鏡 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学	14 金属製品 直刀 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館
7	銅製品 小型銅鏡 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学	15 金属製品 直刀 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館
8	銅製品 小型銅鏡 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代前期 慶應義塾大学	16 □金属製品 柄頭 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館
9	銅製品 小型銅鏡 白山古墳(川崎市幸区) 古墳時代	17 □金属製品 柄頭 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館

- 18 □金属製品 鐺 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 神奈川県教育委員会
- 19 □金属製品 環頭大刀柄頭 栗原古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 鎌倉市教育委員会
- 20 □金属製品 鉄鏃 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 茅ヶ崎市博物館
- 21 □金属製品 雲珠 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 茅ヶ崎市博物館
- 22 □金属製品 杏葉 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 小田原市教育委員会
- 23 □金属製品 五獣形鏡 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 24 □土師器 坏 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 奈良・平安時代 茅ヶ崎市博物館
- 25 □須恵器 高坏 登尾山古墳(伊勢原市) 古墳時代後期 三之宮郷土博物館 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 26 ガラス製品 丸玉 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 27 石製品 切子玉 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 28 鉄製品 鏃 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 29 鉄製品 短刀 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 30 鉄製品 刀子 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 31 鉄製品 直刀 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 32 須恵器 長頸壺 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 33 須恵器 甗 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 34 須恵器 平瓶 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 35 須恵器 高坏 からさわ・かなんざわ遺跡(松田町) 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 36 土師器 坏(畿内系) 綱崎山横穴墓(横浜市港北区) 古墳時代後期 横浜市歴史博物館 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 37 土製品 円面硯 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 38 土製品 風字硯 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 39 土製品 硯 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 40 官人の七つ道具 複製 横浜市歴史博物館
- 41 石製品 砥石 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 42 天平7年(735)相模国調郎関係文書 複製 横浜市歴史博物館
- 43 ○宮久保木簡 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 44 □天平木簡 今小路西遺跡(鎌倉市) 奈良・平安時代 鎌倉市教育委員会
- 45 □3号木簡 居村B遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市博物館
- 46 □4号木簡 居村B遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市博物館
- 47 □木簡 千代南原遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 48 □木簡 千代南原遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 49 北B遺跡出土漆紙文書 複製 奈良・平安時代 茅ヶ崎市博物館
- 50 土師器 坏(「目」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 51 須恵器 坏(「田万」墨書) 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 52 土師器 坏(「入」墨書) 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 53 土師器 坏(「入」墨書) 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 54 須恵器 坏(「入几」墨書) 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 55 須恵器 坏(「入几」墨書) 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 56 銅製品 巡方 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 57 銅製品 丸鞆 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 58 銅製品 鉞尾 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 59 石製品 巡方 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 60 石製品 丸鞆 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 61 石製品 鉞尾 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 62 単弁六葉蓮華文軒丸瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市郷土の森博物館
- 63 珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市郷土の森博物館
- 64 重弧文軒平瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 65 偏向唐草文軒平瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 66 須恵器 皿(「市」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 67 須恵器 坏(「京」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会

- 68 須恵器 坏(「榎本」,「解申」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 69 石製品 紡錘車 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 70 土製品 紡錘車 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 71 鉄製品 青銅製分銅 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 72 土製品 埴塼 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 73 鉄製品 小札 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 74 鉄製品 鐔 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 75 鉄製品 柄頭 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 76 鉄製品 鉗 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 77 鉄製品 鎌(雁股) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 78 緑釉陶器 椀 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 79 緑釉陶器 陰刻花纹輪花椀 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 80 緑釉陶器 陰刻花纹稜皿 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 81 須恵器 坏(「国」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 82 土師器 坏(「南曹」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 83 銅製品 佐波理鏡 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 84 緑釉陶器 手付瓶 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 85 緑釉陶器 小型瓶 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 86 須恵器 壺 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 87 緑釉陶器 緑彩蓋 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 88 緑釉陶器 唾壺 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 89 緑釉陶器 耳皿 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 90 緑釉陶器 耳皿 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 91 緑釉陶器 陰刻花纹碗 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 92 白磁 碗 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 93 青磁 碗 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 94 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 95 劍菱文単弁蓮華文軒丸瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 96 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 97 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 98 平瓦(「口磨寺」押印) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 99 土製品 円面硯(「多研」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 100 須恵器 坏(「神」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 101 須恵器 坏(「佛」墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 102 土師器 坏(「大住」墨書) 四之宮高林寺遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 103 土師器 坏(「中罵?」墨書) 六ノ域遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 104 土師器 坏(「国厨」墨書) 稻荷前A遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 105 土師器 甕(「旧鼓一」墨書) 稻荷前A遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 106 土師器 坏(「大京」墨書) 稻荷前B遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 107 土師器 坏(「郡厨」墨書) 天神前遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 108 土師器 皿(「平成?」墨書土器) 構之内遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 109 土師器 坏(「口/口」墨書土器) 神明久保遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 110 須恵器 坏(「宅」墨書) 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 111 土師器 坏(「門」墨書) 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 112 土師器 坏(「弓」墨書) 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 113 土師器 坏(「方岡」墨書) 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 114 土師器 坏(「大住」墨書) 四之宮下郷廃寺(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市博物館
- 115 土師器 坏(「口」墨書) 四之宮下郷廃寺(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市博物館
- 116 土師器 坏(「曹司」墨書) 厚木道遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市博物館
- 117 灰釉陶器 碗(「凡人部豊子丸」刻書) 六ノ域遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会

- 118 土師器 坏(「國厨」墨書) 坪ノ内遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 119 須恵器 蓋(「口家」刻書) 坪ノ内遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 120 土師器 坏(「福」墨書) 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 121 灰釉陶器 皿(「南中」墨書) 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 122 土師器 埴 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 123 土師器 埴 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 124 土師器 坏 坪ノ内遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 125 須恵器 壺 稻荷前A遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 126 須恵器 壺 梶谷原B遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 127 須恵器 甕(転用硯) 坪ノ内遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 128 灰釉陶器 碗(転用硯) 坪ノ内遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 129 緑釉陶器 碗 真田 北金目遺跡群(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 130 緑釉陶器 輪花碗 真田 北金目遺跡群(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 131 緑釉陶器 陰刻花文輪花碗 林B遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 132 緑釉陶器 陰刻花文稜碗 林B遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 133 緑釉陶器 陰刻花文輪花碗 林B遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 134 緑釉陶器 陰刻花文輪花皿 林B遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 135 緑釉陶器 蓋 構之内遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 136 緑釉陶器 合子 高林寺遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 137 緑釉陶器 陰刻花文手付瓶 林B遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 138 鉄製品 紡錘車 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 139-1 金属製品 錠前 稻荷前B遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 139-2 □金属製品 錠前 神明久保遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 140 金属製品 鍵 七ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 141 銅製品 皇朝銭(「和同開珎」) 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 142 銅印(「平」銅印) 構之内遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 143 金属製品 焼印(「王」印) 構之内遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 144 金属製品 「井」焼印 厚木道遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市博物館
- 145 □金属製品 銅匙 山王A遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 146 銅製品 鈴 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 147 金属製品 鏡 構之内遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 148 金属製品 八稜鏡 六ノ城遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 149 土製品 土馬 真田 北金目遺跡群(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 150-1 土製品 瓦塔 神明久保遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 150-2 土師器 仏鉢形土器 厚木道遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 151 須恵器 仏鉢形土器 天神前遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 152 灰釉陶器 托 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 153 灰釉陶器 浄瓶 神明久保遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 154 土師器 碗(「卍」墨書) 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 155 平瓦 坪ノ内遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 156 珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 157 土製品 羽口 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 158 金床石 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 159 鉄滓 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 160 鉄製品 釘 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 161 鉄製品 錠 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 162 鉄製品 雁又鍬 大会原遺跡 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 163 須恵器 三足壺 梶谷原B遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 164 須恵器 坏 下寺尾西方遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 165 須恵器 蓋 下寺尾西方遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会

- 166 土師器 坏(「都」墨書) 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市歴史博物館
- 167 須恵器 円面硯 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市歴史博物館
- 168 土師器 坏 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 169 鉄滓 精錬滓 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 170 土製品 羽口 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 171 灰釉陶器 碗 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 172 土師器 甕 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 173 土師器 高坏 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 174 須恵器 坏 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 175 須恵器 蓋 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 176 土師器 坏 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 177 土師器 坏(畿内系) 長者原遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 日本窯業史研究所
- 178 土師器 坏(「千文字」墨書) 下曾我遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 179 土師器 坏(「牛」墨書) 千代南原遺跡第Ⅶ地点(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 180 土師器 坏(「厨」墨書) 千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 181 須恵器 蓋(「捌拾」墨書) 下曾我遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 182 須恵器 蓋(「上主調」墨書) 下曾我遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 183 木製品 櫛 下曾我遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 184 桃種子(12点) 下曾我遺跡(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市教育委員会
- 185 平瓦 弘明寺(横浜市南区) 奈良・平安時代 弘明寺
- 186 須恵器 長頸瓶 弘明寺(横浜市南区) 奈良・平安時代 弘明寺
- 187 石製品 紡錘車 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 188 石製品 巡方 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 189 石製品 丸柄 本郷遺跡 KOE-II 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 190 緑釉陶器 碗 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 191 須恵器 耳皿 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 192 灰釉陶器 小型瓶 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 193 土師器 坏(刻画土器) 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 194 土師器 坏(「万」墨書) 大谷向原遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 195 土師器 坏(「吉」墨書) 大谷向原遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 196 土師器 坏(「高座官」墨書) 大谷向原遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 197 須恵器 風字硯 大谷向原遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 198 土師器 坏(「馬」墨書) 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 199 金属瀬品 鉸具(馬具) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 200 金属製品 轡金具(馬具) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 201 金属製品 轡金具(馬具) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 202 金属製品 轡金具(馬具) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 203 金属製品 環状鏡板付轡(馬具) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 204 灰釉陶器 碗 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 205 灰釉陶器 皿 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 206 灰釉陶器 長頸瓶 宮久保遺跡(綾瀬市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 207 灰釉陶器 平瓶 本郷遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 208 灰釉陶器 浄瓶 上吉井南遺跡(横須賀市) 奈良・平安時代 横須賀市教育委員会
- 209 灰釉陶器 把手付長頸瓶 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 210 銅製品 銅造観世音菩薩立像(複製) 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 211 ○緑釉陶器 唾壺 多喜窪横穴墓群(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 212 □緑釉陶器 陰刻花文皿 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 213 灰釉陶器 浄瓶 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 214 「造塔」ヘラ書き平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 215 「多」スタンプ丸瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会

- 266 「父」スタンプ平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 267 「久」へら書き熨斗瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 268 「久」へら書き平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 269 「橘」スタンプ平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 270 「都立」へら書き平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 271 「橘」スタンプ平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 272 「□原マ花万呂」へら書き平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 273 「□久万呂」へら書き平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 274 「久」へら書き平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 275 「橘」スタンプ平瓦 武蔵国分寺関連遺跡(東京都国分寺市) 奈良・平安時代 国分寺市教育委員会
- 276 珠文縁単弁五葉蓮華文軒丸瓦 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 277 珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 278 均整唐草文軒平瓦 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 279 偏向唐草文軒平瓦 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 280 鬼瓦 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 281 土師器 灯明皿 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 282 土師器 坏(「法華寺」墨書) 国分寺北方遺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 283 金属製品 金銅製水煙 相模国分寺跡(海老名市) 奈良・平安時代 海老名市教育委員会
- 284-1 鬼瓦 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 284-2 鬼瓦(複製) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市博物館
- 285 丸瓦 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 286 平瓦 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 287 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 288 陶製品 相輪 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 289 土製品 埴 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 大曲五反田遺跡(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 290 須恵器 仏鉢形土器 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 291 須恵器 仏鉢形土器 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 292 須恵器 瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 293 灰釉陶器 浄瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 294-1 灰釉陶器 浄瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 294-2 灰釉陶器 浄瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 大曲五反田遺跡(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 295 二彩陶器 火舎 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 296 二彩陶器 火舎 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 297 二彩陶器 薬壺蓋 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 298 須恵器 浄瓶 北B遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 299 土師器 灯明皿 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 300 須恵器 高台付埴 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 301 緑釉陶器 稜碗 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 302 灰釉陶器 小型瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 303 須恵器 小型長頸瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 304 須恵器 小型長頸瓶 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 305 灰釉陶器 碗 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 306 灰釉陶器 皿 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 307 須恵器 蓋 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 308 土師器 坏(多文字刻書) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 309 土師器 坏(多文字墨書) 北B遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 310 土師器 坏(「太」墨書) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 311 土師器 坏(「生」墨書) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 312 須恵器 円面硯 北B遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 313 木器 椀 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代

- 神奈川県教育委員会
- 314 木器 皿 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代
神奈川県教育委員会
- 315 木製品 絵馬 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代
神奈川県教育委員会
- 316 漆製品 杯 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 大曲五反田遺跡
(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 317 木製品 櫛 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 大曲五反田遺跡
(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 318 鉄製品 釘 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代
茅ヶ崎市教育委員会
- 319 銅製品 皇朝銭(神功開寶) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市)
奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 320 銅製品 銭貨(萬年通寶) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 大曲
五反田遺跡(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県教育
委員会
- 321 銅製品 銭貨(富壽神寶) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市)
奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 322 青銅製品 軸端 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安
時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 323 石製品 紡錘車(「神」刻書) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市)
大曲五反田遺跡(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県
教育委員会
- 324 葡萄唐草文 千代廃寺(小田原市) 奈良・平安時代
小田原市教育委員会
- 325 □土製品 瓦塔 千代廃寺(小田原市) 奈良・平安時代
小田原市郷土文化館
- 326 □平瓦(「石田一斗加沙八升」へら書き) 千代廃寺
(小田原市) 奈良・平安時代 小田原市郷土文化館
- 327 □平瓦(「石田一斗」へら書き) 千代廃寺(小田原市)
奈良・平安時代 小田原市郷土文化館
- 328 □鬼瓦 千代廃寺(小田原市) 奈良・平安時代 小田原
市郷土文化館
- 329 □単弁八葉蓮華文軒丸瓦 千代廃寺(小田原市) 奈良・
平安時代 小田原市郷土文化館
- 330 □複弁八葉蓮華文軒丸瓦 千代廃寺(小田原市) 奈良・
平安時代 小田原市郷土文化館
- 331 □三重圏複弁十六葉蓮華文軒丸瓦 千代廃寺(小田原市)
奈良・平安時代 小田原市郷土文化館
- 332 □八葉複弁蓮華文軒丸瓦 千代廃寺(小田原市) 奈良・
平安時代 小田原市郷土文化館
- 333 素文単弁八葉蓮華文軒丸瓦 影向寺遺跡(川崎市宮前区)
奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 334 □平瓦(「无射志国往原評」刻書) 影向寺遺跡(川崎
市宮前区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 335 丸瓦(「都」刻書) 影向寺遺跡(川崎市宮前区) 奈良・
平安時代 川崎市教育委員会寄託(影向寺所蔵)
- 336 素文単弁八葉蓮華文軒丸瓦 影向寺遺跡(川崎市宮前区)
奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 337 三重弧文軒平瓦 影向寺遺跡(川崎市宮前区) 奈良・
- 平安時代 川崎市教育委員会
- 338 四重弧文軒平瓦 影向寺遺跡(川崎市宮前区) 奈良・
平安時代 川崎市教育委員会
- 339 丸瓦 影向寺遺跡(川崎市宮前区) 奈良・平安時代
川崎市教育委員会
- 340 丸瓦 影向寺遺跡(川崎市宮前区) 奈良・平安時代
川崎市教育委員会
- 341 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 千葉地東遺跡(鎌倉市) 奈良・
平安時代 神奈川県教育委員会
- 342 重弧文軒平瓦 今小路西遺跡(鎌倉市) 奈良・平安
時代 鎌倉市教育委員会
- 343 丸瓦 今小路西遺跡(鎌倉市) 奈良・平安時代 鎌倉
市教育委員会
- 344 平瓦(刻書) 今小路西遺跡(鎌倉市) 奈良・平安時代
鎌倉市教育委員会
- 345 平瓦 今小路西遺跡(鎌倉市) 奈良・平安時代 鎌倉
市教育委員会
- 346 珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦 宗元寺跡(横須賀市)
奈良・平安時代 赤星直忠博士文化財資料館
- 347 珠文縁飛雲文軒平瓦 宗元寺跡(横須賀市) 奈良・
平安時代 赤星直忠博士文化財資料館
- 348 珠文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦 宗元寺跡(横須賀市)
奈良・平安時代 赤星直忠博士文化財資料館
- 349 素縁素弁四葉忍冬交飾蓮華文軒丸瓦 宗元寺跡(横須
賀市) 奈良・平安時代 赤星直忠博士文化財資料館
- 350 素縁素弁四葉忍冬交飾蓮華文軒丸瓦 宗元寺跡(横須
賀市) 奈良・平安時代 赤星直忠博士文化財資料館
- 351 三重弧文軒平瓦 宗元寺跡(横須賀市) 奈良・平安
時代 赤星直忠博士文化財資料館
- 352 土師器 坏(「寺」墨書) 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・
平安時代 厚木市教育委員会
- 353 土師器 坏(「山」墨書) 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・
平安時代 厚木市教育委員会
- 354 土師器 灯明皿 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・平安
時代 厚木市教育委員会
- 355 土製品 鉢型 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・平安時代
厚木市教育委員会
- 356 土師器 仏鉢形土器 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・
平安時代 厚木市教育委員会
- 357 鉄製品 釘 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・平安時代
厚木市教育委員会
- 358 鉄製品 鋸 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・平安時代
厚木市教育委員会
- 359 土製品 瓦塔 愛名宮地遺跡(厚木市) 奈良・平安時代
厚木市教育委員会
- 360 灰釉陶器 皿 上吉井南遺跡(横須賀市) 奈良・平安
時代 横須賀市教育委員会
- 361 土師器 仏鉢形土器 上吉井南遺跡(横須賀市) 奈良・
平安時代 横須賀市教育委員会
- 362 土師器 坏(「佛万」) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・

- 平安時代 藤沢市
- 363 土師器 坏(「寺一万」墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 364 土師器 坏(「一万寺」墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 365 土師器 坏(「佛」墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 366 土師器 高台付坏(格子状墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 367 須恵器 埴(「五万一千」「一千」墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 368 土師器 坏 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 369 土師器 坏(畿内系) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 370 灰釉陶器 三足皿 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 371 灰釉陶器 把手付小瓶 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 372 石製品 紡錘車(刻書「大□□□□□□□□」) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 373 銅製品 皇朝銭(富壽神寶) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 374 金属製品 海老錠(鍵) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 375 金属製品 海老錠(牡金具) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 376 珠文縁単弁五葉蓮華文軒丸瓦 乗越瓦窯(横須賀市) 奈良・平安時代 横須賀市教育委員会
- 377 平瓦(「田?」文字瓦) 乗越瓦窯(横須賀市) 奈良・平安時代 横須賀市教育委員会
- 378 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 松田町教育委員会
- 379 細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 青山学院大学考古学研究室
- 380 重弧文軒平瓦 からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 松田町教育委員会
- 381 重弧文軒平瓦 からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 青山学院大学考古学研究室
- 382 丸瓦 からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 松田町教育委員会
- 383 平瓦 からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 松田町教育委員会
- 384 石製品 閉塞石か からさわ瓦窯跡群(松田町) 奈良・平安時代 松田町教育委員会
- 385 須恵器 高台付皿(「コ」墨書) 北川表の上遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 386 須恵器 坏 北川表の上遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 387 鉄製品 釘 北川表の上遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 388 灰釉陶器 長頸瓶 北川表の上遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 389-1 土師器 坏 北川表の上遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 389-2 土師器 坏(「コ」墨書) 北川表の上遺跡(横浜市都筑区) 奈良・平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 390 □灰釉陶器 短頸壺 野川古墓群南耕地A地点(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 391 □須恵器 蓋 野川古墓群南耕地A地点(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 392 □須恵器 短頸壺 有馬古墓群台板上グループ(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 393 □須恵器 蓋 有馬古墓群台板上グループ(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 394 須恵器 蓋 細山古墓群大久保古墓(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 395 須恵器 短頸壺 細山古墓群大久保古墓(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 396 □鹿骨製かんざし 有馬古墓群台板上グループ(川崎市中原区) 奈良・平安時代 川崎市教育委員会
- 397 □土師器 坏(人面墨書) 箱根田遺跡(静岡県三島市) 奈良・平安時代 三島市教育委員会
- 398 □土師器 甕(人面墨書) 箱根田遺跡(静岡県三島市) 奈良・平安時代 三島市教育委員会
- 399 □土師器 壺(人面墨書) 箱根田遺跡(静岡県三島市) 奈良・平安時代 三島市教育委員会
- 400 □土師器 壺(仏面墨書) 箱根田遺跡(静岡県三島市) 奈良・平安時代 三島市教育委員会
- 401 □土師器 壺(「新刀自女身代」墨書) 箱根田遺跡(静岡県三島市) 奈良・平安時代 三島市教育委員会
- 402 □人形木製品 箱根田遺跡(静岡県三島市) 奈良・平安時代 三島市教育委員会
- 403 □土師器 台付甕(人面墨書) 武蔵国府関連遺跡(東京都府中市) 奈良・平安時代 府中市教育委員会
- 404 土師器 坏(人面墨書) 構之内遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 405 土師器 坏(人面墨書) 六ノ城遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市教育委員会
- 406 □土師器 甕(人面墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 407 □土師器 甕(人面墨書) 南鍛冶山遺跡(藤沢市) 奈良・平安時代 藤沢市
- 408 土師器 坏(人面墨書) 北B遺跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 茅ヶ崎市教育委員会
- 409 土師器 壺(「人面?」墨書) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 410 土師器 壺(「人面」墨書) 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 411 土師器 坏(人面墨書) 稻荷前A遺跡(平塚市) 奈良・

- 平安時代 平塚市教育委員会
- 412 灰釉陶器 碗(多文字墨書) 川田前遺跡(厚木市) 奈良・平安時代 厚木市教育委員会
- 413 灰釉陶器 碗(多文字墨書) 川田前遺跡(厚木市) 奈良・平安時代 厚木市教育委員会
- 414 灰釉陶器 長頸瓶 川田前遺跡(厚木市) 奈良・平安時代 厚木市教育委員会
- 415 骨製品(馬骨) 呪術具 本宿B遺跡(平塚市) 奈良・平安時代 平塚市博物館
- 416 骨製品 卜骨 蓼原遺跡(横須賀市) 奈良・平安時代 横須賀市教育委員会
- 417 木製品 人形 七堂伽藍跡(茅ヶ崎市) 大曲五反田遺跡(寒川町) 奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
- 418 埋納遺構から出土した土師器 坪ノ内遺跡(平塚市) 平安時代 平塚市教育委員会
- 419 土師器 坏 神隠丸山遺跡(横浜市都筑区) 平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 420 須恵器 蓋 神隠丸山遺跡(横浜市都筑区) 平安時代 横浜市埋蔵文化財センター
- 421 土師器 小皿 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 422 土師器 皿 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 423 土師器 坏 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 424 土師器 碗 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 425 銅製品 皇朝錢(治平元寶) 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 426 銅製品 皇朝錢(治平元寶) 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 427 鉄製品 鉸具 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 428 鉄製品 鉸具 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 429 金属製品 鉛板 佐原泉遺跡(横須賀市) 平安時代 横須賀市教育委員会
- 430 かわらけ 皿 千葉地東遺跡(鎌倉市) 平安～鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 431 白かわらけ 皿 千葉地東遺跡(鎌倉市) 平安～鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 432 山茶碗 碗 千葉地東遺跡(鎌倉市) 平安～鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 433 山茶碗 碗 千葉地東遺跡(鎌倉市) 平安～鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 434 山茶碗 皿 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 435 陶器 四耳壺 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 436 陶器 捏鉢 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 437 陶器 壺 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 438 陶器 折縁深皿(古瀬戸) 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 439 陶器 小壺(古瀬戸) 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 440 青磁 碗 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 441 青磁 皿 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 442 青白磁 水注 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 443 白磁 皿 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 444 白磁 碗 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 445 白磁 四耳壺 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 446 白磁 四耳壺 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 447 褐釉 壺 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 448 黄釉 盤 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 449 漆器 皿 今小路西遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 450 漆器 椀 今小路西遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 451 「金将」 駒(「金将」墨書) 今小路西遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 452 木製品 札(墨書) 今小路西遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 453 呪符木簡 千葉地東遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会
- 454 かわらけ 小皿(「鶴」墨書) 公方屋敷跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 455 かわらけ 皿(「酒」墨書) 佐助ヶ谷遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 456 かわらけ 皿(人面墨書) 北条泰時 時頼邸跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 457 かわらけ 大皿(人面墨書) 今小路西遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 458 かわらけ 皿(亀 兎墨書) 今小路西遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 459 軒丸瓦 永福寺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 460 軒平瓦 永福寺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
- 461 軒丸瓦 永福寺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会

- 委員会
462 軒平瓦 永福寺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
463 平瓦 永福寺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
464 平瓦(戯画墨書) 永福寺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉

- 市教育委員会
465 □雅楽器文銅鏡 大倉幕府跡(鎌倉市) 鎌倉時代 鎌倉市教育委員会
466 ○金属製品 鎧 下馬周辺遺跡(鎌倉市) 鎌倉時代 神奈川県教育委員会

イ 「馬車道を描く日曜画家展作品」展示

「馬車道を描く日曜画家展 歴代金賞作品展」

概要 要：昭和55年度から始められた「馬車道を描く日曜画家展」の歴代金賞受賞作品を、会議室に展示した。なお、第44回(令和5年度)において、主任学芸員 角田 拓朗が審査員の一人として協力した。

会 期：12月8日(金) ～ 12月14日(木)

会 場：1階 会議室

主 催：馬車道商店街協同組合、神奈川県立歴史博物館

展 示 点 数：合計42点(第2回(昭和56年度)～第43回(令和4年度)の金賞作品)

ウ パネル展示

かながわの近代建築

概要 要：神奈川県内には、現在も明治・大正・昭和戦前期に建てられた数多くの近代建築が残されている。これらの近代建築の多くは、横浜における開港場や居留地に由来する建築、湘南地域に幅広く分布する避暑・避寒のための別荘建築、海軍の軍都として発展した横須賀などに見られる軍事関連の建築、箱根を中心とした観光地に建てられた旅館やホテル建築、京浜工業地帯の一角を占める横浜・川崎の臨海部の工場建築という、五つの要素に大別してとらえることができる。これは神奈川県内の近代建築の特色を表現しているだけでなく、神奈川県の近代の歩みを考える上で重要な要素でもある。本展示では、神奈川県内に現存する近代建築のうち、当館の建物である旧横浜正金銀行本店本館や「キングの塔」と通称される神奈川県庁本庁舎をはじめとする24棟の建物を取り上げ、その魅力を紹介した。

会 期：通年

会 場：1階 フリーゾーン 廊下

展示資料点数：25点(番外のマップを含む)

出 品 目 録：(いずれも写真パネル)(凡例) No.、名称、所在地、竣工年月

No.	名称	所在地	竣工年月
番外	かながわの近代建築MAP(神奈川県内の近代建築のうち60棟を地図上に示し、各建物の写真と概要データを紹介したものの。)		
1	旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館)	横浜市中区南仲通	1904年(明治37)7月
2	神奈川県庁舎(神奈川県庁本庁舎)	横浜市中区日本大通	1928年(昭和3)10月
3	旧新港埠頭煉瓦二号倉庫(横浜赤レンガ倉庫2号館)	横浜市中区新港	1911年(明治44)5月
4	旧三井物産横浜支店(三井物産横浜ビル)	横浜市中区日本大通1号ビル	1911年(明治44)8月、2号ビル1927年(昭和2)
5	旧開港記念横浜会館(横浜市開港記念会館)	横浜市中区本町	1917年(大正6)6月
6	旧川崎銀行横浜支店(日本興亜馬車道ビル)	横浜市中区弁天通	1922年(大正11)
7	旧生糸検査所(横浜第2合同庁舎)	横浜市中区北仲通	1926年(大正15)2月
8	ホテルニューグランド本館	横浜市中区山下町	1927年(昭和2)11月
9	旧横浜商工奨励館(横浜情報文化センター)	横浜市中区日本大通	1929年(昭和4)4月
10	旧三井銀行横浜支店(三井住友銀行横浜支店)	横浜市中区本町	1931年(昭和6)3月
11	旧横浜英国総領事館(横浜開港資料館旧館)	横浜市中区日本大通	1931年(昭和6)
12	横浜税関本関庁舎	横浜市中区海岸通	1934年(昭和9)3月
13	横浜郵船ビル(日本郵船歴史博物館)	横浜市中区海岸通	1936年(昭和11)10月
14	旧内田家住宅(外交官の家)	横浜市中区山手町	1910年(明治43)
15	旧英国総領事公邸(横浜市イギリス館)	横浜市中区山手町	1937年(昭和12)
16	旧大倉精神文化研究所(横浜市大倉山記念館)	横浜市港北区大倉山	1932年(昭和7)4月

17 福住旅館金泉楼・萬翠楼 足柄下郡箱根町湯本 1877年(明治10)・1878年(明治11)	21 旧近藤邸 藤沢市鶴沼東(同市内より移築) 1925年(大正14)
18 富士屋ホテル本館 足柄下郡箱根町宮ノ下 1891年(明治24)	22 旧華頂家住宅主屋(旧華頂宮邸) 鎌倉市浄明寺 1929年(昭和4)
19 旧日本爆発物製造株式会社支配人執務室(旧海軍火薬廠将校クラブ、旧横浜ゴム平塚製造所記念館) 平塚市浅間町 1912年(明治45)頃	23 旧藤沢ゴルフ倶楽部クラブハウス(神奈川県立体育センター食堂) 藤沢市善行 1932年(昭和7)
20 旧木下邸 中郡大磯町大磯 明治時代末期	24 旧前田家別邸(鎌倉文学館本館) 鎌倉市長谷 1936年(昭和11)8月

(6) 教育普及・学習支援事業

広く県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。なお、講座等の催し物は定員を減らし受講者の間隔をあけて密にならないよう座席位置を工夫するなど新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期して運営した。

ア 県立社会教育施設公開講座

生涯学習課主管の有料の連続講座(各回1,000円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回単独受講可能)

県博セミナー「画僧祥啓の生涯とその絵の魅力」

(定員50名 応募者76名(単回を含む事前申込者)、13:30~15:30)

概要：特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」に関連し、祥啓の研究者が素性・特徴・魅力を講演し、より深く特別展を知る機会とした。

- ・第1回 5月21日(日) (受講者45名)
「祥啓の画業と啓書記の受容」学芸員 橋本 遼太
- ・第2回 5月28日(日) (受講者41名)
「祥啓と鎌倉画壇」東京国立博物館研究員 高橋 真作 氏
- ・第3回 6月4日(日) (受講者47名)
「祥啓がみた中国絵画」東京大学東洋文化研究所教授 板倉 聖哲 氏
- ・第4回 6月11日(日) (受講者43名)
「祥啓の山水・人物・花鳥図」根津美術館学芸第二課長 本田 諭 氏
※担当(普及担当)：学芸員 橋本 遼太(非常勤学芸員 市野 悦子)

イ 特別展等関連行事(特別展等のテーマに沿った内容の講演会等の実施)

(ア) 特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」

a 記念講演会(無料、ただし特別展観覧券が必要)

「祥啓と関東水墨画—中世東国の文化遺産」

開催日：5月14日(日)13:30~15:30(定員50名 応募者108名 受講者63名)

概要：関東水墨画研究の第一人者の立場から、祥啓が関東水墨画史上に果たした役割や功績について解説した。

講師：成城大学教授 相澤 正彦 氏

※担当(普及担当)：学芸員 橋本 遼太(非常勤学芸員 大柳 麻美)

b 子ども向け展示解説「祥啓さん、こんにちは！—はじめての水墨画鑑賞—」(無料)

開催日：5月5日(金・祝) ①10:30~11:30 ②13:30~14:30

(定員各5組 応募者 ①4組11名 ②2組9名 受講者 応募者数と同じ)

概要：室町時代の禅僧祥啓や水墨画について、ワークシートや特別展の見学を通して担当学芸員が子ども向けに解説し、水墨画を鑑賞するきっかけとした。

講師：学芸員 橋本 遼太

※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子

- c 夜間開館展示解説（無料、ただし特別展観覧券が必要）
 開催日：6月14日（水）①17:30～18:00 ②18:15～18:45
 （受講者 ①51名 ②30名）
 概要：開館を2時間延長して19時閉館とする夜間開館を実施。毎週土曜日の展示解説は地下講堂を会場としたが、夜間開館に限っては展示室内でギャラリートークをおこなった。
- (イ) 特別展「関東大震災—原点は100年前—」
- a 記念講演会
 「関東地震：発生から100年後の地震像」（無料、ただし特別展観覧券が必要）
 開催日：8月19日（土）13:30～15:30（定員60名 応募者103名 受講者50名）
 概要：神奈川県温泉地学研究所で地震学を専門に研究する講師により、発災当時から100年経ち科学の発達で分かってきた関東大震災のあらましについて詳しく講演した。
 講師：神奈川県温泉地学研究所 主任研究員 本多 亮
 ※担当（普及担当）：学芸員 武田 周一郎（非常勤学芸員 市野 悦子）
- b 連続講座
 「関東大震災を知る」
 （全3回、無料、ただし初回受講日のみ特別展観覧券が必要、13:30～15:30）
 （定員60名 応募者104名（単回含む事前申込者））
 概要：関東大震災の被害と復興について、主に横浜市域や大磯町域を対象として解説した。
 ・第1回 7月29日（土）（受講者46名）
 「横浜と関東大震災」横浜都市発展記念館 主任調査研究員 吉田 律人 氏
 ・第2回 8月5日（土）（受講者42名）
 「神奈川と関東大震災」学芸員 武田 周一郎
 ・第3回 8月12日（土）（受講者37名）
 「大磯と関東大震災」大磯町郷土資料館 学芸員 富田 三紗子 氏
 ※担当（普及担当）：学芸員 武田 周一郎（非常勤学芸員 大柳 麻美）
- c 連携講座
 「地球博×県博 神奈川県西部の災害を知る」（無料）
 開催日：8月31日（木）10:30～12:30（定員20名 応募者49名 受講者16名）
 概要：地球博学芸員の講師から自然災害とは何か、県西部の地域特性や特徴的災害について解説し、ミニ展示を見学。当館学芸員から関東大震災の概要等の解説の他、復興状況について解説した。
 講師：神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員 西澤 文勝
 学芸員 武田 周一郎
 ※担当（普及担当）：学芸員 武田 周一郎（主査 岡田 和子・非常勤学芸員 市野 悦子）
- d 子ども向け展示解説「横浜正金銀行と関東大震災」（無料）
 開催日：①8月13日（日）②8月26日（土）いずれも13:30～14:30
 （定員各5組 応募者 ①6組17名 ②6組17名 受講者 ①5組12名 ②5組12名）
 概要：関東大震災の被害と復興の様子について、特別展と当館の旧館部分（旧横浜正金銀行本店本館）の見学を通して子ども向けに解説した。
 講師：学芸員 武田 周一郎
 ※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子
- e 高校生・大学生向け現地見学会
 「海上保安庁の測量船で知る海の防災」（無料）
 開催日：8月24日（木）10:00～12:30（定員30名 応募者16名 受講者13名）
 概要：東日本大震災時の海の測量等で活躍した測量船の内部や海洋情報資料館を見学し、海上保安庁職員及び当館学芸員の解説を聞いて震災の理解を深めた。

講師：海上保安庁職員

※担当（普及担当）：学芸員 武田 周一郎（主査 岡田 和子・非常勤学芸員 大柳 麻美）

f 展示解説動画（YouTube 配信、無料）

公開日：8月23日（水）（令和6年3月31日時点の再生回数1,975回）

概要：特別展「関東大震災一原点は100年前」のみどころを紹介した。

講師：学芸員 武田 周一郎

※普及担当：主査 岡田 和子

(㉞) 特別展「足柄の仏像」

a 連続講座

「足柄をとりまく仏像とその歴史」

（全3回、無料、ただし初回受講日のみ特別展観覧券が必要、13:30～15:30）

（定員60名 応募者115名〈単回含む事前申込者〉）

概要：足柄地方の仏像について、県博歴代彫刻担当学芸員が講演した。

・第1回 10月15日（日）（受講者48名）

「足柄地域のみほとけたち」学芸員 神野 祐太

・第2回 10月29日（日）（受講者49名）

「足柄の仏像調査ノートから—兜跋毘沙門天・齒吹阿弥陀・小田原仏師—」

三井記念美術館館長 清水 眞澄 氏

・第3回 11月12日（日）（受講者47名）

「箱根地方の神像とその周辺」前館長 薄井 和男 氏

※担当（普及担当）：学芸員 神野 祐太（非常勤学芸員 市野 悦子）

b 現地見学会（無料）

「元箱根磨崖仏をみる」

開催日：10月25日（水）12:30～14:00（定員20名 応募者50名 受講者16名）

概要：国の重要文化財に指定されている元箱根石仏群を学芸員が解説した。

講師：学芸員 神野 祐太

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

c 子ども向け体験教室「ほとけさまのアクセサリーをつくろう！」（無料）

開催日：11月5日（日）①10:00～11:30 ②14:00～15:30

（定員各7名 応募者①4名 ②7名 受講者①3名 ②7名）

概要：特別展に出品された地蔵菩薩坐像（弘濟寺）が身に付けている胸飾りを参考に、型紙とビーズを組み合わせてオリジナルの胸飾りを作り、参加者が仏像や文化財の修復に興味、関心を持つ機会とした。

講師：一般社団法人 三乗堂 中 愛 氏

※担当（普及担当）：学芸員 神野 祐太（非常勤学芸員 豊田 倫子）

d 展示準備紹介動画（YouTube 配信、無料）

公開日：10月18日（火）（令和6年3月31日時点の再生回数1,747回）

概要：特別展「足柄の仏像」の展示準備の様子を紹介した。

講師：学芸員 神野 祐太

※普及担当：主査 岡田 和子

(㉟) 特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」

a 講演会（無料、ただし常設展観覧券が必要）

「北条家朱印状の謎に迫る」

開催日：令和6年3月31日（日）13:30～15:30（定員60名 応募者184名 受講者53名）

概要：北条家朱印状のあり方や北条氏による伊豆地域の統治について紹介した。

講師：学芸員 梯 弘人

※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子

(ウ) コレクション展「藤助さんと幕末」

a 講演会（無料、ただし常設展観覧券が必要）

「村に残る日記から何がわかるか—地方から見る近世・近代産業の転換—」

開催日：令和6年3月17日（日）13:30～15:30（定員60名 応募者92名 受講者43名）

概要：「鈴木藤助日記」の記述から、産業面での近世・近代転換期の地方有力農民像に迫る。

演題：①地方有力農民による醤油醸造業経営

②橋樹郡における近代的「茶業」経営の萌芽

講師：①学芸員 寺西 明子

②川崎市市民ミュージアム 主任学芸員 菊地 悠介 氏

※担当（普及担当）：学芸員 寺西 明子（非常勤学芸員 豊田 倫子）

b 連続古文書講座

「藤助日記を読む」

（全3回、無料、ただし初回受講日のみ常設展観覧券が必要、14:00～15:30）

（定員45名 応募者89名〈単回含む事前申込者〉）

概要：「鈴木藤助日記」を読み解き、当時の世相や藤助像に迫る。

・第1回 令和6年2月25日（日）（受講者39名）

「藤助さんと幕末」学芸員 寺西 明子

・第2回 令和6年3月3日（日）（受講者40名）

「旅する藤助さん」非常勤学芸員 根本 佐智子

・第3回 令和6年3月10日（日）（受講者35名）

「藤助さんと家族」学芸員 寺西 明子

※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子

c 展示関連動画（YouTube 配信、無料）

(a) 動画で見る 鈴木藤助 コレクション展「藤助さんと幕末」

公開日：2月16日（金）（令和6年3月31日時点の再生回数484回）

概要：鈴木藤助とはどのような人物かを紹介

(b) 動画で見る 現在の長尾村 コレクション展「藤助さんと幕末」

公開日：2月16日（金）（令和6年3月31日時点の再生回数449回）

概要：鈴木藤助が住んでいた長尾村の過去と現在を紹介

(c) 動画で見る 暦と日記のルール コレクション展「藤助さんと幕末」

公開日：3月13日（水）（令和6年3月31日時点の再生回数287回）

概要：江戸から明治期の暦と「鈴木藤助日記」の記載のルールについて紹介

(d) 動画で見る 藤助さんと食べ物 コレクション展「藤助さんと幕末」

公開日：3月13日（水）（令和6年3月31日時点の再生回数315回）

概要：「鈴木藤助日記」の中でも食べ物の記載に焦点を当てて紹介

※普及担当：主査 岡田 和子

(カ) 令和5年度 かながわの遺跡展「華ひらく律令の世界」

a 特別講演（無料、ただし常設展の観覧券が必要）

(a) 「古代の相模・武蔵と律令国家」

開催日：令和6年2月10日（土）14:00～16:00（定員60名 応募者178名 受講者38名）

概要：相模・武蔵国における律令制度の成立と、制度が導入されることによるかながわの古代社会の変化について、文献資料や官衙などの発掘調査成果から解説いただいた。

講師：東京大学 名誉教授 佐藤 信 氏

(b) 「古代かながわの官衙と交通」

開催日：令和6年2月17日(土)14:00～16:00 (定員60名 応募者287名 受講者40名)

概要：県内の官衙や寺院の調査成果について概観するとともに、発掘にもなってきた古代かながわの律令社会について、研究の現在地を解説いただいた。

講師：東海大学 非常勤講師 田尾 誠敏 氏

ウ 学芸員による展示解説

特別展・特別陳列・コレクション展・遺跡展の担当職員による展示解説

展覧会名	開催日	時間	会場	解説者	受講者(名)
特別陳列「松平造酒 助江戸在勤日記―武士の絵日記―」	4月2日(日)	13:30 ～ 14:00	講堂	非常勤学芸員 根本 佐智子	41
小計					41
特別展「あこがれの 祥啓―啓書記の幻影 と実像―」	5月6日(土)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 橋本 遼太	23
	5月13日(土)				19
	5月20日(土)				19
	5月27日(土)				24
	6月3日(土)				30
	6月10日(土)				31
	6月14日(水)	17:30～ 18:00	特別展 示室		51
		18:15～ 18:45			30
6月17日(土)	13:30～ 14:00	講堂	53		
小計					280
特別展「関東大震災 ―原点は100年前 ―」	8月6日(日)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 武田 周一郎	48
	8月20日(日)				48
	9月2日(土)				63
小計					159
特別展「足柄の仏 像」	10月9日(月祝)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 神野 祐太	51
	10月20日(金)				51
	10月28日(土)				41
	11月11日(土)				50
	11月17日(金)				21
	11月23日(木祝)				58
	11月25日(土)				36
小計					308
令和5年度かながわ の遺跡展「華ひらく 律令の世界」	2月3日(土)	11:00～ 11:30	講堂	文化遺産課 主事 立原 遼平	34
		14:00～ 14:30			23
	2月12日(月祝)	11:00～ 11:30			26
		14:00～ 14:30			31
	3月2日(土)	11:00～ 11:30			41
	小計				

コレクション展「藤助さんと幕末」	2月24日(土)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 寺西 明子	26
	3月2日(土)				21
	3月9日(土)				16
	3月16日(土)				18
小計					81
特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」	3月24日(日)	13:30 ～ 14:00	講堂	学芸員 梯 弘人	40
	3月27日(水)				40
小計					80
合計					1,023

エ ミュージアムトーク「今月の逸品」

常設展示資料より毎月逸品をピックアップし、展示室内で学芸員が解説を行うもの。

※展示室内の混雑緩和のため、ウェブサイトのみでの展開とし、詳しい解説を掲載した。

開催月	逸品テーマ	解説者
4	五姓田義松 明治を描く 一故西川杏太郎元館長への哀悼を込めて	角田 拓朗
5	御上洛東海道	桑山 童奈
6	戦国時代の動乱に巻き込まれた円覚寺と戦国大名北条氏の危機対応	梯 弘人
7	阿部家資料「咬啗吧都督職筆記和解・甲必丹差出候封書和解」石川和助写カ、江戸時代末期、1冊	嶋村 元宏
8	横浜写真アルバムの表紙	鈴木 愛乃
9	方外印 三教図扇面	橋本 遼太
10	あしがらの古文書 ～矢倉沢村田代家文書 矢倉沢関所関係資料～	根本 佐智子
11	東風俗 福つくし	山口 希
12	民権双六	山下 春菜
1	小絵馬	三浦 麻緒
2	阿弥陀如来立像(鎌倉時代)	神野 祐太
3	2冊の震災復興状況写真帳	武田 周一郎

オ その他の行事

(ア) 「旧横浜正金銀行本店本館 建物見学会」(無料、ただし常設展観覧券が必要)

国の重要文化財である旧館部分について、学芸員が案内・解説する。

- ・開催日：4月22日(土) ①10:30～12:00 (定員15名 応募者34名 受講者12名)
②14:00～15:30 (定員15名 応募者24名 受講者13名)
- ・開催日：7月1日(土) ①10:30～12:00 (定員25名 応募者25名 受講者23名)
②14:00～15:30 (定員25名 応募者25名 受講者25名)
- ・開催日：12月6日(水) ①10:30～12:00 (定員25名 応募者42名 受講者22名)
②14:00～15:30 (定員25名 応募者24名 受講者23名)
- ・開催日：3月6日(水) ①10:30～12:00 (定員25名 応募者41名 受講者17名)
②14:00～15:30 (定員25名 応募者24名 受講者16名)

講師：学芸部長 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子／大柳 麻美／市野 悦子

(イ) 博物館入門講座(無料、ただし常設展観覧券が必要、各回定員30名、13:30～16:00)

受講者の博物館利用がより豊かなものになることを目指し、当館の様々な活動や学芸員の仕事につ

いて、講義・見学・体験を交えて紹介する。なお、ボランティアに参加希望者には本講座終了後に令和6年度から活動する博物館ボランティアの募集説明会を行った。

・第1回 9月24日(日) (応募者30名 参加者27名)

館内見学と講義「学芸員の目と技(工芸)」学芸員 鈴木 愛乃

・第2回 10月1日(日) (応募者33名 参加者25名)

館内見学と講義「学芸員の目と技(浮世絵)」非常勤学芸員 山口 希

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(ウ) ミュージアムコンサート (無料、ただし常設展観覧券が必要)

「クラシック・ヨコハマ2023 ミュージアムコンサート in 神奈川県立歴史博物館」

(無料、ただし常設展観覧券が必要)

日時：12月17日(日) 14:00～14:45 (定員60名 応募者193名 参加者47名)

演奏者：カルテットOp.1 (オーパスワン)

福田 麻子 氏、登坂 理利子 氏、衛藤 理子 氏、宮之原 陽太 氏

(ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン修了生)

概要：「クラシック・ヨコハマ2023」(クラシック・ヨコハマ推進委員会、毎日新聞社、横浜市主催)の一環として、室内楽(弦楽四重奏)を実施。

※担当：非常勤学芸員 豊田 倫子

(エ) 講演会

「オランダ別段風説書を読む」

概要：『オランダ別段風説書』の全貌と記述内容について深掘りし説明した。

開催日：1月27日(土) 14:00～16:00 (定員60名 応募者81名 受講者52名)

講師：主任学芸員 嶋村 元宏

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(オ) 館長トーク (無料、ただし常設展観覧券が必要)

a 「徳川家康と“御殿”」

概要：徳川将軍が利用した「御殿」の実態と家康の利用状況などについて説明した。

開催日：7月13日(木) 14:00～15:30 (定員60名 応募者88名 受講者48名)

講師：館長 望月 一樹

※担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

b 「江戸時代、かながわで砂糖製造？」

概要：18世紀後半、大師河原村(現川崎市川崎区大師町周辺)の名主、池上幸豊の砂糖作りの過程を紹介した。

開催日：12月14日(木) 14:00～15:30 (定員60名 応募者63名 受講者50名)

講師：館長 望月 一樹

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(カ) 無料観覧日

a 11月3日(金・祝)

概要：文化の日を特別展及び常設展を無料で観覧いただく日とし、地元の馬車道商店街が主催する「馬車道まつり」に地域の一員として参加した。

入館者：6,940人

b 3月20日(水・祝)

概要：当館の開館(昭和42年3月20日)を記念し、特別陳列及び常設展の無料観覧を実施し、さらに、通常非公開の屋上ドーム・通称「エースのドーム」も特別に公開した。

入館者：1,630人

カ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアム・ミッション 2023

2003年からはじまった地域連携イベントが元になっており、みなとみらい・関内・山手地区にある博物館を巡っていく、夏休みの子ども向け事業。クイズ等の課題(ミッション)をクリアしながら現地を巡ることで、博物館に親しむ機会を創出することをねらいとしたもの。令和2年度からは新型コロナウイルス対策のため特設サイト上でのイベントをメインに行ってきたが、従来の参加館園を巡りシールを集めるラリー形式で実施した。

開催期間：7月21日(金)～8月31日(木)

参加者数：延べ4,041名

開催館園：(11館) 大佛次郎記念館、県立神奈川近代文学館、JICA 横浜 海外移住資料館、シルク博物館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、野毛山動物園、放送ライブラリー、三菱みなとみらい技術館、横浜税関資料展示室「クイーンのひろば」、横浜人形の家、当館

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(イ) おうちでかながわけんぱく

新型コロナウイルス感染症の影響による休校等でおうち時間が増えた子どもたちが楽しめるよう、令和2年4月下旬にホームページ上に新たに開設した子ども向けWEBコンテンツ。当初は子どもを対象としていたが、大人も楽しめるようなコンテンツも作成し、実際の展示の内容とも関連するコンテンツも作成する等、WEBだけで楽しむのではなく、来館にもつながるような内容になるよう工夫している。

閲覧数：44,951回

(ウ) 大学生向け体験講座

「博物館の裏側を知ろう」

開催日：6月25日(日) 13:00～15:30(定員10名 応募者27名 受講者10名)

概要：展示室やバックヤード見学に加え、学芸員の仕事の一部である調書作成・梱包を体験する大学生向けの体験講座であり、博物館の役割を学びながら若年層に博物館活動についてより深く知ってもらう機会とした。

講師：学芸員 鈴木 愛乃・非常勤学芸員 大柳 麻美

※普及担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

(エ) 高校生向け講座(無料、ただし常設展観覧券が必要、定員各回8名、13:30～16:00)

「浮世絵に親しむ」

開催日：第1回 8月22日(火) (応募者7名 受講者7名)

第2回 8月23日(水) (応募者7名 受講者8名)

概要：浮世絵に関心を持った高校生に向け、浮世絵を展示室で鑑賞する他、歴史や作り方などに着目し、浮世絵をより深く知る機会とした。

講師：企画普及課長 桑山 童奈

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(オ) 学んでたのしむ博物館(自由参加、子ども向け)

内容：展示資料に関するワークシートを配布。参加者には記念品を配布。

開催期間：4月1日(土)～3月31日(日) 実施日数258日間(夏休み、無料観覧日は除く)

参加者：1,380名

※担当：非常勤学芸員 大柳 麻美

キ 学校連携事業の状況

(ア) 小・中・高等学校及び特別支援学校等の利用状況

	県 内											
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学 校・学級		その他		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	0	0	0	0	7	273	0	0	0	0	7	273
5 月	0	0	20	837	7	106	0	0	0	0	27	943
6 月	5	475	17	523	1	4	0	0	1	6	24	1,008
7 月	2	71	1	43	1	12	0	0	0	0	4	126
8 月	0	0	2	23	1	8	0	0	3	136	6	167
9 月	6	571	5	197	1	10	0	0	0	0	12	778
10 月	5	447	1	6	1	3	0	0	0	0	7	456
11 月	23	1,838	14	792	2	110	0	0	0	0	39	2,740
12 月	2	175	6	244	0	0	0	0	0	0	8	419
1 月	8	488	8	512	0	0	2	33	1	11	19	1,056
2 月	5	464	10	420	0	0	0	0	0	0	15	884
3 月	0	0	5	151	0	0	0	0	0	0	5	151
合計	56	4,529	89	3,760	21	526	2	33	5	153	173	9,001

	県 外											
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学 校・学級		その他		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	0	0	9	168	10	182	0	0	0	0	19	350
5 月	0	0	19	431	20	569	0	0	0	0	39	1,000
6 月	1	125	11	118	2	159	0	0	0	0	14	402
7 月	0	0	3	119	3	104	0	0	0	0	6	223
8 月	0	0	1	24	1	13	0	0	0	0	2	37
9 月	0	0	13	424	0	0	0	0	0	0	13	424
10 月	5	139	10	190	4	105	0	0	0	0	19	434
11 月	2	98	15	398	3	48	0	0	1	31	21	575
12 月	0	0	3	84	2	75	0	0	0	0	5	159
1 月	0	0	8	317	1	38	0	0	0	0	9	355
2 月	0	0	21	793	1	3	0	0	0	0	22	796
3 月	0	0	7	130	2	40	0	0	0	0	9	170
合計	8	362	120	3,196	49	1,336	0	0	1	31	178	4,925

	令和5年度総計		令和4年度総計		令和3年度総計		令和2年度総計		平成31(令和元)年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	26	623	26	732	16	535	休館		32	1,291
5月	66	1,943	66	2,263	10	567	休館		63	1,536
6月	38	1,410	48	1,928	12	702	0	0	37	1,096
7月	10	349	11	375	8	339	1	2	14	361
8月	8	205	5	112	1	21	0	0	51	594
9月	25	1,202	21	971	0	0	6	199	17	366
10月	26	890	23	815	12	411	9	288	16	491
11月	60	3,315	52	1,982	49	2,018	17	708	58	3,006
12月	13	578	34	1,174	36	1,999	7	372	18	490
1月	28	1,411	25	1,303	7	250	0	0	33	1,159
2月	37	1,680	43	1,388	6	100	休館		14	262
3月	14	321	16	507	54	2,177	7	142	0	0
合計	351	13,926	370	13,550	211	9,119	47	1,711	353	10,652

来館児童・生徒の県内外の内訳

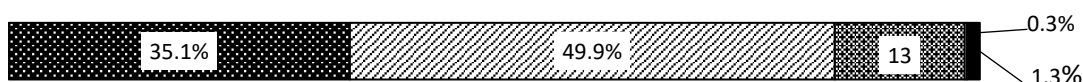
■ 県内 □ 県外



総数 13,926名

来館児童・生徒の校種別内訳

■ 小学校 □ 中学校 ■ 高等学校 □ 特別支援学校 ■ その他



総数 13,926名

(イ) 当館の利用目的 (単位: 校数)

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校・学級
県内	教科学習(社会科等)	21(36.8%)	3(7%)	2(28.6%)	0(0%)
	総合的な学習の時間	0(0%)	8(18.6%)	1(14.3%)	0(0%)
	学校・学年行事(遠足等)	36(63.2%)	32(74.4%)	4(57.1%)	2(100%)
	その他(部活動等)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
	合計		57	43	7

県外	教科学習(社会科等)	2(25%)	1(1.9%)	2(10%)	0(0%)
	総合的な学習の時間	0(0%)	6(11.3%)	2(10%)	0(0%)
	学校・学年行事(遠足等)	6(75%)	46(86.8%)	16(80%)	0(0%)
	その他(部活動等)	0(0%)	0(0%)	0(6%)	0(0%)
	合計	8	53	20	0

※事前連絡校による統計

※義務教育学校、中等教育学校は課程により分類

(ウ) 学校の博物館利用の状況

(単位：校数)

校種	事前準備			博物館活用			利用形態			付帯施設利用		
	FAX連絡校	電話連絡校	下見来館校	ボランティア解説	ワークシート活用	特別依頼	全員一斉	グループ	その他	駐車場	講堂・会議室	その他
小学校	63	62	45	3	30	1	61	3	0	10	36	0
中学校	98	93	33	6	6	1	15	182	3	7	20	29
高等学校	27	26	5	3	0	1	12	51	3	2	2	5
特別支援学校・学級	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0
合計	188	182	85	12	36	3	89	237	6	19	58	34

※事前連絡校による統計

※「ワークシート活用」＝館提供のワークシートを活用して見学。

※「特別依頼」＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。

※付帯施設利用の「その他」＝ライブラリーの利用、エントランスでのチェックポイント設置など。

(エ) ボランティア、学芸員等による解説へのテーマ別対応状況

(単位：延べ校数)

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校・学級	その他
テーマ1 さがみの古代に生きた人びと	0	2	1	0	1
テーマ2 都市鎌倉と中世びと	1	1	0	0	1
テーマ3 近世の街道と庶民文化	0	1	0	0	1
テーマ4 横浜開港と近代化	3	5	2	0	1
テーマ5 現代の神奈川と伝統文化	0	2	0	1	1
特別展示・その他 (含む専門解説)	0	0	1	0	1

(オ) 教員、児童・生徒に向けた資料の提供

小・中学生向けの「小・中学生の歴史学習に関連した展示資料」と、小学校及び中学校教員向けの「歴史学習に対応した主な展示資料」を引き続きホームページに掲載するとともに、下見に来館した教員へ配付するなど、展示の内容を紹介する資料として活用した。

「高校生のための展示資料50」も併せて、ホームページに掲載している。

(カ) ワークシートの作成と活用

児童・生徒向けに「けんぱく見学シート」、「けんぱくクイズ」、「けんぱくミッション」をホームページに掲載し提供した。課題を持って見学するうえで効果的であった。展示替えがあればその都度ワークシートの更新をした。

(キ) 教員対象の講座・研修の実施

教員のための博物館講座

第1回 8月1日(火) 10:00~16:00 参加者 28名

第2回 8月8日(火) 10:00~16:00 参加者 28名

内容(第1回・第2回とも同じ内容) 第1回は「社会体験研修」の5名を含む)

バックヤードツアー・学芸員による常設展示解説・常設展見学・特別展示解説・特別展見学
学芸員による展示資料を活用した教材化のワークショップ

社会体験研修の実施

1日目 8月8日(火) 9:00~17:45 参加者 5名

内容 第1回「教員のための博物館講座」に合同開催

2日目 8月9日(水) 9:00~17:45 参加者 5名

内容 博物館資料の調査と整理、博物館資料のオープンデータベース、博物館の学校利用 等

(ク) 出張講座

休館中の学校連携の一環として開始した、学芸員が講師となり県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をする「出張講座」を実施した。

日付	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年 授業時限数 受講者数
5月16日 (火)	湘南白百合学園中学校	博物館・学芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く様々な職種の職員や学芸員の仕事について実体験に基づき紹介した。	学芸員 寺西 明子	中2 1時限 171名
9月2日 (土)	橘学苑高等学校	博物館・学芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く様々な職種の職員の仕事を紹介するとともに、学芸員の仕事に係るワークショップを行った。	学芸員 寺西 明子	高1 2時限 352名
9月6日 (水)	大和市立桜丘小学校	中世の美術(絵画) 室町絵画の魅力	室町時代の水墨画について、何がどのように描かれ、どのような人々が鑑賞したのかを考えながら、室町文化を紹介した。	学芸員 橋本 遼太	小6 2時限 68名
9月27日 (水)	川崎市立子母口小学校	中世の美術(絵画) 室町絵画の魅力	室町時代の水墨画について、何がどのように描かれ、どのような人々が鑑賞したのかを考えながら、室町文化を紹介した。	学芸員 橋本 遼太	小6 2時限 194名
10月11日 (水)	横須賀市立栗田小学校	鎧兜の移り変わりから見る歴史	講師が鎧を着用して、平安後期から戦国時代にかけての鎧兜の変遷や作り方、社会の変化について紹介した。	学芸員 梯 弘人	小6 1時限 47名
10月13日 (金)	横浜市立綱島小学校	絵図で見る江戸時代	江戸時代の日本図、関東図、武蔵国相模国絵図などに加え、学校がある地域の絵図を見て、地域の歴史を紹介した。	非常勤学芸員 根本 佐智子	小6 3時限 77名
10月26日 (木)	横浜市立相沢小学校	鎧兜の移り変わりから見る歴史	講師が鎧を着用して、平安後期から戦国時代にかけての鎧兜の変遷や作り方、社会の変化について紹介した。	学芸員 梯 弘人	小6 2時限 60名

11月2日 (木)	小田原市 立早川小 学校	自由民権運 動と地域社 会	自由民権運動の基本的な流れや 神奈川県と学校のある地域の運 動を比較しながら、自由民権運 動と地域について紹介した。	非常勤学芸員 山下 春菜	小6 1時限 23名
11月7日 (火)	横浜市立 桂台小学 校	足柄の仏像 を好きにな る	仏像の姿形を実際に体験するこ とにより仏像のかたちについて 紹介した。	学芸員 神野 祐太	小6 2時限 60名
11月14日 (火)	横浜市立 上寺尾小 学校	鎧兜の移り 変わりから 見る歴史	講師が鎧を着用して、平安後期 から戦国時代にかけての鎧兜の 変遷や作り方、社会の変化につ いて紹介した。	学芸員 梯 弘人	小6 3時限 112名
11月17日 (金)	横須賀市 立明浜小 学校	旅のよそお いとかなが わの名所	江戸時代の旅の道具を通じて、 当時の人々の旅の行き先や旅の 仕方などを紹介した。	学芸員 寺西 明子	小6 1時限 86名
11月22日 (水)・24 日(金)	フェリス 女学院高 等学校	中世の美術 (絵画) 室町絵画の 魅力	室町時代の水墨画について、何 がどのように描かれ、どのよう な人々が鑑賞したのかを考えな がら、室町文化を紹介した。	学芸員 橋本 遼太	高2 2時限 35名
11月30日 (木)	横浜市立 上飯田小 学校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く 様々な職種の職員や学芸員の仕 事について実体験に基づき紹介 した。	学芸員 鈴木 愛乃	小6 2時限 83名
12月8日 (金)	川崎市立 下沼部小 学校	鎧兜の移り 変わりから 見る歴史	講師が鎧を着用して、平安後期 から戦国時代にかけての鎧兜の 変遷や作り方、社会の変化につ いて紹介した。	学芸員 梯 弘人	小6 2時限 143名
1月12日 (金)	フェリス 女学院中 学校	中世武士の 鎌倉	生徒に身近な映画をモチーフに 鎌倉時代の人々の心証について 紹介した。	学芸員 渡邊 浩貴	中2 3時限 190名
1月19日 (金)	横浜市立 新田中学 校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで働く 様々な職種の職員や学芸員の仕 事について実体験に基づき紹介 した。	主任学芸員 新井 裕美	中1 2時限 75名
1月25日 (木)	相模原市 立共和小 学校	日本の開国 と異文化交 流	ペリー来航、横浜開港など、日 本の開国過程、幕末明治期の異 文化交流について紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	小6 3時限 124名
2月20日 (火)	平塚市立 岡崎小学 校	江戸時代の 浮世絵を学 ぶ	浮世絵の歴史、木版画の技術、 題材、歌麿、北斎、広重など浮 世絵師の魅力について紹介し た。	企画普及課長 桑山 童奈	小6 2時限 77名
合 計					36時限 1,977名

(ケ) 大学団体利用

授業内容等の専門性を高めるため、常設展または特別展等の見学や学芸員による解説を行う。

【受入実績】

	見 学 日	大 学 名	人 数 (名)
1	4月15日(土)	鶴見大学	57
2	5月14日(日)	明治学院大学	8

3	5月21日(日)	日本女子大学	16
4	6月4日(日)	法政大学	23
5	6月6日(火)	神奈川大学	12
6	6月8日(木)	学習院大学	12
7	6月10日(土)	実践女子大学	8
8	6月24日(土)	フェリス女学院大学	4
9	6月28日(水)	関東学院大学	15
10	7月1日(土)	創価大学	16
11	7月21日(金)	米加大学連合日本研究センター	7
12	8月4日(金)	東海大学	12
13	8月8日(火)	東洋英和女学院大学	10
14	9月21日(木)	フェリス女学院大学	12
15	9月27日(水)	防衛大学	10
16	10月25日(水)	早稲田大学	12
17	11月7日(土)	神奈川大学	27
18	12月16日(土)	神奈川大学	35
19	1月21日(日)	東京家政大学	9
20	1月26日(金)	川村学園大学	5
21	1月28日(日)	聖心女子大学	20
22	2月7日(水)	政策研究大学院大学	29
23	2月9日(金)	横浜デザイン学院	225
24	2月21日(水)	政策研究大学院大学	28
25	3月5日(火)	防衛大学	22
26	3月7日(木)	国際協力機構横浜センター	11
合 計			645

(7) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。

図書、情報システム端末（デジタルミュージアム・蔵書検索・デジタルアーカイブ用）などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことができる。

職員1名以上が常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している。（図書、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載）

令和5年度の利用者総数は11,148名で、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は8.6%。

ア 閲覧用座席数

16席、来館者用情報システム端末：2台

イ 利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
小学生	139	144	116	169	433	90	114	88	97	165	164	169	1,888
中学生	13	214	20	13	47	5	9	23	8	24	21	6	403
高校生	7	12	8	4	15	1	11	3	2	16	6	6	91
大学生	24	9	33	19	23	34	2	10	7	14	9	8	192
一般成人	382	504	405	404	825	480	404	446	292	380	445	470	5,437
65歳以上	225	245	263	156	329	329	271	359	193	164	219	282	3,035
生徒引率	6	8	6	0	26	0	0	28	0	0	28	0	102
合計	796	1,136	851	765	1,698	939	811	957	599	763	892	941	11,148
開館日数(日)	24	26	25	24	27	25	26	25	22	22	24	25	295
1日平均	33.2	43.7	34.0	31.9	62.9	37.6	31.2	38.3	27.2	34.7	37.2	37.6	37.8

ウ 利用形態

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
図書閲覧	266	346	346	263	461	407	362	432	270	295	342	357	4,147
情報システム端末	7	7	19	6	15	18	5	15	17	9	23	17	158
各種照会※	267	283	286	198	425	338	304	336	187	206	255	228	3,313
ワークシート	151	132	101	582	0	92	79	51	100	130	154	136	1,708
コピー	(件数)	22	33	32	22	25	19	32	21	15	17	21	275
サービス	(枚数)	284	387	670	479	241	258	503	375	190	276	139	4,053

※レファレンス、写真資料の特別利用、ポスター掲出・チラシ配架、周辺施設案内など

(8) 普及印刷物

ア 図録

- ・特別展図録「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」
令和5年4月28日神奈川県立歴史博物館発行
- ・特別展図録「関東大震災—原点は100年前—」
令和5年7月28日神奈川県立歴史博物館発行
- ・特別展図録「足柄の仏像」
令和5年10月6日神奈川県立歴史博物館発行

イ 広報印刷物

- ・特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」ポスター・チラシ
- ・特別展「関東大震災—原点は100年前—」ポスター・チラシ
- ・特別展「足柄の仏像」ポスター・チラシ
- ・コレクション展「藤助さんと幕末」ポスター
- ・特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」ポスター
- ・コレクション展「藤助さんと幕末」／特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」チラシ
- ・「催し物のご案内（2024年4月～2024年12月）」

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.29 No.1 通巻223号 令和5年5月30日(2,000部)
- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.29 No.2 通巻224号 令和5年8月7日(2,000部)
- 『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.29 No.3 通巻225号 令和6年2月27日(2,000部)

(9) ボランティアの活動

博物館ボランティアについては、展示解説ボランティアの活動を平成9年度から開始し、平成13年度から活動年数を最長5年とした。また、写真職が撮影したフィルムをスキャンしデジタル化する作業に従事するボランティアもいた。平成22年度からは行事補助ボランティアを導入して活動を拡大した。

令和5年度のボランティア人数は102名（令和6年3月末日現在）である（詳細は下記「(イ)ボランティア数」参照）。令和7年1月以降工事休館を予定しているため令和5年度の採用人数が多くは見込めなかったことや技術継承の観点から18期と19期の希望者に延長をお願いした。令和5年度は新規ボランティアの募集を行い、25期として26名が新たに令和6年度からボランティアとして活動することになった。

ア 活動状況及び実績

新型コロナウイルスの影響で中止していた特別展の展示解説を特別展「あこがれの祥啓」から再開した。11時と14時30分からの1日2回開催し、当初は15分程度の制限を設けていたがコロナウイルスが5類になったことに伴い制限を緩和した。

ボランティア全体の館外研修を12月5日（火）（参加者33名）と12月9日（土）（参加者21名）に2日間に分けて横須賀市自然・人文博物館で開催した。7月9日（日）と7月23日（日）にボランティ

アを対象としたフォローアップ研修も開催した（各日時間帯を2つに分けて実施）。特別展「関東大震災—原点は100年前—」に関連し、横浜地方気象台と連携し、横浜地方気象台の見学会を8月10日（木）に10時～11時、13時30分～14時30分の2回に分けて実施した。館長講話を9月29日（金）と9月30日（土）の2日間に分けて行った。また、令和4年度の専門研修の際に古代担当の学芸員が不在で、専門研修ができなかったため、令和6年1月20日（土）に古代の担当学芸員によるフォローアップ研修を実施した。

ボランティア会では、幹事会（各曜日班から2名の幹事を選出）を組織し、月1回、館側の担当者と様々な調整や情報・意見交換を行うほか、年3回『ボランティアニュース』の編集・発行や、自主的な研修の企画等を行っている。

【参考：コロナ禍以前の活動内容】

展示解説ボランティア：常設展の展示解説、特別展開催中には1日2回の定時解説（11時、15時）を行うほか、看視や来観者案内を行う。

行事補助ボランティア：子ども向け行事等の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行う。

(ア) 活動日数及び人数

月	活動日数(日)	延べ活動人数(名)
4	24	317
5	26	345
6	25	306
7	24	290
8	27	332
9	25	281
10	26	318
11	25	304
12	22	211
1	22	243
2	24	262
3	25	304
合計	295	3,513

(イ) ボランティア数(令和6年3月末現在)

展示解説ボランティア 計102名

火曜班：15名、水曜班：14名、木曜班：14名、金曜班：14名、土曜班：13名、日曜班：15名

行事補助ボランティア 計17名

年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	1	1
30	1	1	2
40	1	0	1
50	2	3	5
60	21	16	37
70	40	16	56
合計	65	37	102
平均年齢	69.5	65.6	68.1

イ 専門研修

翌年度の新規採用ボランティアを対象として、展示解説に必要な常設展示に関する知識や資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施した。

実施日：1月14日（日）、21日（日）、28日（日）、2月4日（日）、11日（日）、18日（日）、23日（金・祝）

ウ その他の研修

(ア) 特別展勉強会

特別展「あこがれの祥啓—啓書記の幻影と実像—」・特別展「関東大震災—原点は100年前—」・特別展「足柄の仏像」・かながわの遺跡展「華ひらく律令の世界」・コレクション展「藤助さんと幕末」・特別陳列「戦国大名北条氏と西相模・伊豆」開催にあたり、看視活動に備えるため、必要な資料を配布した。コロナ禍以前は展示室内で行っていたが、令和5年度は最初講堂で30分程度講義をした後に17時以降展示室内で解説を行った。

(イ) フォローアップ研修

常設展示等解説のフォローアップとして、例年、常設展等からテーマを決めて研修講座を実施している。令和5年度は下記の通り実施した。

- ・テーマ4 近代（近世「蒸気船が導いた新たな時代」関係資料について アヘン戦争からペリー来航までの関連資料について）
令和5年7月9日（日）15時～15時40分、16時～16時40分（主任学芸員 嶋村元宏）
 - ・テーマ3 中世（中世・源義朝の鎌倉 なぜ鎌倉幕府は鎌倉という地に幕府を築いたのか）
令和5年7月23日（日）15時～15時40分、16時～16時40分（学芸員 渡邊浩貴）
 - ・横浜地方気象台見学会
令和5年8月10日（木）10時～11時、13時30分～14時30分（横浜地方気象台職員）
 - ・館長講話
令和5年9月29日（金）、30日（土）15時45分～17時（館長 望月一樹）
 - ・テーマ1 古代
令和6年1月20日（土）14時30分～15時30分、16時～17時（学芸員 佐藤兼理）
- ※新型コロナウイルス感染防止の為分割して行った。

(10) 博物館実習生の受入れ

「神奈川県立歴史博物館博物館実習生受入要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア 見学実習

当館の概要（歴史・施設・組織・展示や事業概要など）について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行う。

【受入実績】

	見 学 日	大 学 名	人 数 (名)
1	6月16日（金）	日本大学	8
2	7月9日（日）	日本女子大学	146
3	8月2日（水）	玉川大学	16
4	8月29日（火）	日本女子大学	12
5	8月31日（木）	日本女子大学	14
6	11月12日（日）	東海大学	27
7	12月9日（土）	日本大学	42
		合 計	270

イ 実務実習

博物館運営に関わる業務や教育普及事業、博物館の資料の取扱いや整理の方法などについて学ぶ全6日間の実習を行った。

○応 募 数：25 大学30名

○受 入 数：16 大学16名

○実 受 入 数 : 16 大学 16 名

○実受入大学名 : 跡見学園女子大学、大阪芸術大学、神奈川大学、駒沢女子大学、駒沢大学、聖心女子大学、千葉大学、中央大学、鶴見大学、帝京大学、東海大学、東京学芸大学、東京都立大学、日本女子大学、日本大学、立教大学

(1 大学につき 1 名)

【実習内容】

	日 付	内 容
第 1 日	9 月 6 日 (水)	ガイダンス、当館の概要、館内・バックヤード見学、博物館の広報とデザイン、学校連携、最終日の課題について
第 2 日	9 月 7 日 (木)	ボランティア活動、資料の受入と収蔵資料データベース (情報システム)、写真資料の役割と保存、写場見学・撮影体験、資料保存と環境
第 3 日	9 月 8 日 (金)	歴史資料の取扱い方 (中世資料の調書の取り方、近代資料の整理と運搬)
第 4 日	9 月 13 日 (水)	美術資料の取扱い方 (立体資料の展示・梱包、平面資料の調書の取り方)
第 5 日	9 月 14 日 (木)	民俗資料の取扱い方 (展示・梱包・クリーニングと採番) 考古資料の取扱い方 (展示・梱包・調書の取り方)
第 6 日	9 月 15 日 (金)	教育普及の実践と発表 (常設展近世コーナーの子ども向け模擬展示のプラン、キャプション、ワークシートの作成)

6 資料

(1) 条例・規則

ア 神奈川県立の博物館条例

〔 昭和41年10月7日
条例第43号 〕

最終改正 平成28年10月21日条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 博物館法(昭和26年法律第285号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通5丁目60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田499番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第3条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者という。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。（昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）

(略)

附 則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く)	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 200円	同 150円
	65歳以上の者	同 100円	同 100円
	高 校 生		

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

〔昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号〕

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関する事。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関する事。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関する事。
- (4) 人事に関する事。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関する事。
- (6) 予算の経理に関する事。
- (7) 観覧料の徴収に関する事。
- (8) 物品の調達及び処分に関する事。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関する事。
- (10) その他他部課の主管に属しない事。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関する事。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関する事。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関する事。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関する事。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

〔 昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号 〕

最終改正 令和5年3月31日教育委員会規則第15号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第31条第1項の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

(略)

附 則(令和5年3月31日教育委員会規則第15号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

(2) 利用案内

- 1 名称：神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
- 2 所在地：横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
- 3 電話：045-201-0926(代表)
- 4 FAX：045-201-7364
- 5 ホームページ：<https://ch.kanagawa-museum.jp/>
- 6 交通：みなとみらい線「馬車道駅」3・5番出口から徒歩1分、
横浜市営地下鉄「関内駅」9番出口から徒歩5分、JR「桜木町駅」新南口（ICカード専用）
から徒歩5分
- 7 休館日：月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
- 8 観覧料：常設展
 - ・20歳以上(学生を除く)：300円(250円) ()内は20名以上の団体
 - ・20歳未満及び学生：200円(150円)
 - ・高校生及び65歳以上：100円(100円)
 - ・中学生以下及び障害者手帳等をお持ちの方は無料特別展
 - ・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。コレクション展
 - ・無料
- 9 団体見学：事前にご連絡ください。
- 10 地図



神奈川県立歴史博物館年報 令和5年度

令和6(2024)年8月8日

編集・発行 〒231-0006

横浜市中区南仲通 5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2023.4~2024.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, JAPAN